

# 読解力向上のための指導事例集 の活用の仕方と 読解力に関する課題集

平成19年3月

学力向上拠点形成事業

「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」

## は　じ　め　に

学力向上拠点形成事業・文部科学省委嘱「わかる授業実現のための教科指導力向上プログラム」研究会（国語）読解力向上プログラムに係る「読解力向上のための指導事例集」作成のための委嘱事業を、横浜国立大学教育人間学部附属教育実践総合センターが受けました。また、その実践上の研究機関として、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校が本事業を推進いたしました。

この委嘱事業の内容は、児童生徒の学習意欲や知識・技能を活用する力の育成などの今日的な課題に対応し、教員の実践的な教科指導力の向上を図るため、教育委員会と大学・教育研究団体等との連携・協力による「教科指導力向上プログラム」を開発・実施することにより、「わかる授業」を実現し、「確かな学力」の向上に資することを目的とするものであります。委嘱期間は、平成17年度と18年度との2年間でした。

調査研究のテーマは、『「確かな学力」の育成に関わる「読解力」向上のための研究一小学校・中学校・高等学校 国語科を中心とした全教科ならびに総合的な学習の時間一』です。

児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるためには、今日的な課題に対応しながら「わかる授業実現」をしていく必要があります。そうした今日的課題の中でも大きな問題となっているものの一つに、PISA調査における「読解力」の育成があります。

このPISA調査の「読解力」については、文部科学省が平成17年12月に作成した「読解力向上のための指導資料」があり、その有効活用を図っていくことが求められています。そこで、本研究においては、昨年度「読解力向上のための指導資料」に基づき作成した「読解力向上のための指導事例集」の活用の仕方と、「読解力」がどのように身に付いているか調査した結果と課題についてまとめた「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」を作成し、小・中・高等学校の各教科等における「読解力向上」のための授業改善の推進に資するようにすることを目的とし、事業を行いました。

平成18年度には、「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成委員会を開催し、研究を深めて参りました。本年度は、主に、国語科を中心としながら、全教科にわたる「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題」に関する以下の3点について、まとめました。

- (1) PISA型「読解力」向上を図る授業提案を中心とし、最低必要限の解説や資料を加える。
- (2) 「読解力向上のための指導資料」の指導例の具体化又は指導例を踏まえた授業実践を工夫する。
- (3) 小・中・高等学校における読解力向上のためのカリキュラム編成のための解説や資料、指導例を作成する。

平成19年3月

学力向上拠点形成事業・文部科学省委嘱「わかる授業実現のための教科指導力向上プログラム」研究会（国語）読解力向上プログラムに係る「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成委員会

委員長 高木 展郎

## 「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」 目次

○はじめに (p1) 学力向上拠点事業・文部科学省委嘱「わかる授業実現のための教科指導力向上プログラム」研究会（国語）読解力向上プログラムに係る「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成委員会  
委員長 高木 展郎(横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター)

○目次 (p2~3)

○「読解力」について (p4~6) 高木 展郎

### I 部 指導事例集活用例 (p7~43)

小学校	ウ (ア) (国語)	弓場 順枝	(p 8 ~ 9)
	ウ (ア) (国語)	井手 次郎	(p10 ~ 11)
	ウ (ア) (国語)	安富 江理	(p12 ~ 13)
	ア (ウ) (家庭)	山本 純	(p14 ~ 15)
中学校	ア (ア) (国語)	田沼 良宣	(p16 ~ 17)
	ウ (ア) (国語)	今村 高治	(p18 ~ 19)
	ウ (イ) (国語)	竹下 恭子	(p20 ~ 21)
	ウ (ア) (社会)	柿崎 順子	(p22 ~ 23)
	ア (イ) (数学)	大谷 一	(p24 ~ 25)
	イ (ア) (理科)	関谷 育雄	(p26 ~ 27)
	ウ (イ) (音楽)	杉山 利行	(p28 ~ 29)
	イ (イ) (美術)	三浦 匡	(p30 ~ 31)
	ア (ウ) (保健体育)	末岡 洋一	(p32 ~ 33)
	ウ (イ) (技術)	朝比奈 忍	(p34 ~ 35)
	ウ (イ) (英語)	平間 貴志	(p36 ~ 37)
	イ (ア) (総合的な学習)	杉本 直美	(p38 ~ 39)
高等学校	ア (イ) (国語)	遠藤 広樹	(p40 ~ 41)
	イ (ア) (国語)	松岡 豊	(p42 ~ 43)

○コラム 「PISA型読解力に関するQ & A ①」 黒尾 敏 (p44)

### II 部 「読解力」評価問題 (p45~68)

評価についての考え方	高木 展郎	(p46 ~ 47)
評価問題例 小学校	ア (イ) (国語)	中村 弘志 (p48 ~ 49)
	ア (イ) (国語)	鈴木 彰 (p50 ~ 51)
	ア (イ) (国語)	茅野 政徳 (p52 ~ 53)

中学校	イ (ア) (国語)	栗本 郁夫	(p54)
	ウ (ア) (国語)	中村 純子	(p55)
	ウ (イ) (社会)	三藤あさみ	(p56)
	ア (イ) (数学)	大谷 一	(p57)
	ウ (ア) (理科)	五十嵐俊也	(p58)
	ウ (イ) (音楽)	杉山 利行	(p59)
	ウ (ア) イ (ア) (美術)	三浦 匠	(p60)
	ア (ウ) (保健体育)	末岡 洋一	(p61)
	ア (ア) (家庭)	西岡 正江	(p62)
	イ (イ) (英語)	小嶋 丈典	(p63)
高等学校	ア (ア) (国語)	高松 洋司	(p64 ~ 65)
	イ (ア) (国語)	西村 礼子	(p66 ~ 67)

### Ⅲ部 「読解力」評価問題の分析 (p69~81)

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

### Ⅳ部 「読解力」育成のための指導案例 (p83~100)

指導案の考え方		岩間 正則	(p84)
指導案例	中学校	ア (ア) (国語)	岩間 正則 (p85 ~ 88)
	小学校	ア (ウ) (国語)	高木 篤子 (p89 ~ 92)
	中学校	イ (ア) (数学)	水谷 尚人 (p93 ~ 96)
		ア (ウ) (保健体育)	末岡 洋一 (p97 ~ 100)

### Ⅴ部 「読解力」向上のための学校としての取り組み例 (p101~104)

横浜市立桜岡小学校 (p102)

竹原市立忠海中学校 (p103)

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (p104)

### ○コラム 「PISA型読解力に関するQ & A ②」 黒尾 敏 (p105)

### ○あとがき (p107) 岩間 正則

### ○委員一覧 (p108)

## 「読解力」について

### 1. PISA型「読解力」とは何か

本課題集で対象とする「読解力」は、PISA型「読解力」のことであり、これまでの教科国語で行われてきた読解力とは、その内容を異にする。すでに周知されつつあるが、PISA型「読解力」とは、文部科学省が出した『読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—』(平成17年12月)には、次のように定義されている。

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するためには、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力。

上記の定義は、抽象度の高いものとなっており、この内容を解釈し、それぞれの新たな定義化を図っている事例も認められる。本来、文部科学省が示しているものを発展させたり、拡大して解釈した内容になっている事例もある。上記に示した定義は、OECDが示したものと翻訳したものであり、PISA調査全体の中で、Reading Literacy(読解力)として位置づけられた中での定義となっていることに注意したい。

このOECDのReading Literacyの定義を持って、日本の学校教育における内容に直接的に置き換えてPISA型「読解力」とすると、文部科学省が出した『読解力向上プログラム』や『読解力向上に関する指導資料』に示されている日本の子どもたちに育成すべき内容が焦点化されなくなることがある。今日、PISA型「読解力」に対しての意識の高まりは認められるものの、その方向性がずれたものとなっては、本来考えられている方向性と異なったものとなってしまう。

では、上記の定義を具現するものは何かは、次に示す「読解のプロセス」における次の3つに整理されよう。

#### (1) 情報の取り出し

テキストに書かれている情報を正確に取り出す。

#### (2) 解釈

書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりする。

#### (3) 熟考・評価

テキストに書かれていることを知識や考え方、経験と結びつける。

この3つのプロセスは、PISA型「読解力」の具体的な内容を示している。

これまで「読解力」というと、教科国語における読解力を対象としてきた。この教科国語における読解力ということばが、これまで定着してきたために、PISA型「読解力」に対しても、教科国語の読解力と同様の内容であるとの誤解が生じている。

教科国語の読解力は、いわゆる本文に沿って読むという、受容ということが中心となっていることが多い。対象を読むという行為に限定されたものであり、そこから読み取ることを読解してきた。そのことの延長に、PISA型「読解力」もあると考えがちであるが、そうではない。PISA型「読解力」は、これまでの読解力とは、異なるものであるとの認

識を持つことが必要である。

このことについて、文部科学省『読解力向上プログラム』（平成 17 年 12 月）では、次のように示している。

「読解力」とは、文章や資料から「情報を取り出す」ことに加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」することを含むものであり、以下のような特徴を有しているといえる。

- ①テキストに書かれた「情報の取り出し」だけではなく、「理解・評価」（解釈・熟考）も含んでいること。
- ②テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの「活用」も含んでいること。
- ③テキストの「内容」だけではなく、構造・形式や表現法も、評価すべき対象となること。
- ④テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけでなく図、グラフ、表などの「非連続型テキスト」を含んでいること。

なお、PISA 調査の「読解力」とは、「Reading Literacy」の訳であるが、わが国の国語教育等で従来用いられてきた「読解」ないしは「読解力」という語の意味するところとは大きく異なるので、本プログラムでは単に「読解力」とはせずに、あえて PISA 型「読解力」と表記することとした。

さらに、文部科学省『読解力向上に関する指導資料 — PISA 調査(読解力)の結果分析と改善の方向—』（平成 17 年 12 月）の「II PISA 調査(読解力)の結果を踏まえた指導の改善」として、次のような「読解力」の記述がある。

読解力は、国語だけではなく、各教科、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体で身に付けていくべきものであり、教科等の枠を超えた共通理解と取組の推進が重要である。

ここでもまた、PISA 型「読解力」は、教科国語のみで育成する学力ではないことを述べている。これらの説明を踏まえ、PISA 型「読解力」を理解することが重要である。

## 2. 学校教育に求められるPISA型「読解力」の具体的な方向

前述の『読解力向上プログラム』には、次のような指摘がある。

各学校においては、教科国語を中心としつつ、各教科、総合的な学習の時間等を通じて、次のような方向（3 つの重点目標）で、改善の取組を行う必要がある。

【目標①】テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実

【目標②】テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取組の充実

### 【目標③】様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

ここに認められることは、ここまで繰り返し述べている、教科国語のみでなく、各教科、総合的な学習の時間等を通じて、その育成を図るということである。このことは、学校教育における様々な学習活動の中で、PISA型「読解力」を、位置づけることが問われていることにもなる。

この3つの重点目標を、具体的なPISA型「読解力」として指導するときのねらいが以下のように提示されている。

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

(イ) 評価しながら読む能力の育成

(ウ) 課題に即応した読む能力の育成

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

(ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成

(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

この7つの「指導のねらい」を実行・実践し、そこでの学力の育成を図ることが、今日の日本の学校における授業に求められているPISA型「読解力」の具体となる。

### 3. PISA型「読解力」の学習プロセス

教科国語をはじめ、各教科・総合的な学習の時間で育成するPISA型「読解力」の学習のプロセスは、「受信する→考える→発信する」という一連のものを対象としており、単に、対象を読む、ということのみにおいていない。

上記7つの「指導のねらい」のそれぞれに、「受信する→考える→発信する」という学習プロセスを通し、7つの「指導のねらい」に示されている能力の育成を図ることが求められている。

この7つの「指導のねらい」には、7つそれぞれに「受信する→考える→発信する」というプロセスを行うことに意味がある。それは、「ア」が受信する、「イ」が発信する、「ウ」が考える、というような内容を分離してとらえることではない。「受信する→考える→発信する」という一連の学習プロセスそのものに、PISA型「読解力」で育成すべき学力が内在しているといえる。

このことは、各教科や総合的な学習の時間をとおして、それぞれの学習過程を行う中で、上記7つの「指導のねらい」に示された能力の育成を図っていく、ということになる。このことが、これから時代に求められる「読解力」の育成である。

# I 部 指導事例集 活用例

## 「きつね」の出てくる物語を探して読み合い、人物像を紹介し合う

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

読んでいる間に心にひらめいたものを大切にし、その感想を語り、本の楽しさを友と共有する

P18,19 (国語・小3)

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 自覚的な読みの能力を育成するために、多様な読みの方法を知らせ、児童自身が読みの方法を選択できるようにしたい。
- (2) 紹介する様式を明確にし、学年に応じた言葉や呼びかけ、構成を工夫させたい。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

多様なテキストを自覚的に読み、テキストのよさを評価語彙を使って紹介できる能力の育成

### 4 主たる評価規準

「きつね」が主人公として登場する作品を探して読み、構成や主人公の性格・状況設定について分析し、人物像を紹介している。

### 5 単元・題材・教材名

「ごんぎつね」の仲間を探して読み合おう

「ごんぎつね」(光村図書 四年 下)

きつねの出てくる読み物

### 6 指導のねらい

日常の読書活動は、一人一人が好きな作品世界に浸って読むことが中心となりがちである。読書量は増えても、読書の幅は広がりにくくい。

そのため、時にはテーマやジャンルにこだわった読みを行い、互いに共有できる範囲で情報交換をさせながら、読書の幅や楽しみを増やしていくことも重要である。

今回は、絵本や物語を軸にして、「きつねが主人公の読み物」に限定することで、作品の持つ共通性やキャラクターの特性に目を向け、読むことの楽しさだけでなく、人物像を紹介し合う楽しさも実感させたい。

### 7 単元・題材・教材について

事前に、読書記録から選んだ「きつね」作品のブックリストを準備したい。

教材「ごんぎつね」は、「山に住むひとりぼっちの小ぎつね」が主人公になっている。クライマックスの場面が印象的で、児童の多くは、物語の半ばから主人公のことが大好きになる。

この教材と他の作品を並行読書させ、行動や情景描写を手がかりに、描かれ方の相異点や共通点を分析させたい。

児童が興味をもって読み進むことが出来るよう、「怪傑ゾロリシリーズ」なども範囲にいれておきたい。

### 8 使用するテキストについて

今回は、教科書教材をきっかけとして、「きつねが主人公の話」に焦点を絞り、検索し、読み進めていく。

生き物が登場人物（主人公）となっている作品は数多い。人間との交流が描かれている物語もあれば、動物の世界を擬人化し、友情

や冒険をテーマにした作品も多い。特に、きつねは、人間世界との結びつきから、様々な人物像を読みとることが出来る。重ね読みのテキストとして相応しいと考える。

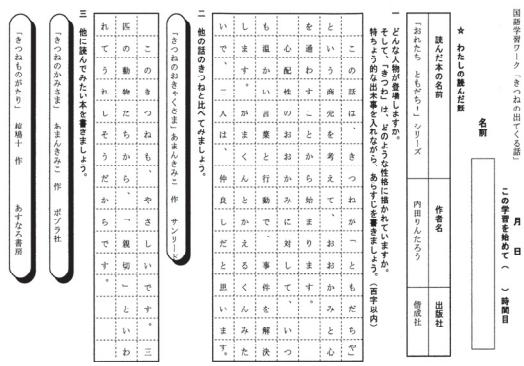
## 9 授業の実際（9時間扱い）

次	時	主な学習活動
一	1	①読書記録を振り返り、人気作品の中から「きつねのかみさま」を選んで読み聞かせを聞く。
	2	②他の【きつねが出てくる】話を思いだし、紹介し合う。
	3	③教科書「ごんぎつね」を読み合い、学習課題「きつねの出てくる話を読んで人物像を紹介し合おう」を決め、学習計画を立てる。
二	4	④行動・心情語彙を手がかりに教材を読む。
	5	並行読書
二	6	⑤「ごん」がどのような人物に描かれているのか話し合う。
	7	⑥教材「ごんぎつね」を主人公の性格や状況を中心にして紹介文を書く。
三	8	⑦並行読書した作品の中から数冊を選び、人物像を比較して、紹介文を書く。
	9	⑧選んだ作品を紹介し合う・

### (1) 第二次 6 時 学習ワーク

三 この練習で、一番楽しく感じたことは何ですか。 五十字以内で書いてみましょう。	二 読み終えた後、「あなたは、こんなことを語りかけだくなりましたか。 話して書きたい」とおもって書いてみましょう。	6 5 4 3 2 1 各場面で書いた後、「こんなことを語りかけだくなりましたか。 話して書きたい」とおもって書いてみましょう。	物語をシナリオに書き直して自分たちで朗説劇をしよう 自分の感じた「こんなことを語りかけだくなりましたか。 話して書きたい」とおもって書いてみましょう。
--	---	---	---

### (2) 第三次 8 時 学習ワーク



## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) ブックリストの題名から想像しても、きつねは、様々な性格で作品に登場していることが分かる。それだけでも、児童の興味を喚起するには十分である。さらに、読みの目的を明確にして重ね読みをしていくことで、自覚的な読みの力が伸びていくであろう。
- (2) 人物像を紹介するためには、作品の構成や登場人物相互の交友関係、加えて状況設定を読みとることが必要である。「ともだち」シリーズなどは、きつねとおおかみの交友関係が主題となっており、シリーズを重ね読みするだけで、人物像が浮かび上がってくる。これは、「シリーズを読む」という重要な読み方の一つとなる。

## 11 まとめ

読みの課題や目的が明確なとき、児童は、全体構成や文脈のつながりを意識した読みに留まらず、情景や行動の描写が引き出す効果についても感じながら読むことが出来るようになる。

また、何を目的とした読書であるのかを児童一人ひとりが理解し、自ら検索できる能力を高めることも重要である。こうした学習の積み重ねが、読みの多様化ならびにテキストの特性に応じた読みの力の育成につながると考える。

(弓場 順枝)

## 国語・小1

絵本を読む中で自分が見つけた楽しさやおどろきを、  
自分の言葉で自信をもって相手に伝える

ウ(ア)多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

読んでいる間に心にひらめいたものを大切にし、その感想を語り本の楽しさを友と共有する。

p18,19(国語・小3)

### 2 参考事例の活用の視点

- (1)シリーズものの絵本をアニメーション的な手法を使って、挿絵と文章を重ね合わせて読み、子どもたちが読書の楽しさを感じ取っていくこと。
- (2)子どもたちが自分の読んだ絵本の楽しさを相手に伝えたくなるような手引きを用意し、それぞれの読みを交流し合うこと。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

実生活における子どもの読書活動を一層推進していくために、シリーズものの絵本を文章だけではなく挿絵と合わせて読み、主人公の行動を比べたり重ねたりしながら楽しむ事を通して、多様なテキストに対応した読む能力の育成を図る。

### 4 主たる評価基準

自覚的な読みの能力を育成するために、「同じシリーズ」の絵本を読む中で、物語の枠組みの中で、自分の感じ方た事を理由も合わせて言葉にして相手に伝えることができたか。

### 5 単元・題材・教材名

「おはなし だいすき」  
～「ひとまねこざる」シリーズをよんで。  
わたしの見つけたおどろきジョージ～

### 6 指導のねらい

読書の発達段階において、「読み聞かせ」から次第に「ひとり読み」に移行し始めるこの時期の

子どもたちが、多様なテキストとの出会いを大切にし、読書に親しんで欲しいと感じている。子どもたちが、本を選ぶための観点としてやさしい読み物の中でシリーズものの作品を選ぶという視点を与えていきたい。その際に読書の楽しみ方として、ストーリーを楽しむ。挿絵を楽しむ、想像して楽しむ、自分と置き換えて楽しむなど、様々な楽しみ方がある事を感じ取らせていく。そして、一人一人が感じ取った作品の面白さを交流し合うことにより、更に本を読むことに興味をもち読書の幅を広げていくことをねらっている。

### 7 単元・題材について

岩波書店刊の「ひとまねこざる」シリーズの6冊を使って学習を行う。

単元の導入部分では、主人公のおさるのジョージや作品に親しみをもち学習への興味や想像が広がるようにアニメーションの手法を用いる。次に物語の面白さを見つけるための「手引き」を準備して個の読みや言語活動の時間を十分に保障していく。そして、最後に「手引き」に従って一人一人が物語の中で見つけた自分の面白さを交流仕合い作品のもつ楽しさを味わう。学習後も他にもあるシリーズものの作品の情報を提供するなどして、個の読書生活へつなげていく働きかけを行う。

### 8 使用するテキストについて

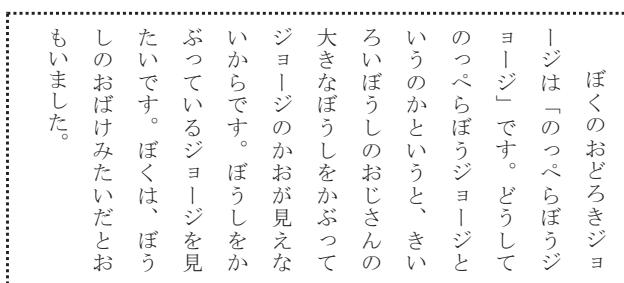
内容的には、全ておさるのジョージの知りたがりが原因で引き起こす様々な失敗や事件、ジョージの知恵や機転、黄色いぼうしのおじさんや周囲の人との温かいふれあいを通して事件が解決する展開である。子どもたちがジョージを自分自身に同化させ共感しながら読み、お話の世界に子どもたちを引き込まれ、ジョージのキャラクターの枠組みの中で想像的な読みが出来る良さが作品にあ

ると考えた。また、文体はやさしい言葉で全てひらがなで書かれているために、本を読むことが苦手な子どもでも、抵抗感なく受け入れることが可能である。文字に対応した挿絵も豊富で、それらを対比しながらテキストを読み取っていくのにも役立つと思われる。おさるのジョージのゆたかな表情に着目していっても子どもたちの読みが広がりを見せてくれて面白い。

## 9 授業の実際（11時間扱い）

- (1) 単元の導入として「ひとまねこざる」のお話  
しへの興味や関心を高めるために、アニメーションの手法を用いてガイダンスを行う。わたしの見つけた「おどろきジョージ」発表会を開くという学習の見通しをもつ。
- ① 「ひとまねこざる」シリーズの本の題名と表紙の挿絵を組み合わせて絵本を楽しむ。
- ② 挿絵の後の場面について想像し「おどろきジョージ」を見つけようというめあてにつなげる。
- (2) 「ひとまねこざる」シリーズを「おどろきジョージを見つけよう」という手引きにしたがってじっくりと読み、一人一人の読みを作り上げる。（十分に時間を確保する）
- (3) わたしの見つけた「おどろきジョージ」を交流し合い、様々な読み方があることを知り、読書を楽しむ。
- ① 友だちに一番伝えたい、わたしの「おどろきジョージ」を選び、発表の準備を行う。
- ② わたしの見つけた「おどろきジョージ」を発表し合う。
- ③ 他にもあるシリーズものの物語を紹介し合い、自分の読書計画を立てる。

### 児童の書いたおどろきジョージ



## 10 事例の効果的活用ポイント

その学年なりに「どうしてそう考えたか」を自分の言葉で表現し伝えられることが大切であると考える。

### (1) アニマシオンにおいて

- ・挿絵を見ながらお話しづくり

題名あてや表紙の表と裏のマッチングなどを行った。正解を問うよりもなぜその様に考えたのか、1年生なりの根拠を示せる事を大切にした。

### (2) 一人読みの保障

- ・子どもの読みを助ける手引き

子どもたちが、作品のおもしろさをだれかに伝えたくなるような手引きを用意する。1年生の子どもには、「このあとどうなるんだろう」とか「ジョージがしかられないか心配」とか「自分がジョージだったら」など物語の中のジョージから見つけるのだが、それらを自分だけの「おどろきジョージ」を「わたしの〇〇ジョージ」という形で、他者に紹介していく。その際にも、どうして「〇〇ジョージ」なのかということを1年生なりに表現できたことが大切である。

### ・じっくりと一人読みを行うために

「おどろきジョージ」を見つけるために、一人一人がじっくりとテキストを読めることが大切である。そのために、時間的な保障と共に図書館の団体貸し出しを利用して、テキストの冊数も揃えていった。

### (3) それぞれの読みの交流

自分の読みを確かめたり変容させるためにも、お互いの読みの交流が必要である。発達段階において方法は様々であるが、1年生では自分が伝えたい「おどろきジョージ」を絵に表し、書いた文と合わせてプロジェクターで投影しながら発表会を行った。

## 11 まとめ

心がワクワクするような物語との出会いは特に低学年の時期の子どもたちが読書の習慣を身につけるために大切である。また、テキストを読んで自分なりの根拠をもって相手に伝えることにより読解力の素地を育てることが出来る。

（井手 次郎）

## グラフを読んで、事実と考えに分けて分かりやすく表現する

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

私たちの言葉について考える  
～統計や図表を読むことを通して～  
p46,47（国語・中2）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) この事例は、図や表などを、目的をもって読む学習の場を設定している。多様なテキストを読む際に大切にしたい点だと考える。
- (2) この事例は図表を読み取ったことをレポートにまとめ、その中で「読み取った内容」と「考察の結果」を柱にしている。取り出した情報を生活体験などと結び付け、文脈をつなげて表現することは読解力の育成において大切な点であると考える。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

図表を的確に読み取り、自分の知識や生活経験と結び付けて感想や考えをもち、それを分かりやすく表現する力。

### 4 主たる評価規準

- (1) グラフを的確に読み取り、自分の知識や生活経験と結び付けて、感想や考えをもつことができる。
- (2) グラフから読みとったことを事実と感想に分けてプレゼンテーションをしている。

### 5 単元・題材・教材名

水はどこから

### 6 指導のねらい

社会科の中で、グラフに表された資料を読み取ることは、大切な学習の一つである。導入時に、教師によって吟味された資料を読み取ることによって、本単元の指導内容を押さえることができるような、様々な疑問が生まれてくる。単元の初めにグラフを読んで、分かったことと感想や考えをプレゼンテーションする。子どもは、自分の生活体験や知識と結びつけて推論したことを話すことになる。非連続型テキストを読み、自分なりの解釈を行い、話すという形で表現する力を育成したい。また、ここで生まれた問題や推論、自分なりの解釈を、学習の中で他の資料と比較したり、関連付けたりしながら解決・検証していくこともねらっている。

### 7 単元・題材・教材について

本単元は、「身近な人々の健康を守るためにの諸活動」の学習の中で、飲料水を取り上げたものである。地域の人々の生活にとって必要な飲料水の確保や処理について調べ、健康な生活の維持と向上に役立っていることを考え、地域の一員としての自覚をもつようになることが主眼である。

### 8 使用するテキストについて

ここでは、次の四つのグラフをテキストとした。横浜市が出している資料集から「家庭

用水用途別内訳」(円グラフ)、「1年の給水量の変化」(折れ線グラフ)、「1日の平均給水量と人口」(棒グラフ)の三つを取り上げる。さらに、横浜市水道局の広報から「水道水の安全に対する意識」(円グラフ)を取り上げる。折れ線グラフの読み方はすでに算数で学習しているが、円グラフ、百分率は5年生の算数の学習内容である。そこで、全体の場で、日常の経験として読めることを確認してから、学習を進めることにした。

#### ・「家庭用水用途別内訳」

家庭で使用される水は全体でどれくらいなのか、内訳として多い順にその量が分かるグラフである。

#### ・「1年の給水量の変化」

年間では7・8月の使用量が多いこと、2月が少ないことが分かる。

#### ・「1日の平均給水量と人口」

人口の増減と平均給水量の変化が表されているが、人口は増えているのに給水量は減っているという事実が分かる。

#### ・「水道水の安全に対する意識」

では、水道水を「安心だ」と考えている人と「不安だ」と考えている人の割合をどう解釈するかということが問われる。

### 9 授業の実際（7時間扱い）

- (1) 「水道水」に関するグラフを読み取り、分かったことと感想・考えを分けて、原稿用紙1枚程度の量で話す。

す人はえまな人無あ・と四とどかば  
も安たすばど無が回ま九い十、ちことく  
多全のくに回十答りパえ三安らのいくは  
いだか水の無答・の変いば・心かググ  
かとと道う関と三人わせ不八・とララ  
ら伝い局ち心答バがらん安パどいラフ  
でえうのでだえ一、二なトの、ちえの、  
すた疑人はとたセペいに人セらば  
。い問はじ考横ントこなをンか安水道水の安全に對する意識  
ぜはをなよえ浜トセとり合トと心水道水に對する意識  
ひずもぜうま市いんがまわ、い心水道水に對する意識  
調なちこ水し民まト分しせ不え人対  
べのまの器たは、た。分りと・安をし  
てにしきをみ、たラつ水のかまどがど心合て  
た不。フけのらしち三ちのわ安  
い安水をて安なた。ら十ら人せ心  
でな道伝い全い。も三かがると

- (2) プレゼンテーションを聞き合い、話し合って学習問題を作る。  
(3) 水が作られ、消費地へ供給されるまでの事業を具体的に調べる。  
浄水場を見学し、水道局の職員の話を聞く。(3時間)  
(4) 学習のまとめとしてプレゼンテーションを行う。

### 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) グループごとに異なるグラフを準備する。それぞれが提示されたグラフを読み取る。次に、違うグラフを読み取った子どもが4人ずつ集まり、プレゼンテーションを聞き合うようにする。そうすることで読んだグラフの内容を共通理解したり、複数の資料を関連付けて考えるたりすることができるようになる。
- (2) 初めに図表を自分で読み、分かったことと感想・考えを分けてノートに書く。次に、考えを広げたり、深めたりするためにグループで話し合う時間を設ける。その後、すぐにグラフを見せてプレゼンテーションをするのではなく、400字程度の原稿を書く活動を取り入れる。

### 11 まとめ

簡単なプレゼンテーションをするという目的を設定したので、一人一人がグラフを的確に読み取り、解釈することに意欲的に取り組むことができた。この学習の中で、グラフも、送り手が目的や意図をもって作っていることに気付くことができた。短い時間の中で、グラフを読み、解釈し、考えや感想を原稿に書いてから話すという学習活動を行うことで、考えを表現する力が身に付いていくと考える。

(安富 江理)

## 家庭・小5

「だしの取り方」を調べ、自分に合ったみそ汁作りをする。

ア（ウ）課題に即応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

消費者の一人としてどのような選択をしていくべきかを考える p74,75 (家庭・中2)

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 自分が必要な情報を収集することから学習を始めること。集めた情報から自分の作りたいものと合っている情報のみを取り出し、実際に調理するときに役立てること。
- (2) 作っただしをお互いに味わい、相互評価し、情報を評価し、日常生活に生かすようになる。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

課題に即応した読む能力

だしの取り方に必要な資料を集め、活動に合った情報を集めて、自分なりのみそ汁作りに活用する。さらに他のグループの作ったみそ汁と自分たちの作ったみそ汁の味を比べて、考えをまとめ、表現することができる。

学習後の生活にいかしていくことができる。

### 4 主たる評価規準

伝統的な日常食であるみそ汁に関心をもち、計画的、衛生的に調理をすることができる。

だしの取り方を工夫し、みそ汁の調理の仕方を理解している。

簡単な調理を通して身についた基礎的な技能を生かして、日常生活で活用しようとしている。

### 5 単元・題材・教材名

「やっぱりだしだね」～おみそしるを作ろう～

### 6 指導のねらい

- ◎ 自分の生活を見つめ直し、食を通してよりよい生活を送ろうとする。
- ◎ 世界に通じる日本の味「だし」を取りながら味わい、そのよさや大切さを考える。

### 7 単元について

日本の味「だし」を通して、自分の知らなかつた食の世界を体験し、自分の食に対する経験を広げ、自分自身で食について考えられるようになる。それに対して、自分の味覚に合っただしを取り、みそ汁を作ることで、自分の食生活を考え直していく。

### 8 使用するテキストについて

基本的な食事を作ることができるということが必要になってくる。基本的な確認については、家庭科の教科書（5、6年・開隆堂）を使用した。

みそ汁に合っただしの取り方については、各自調べてきたり、自分で探してきた本などの中から見つけてきたりした。

今回は、家で聞いてきて、だしを取り、みそ汁を作ることや友だちから作り方を聞いてくることも含めて自分で必要な情報を取捨選択することができるようにした。

また、情報をみそ汁として表現することができるということについても課題に即応した読みにつなげることとした。

### 9 授業の実際（9時間扱い）

- (1) 食事のバランスを見直そう。

自分の1週間の食事のメニューを見直し、4つの観点から考える。

- (1) 栄養のバランス
- (2) 安心・安全
- (3) おいしさ
- (4) 健康

自分の食生活を見直す中で、これから大切にしていきたいことをまとめた資料から導き出し、自分の栄養面で必要なことを考え、まとめる。

そのことから、自分なりの食事を作ることにつなげる。その中から、日本の伝統的な食事である「みそ汁」づくりの活動につなげていく。

(2) おいしさの隠し味「だし」を取って、味わおう。

「だしありみそ汁」と「だしなしみそ汁」を比べてだしの必要性を感じる。その経験からだしの取り方を調べたり、聞いたりして次からの実習につなげる。

資料を集めたり、本を読んだりして、自分に必要な情報を有効に活用して、だし作りをする。

友だち同士でだしを味わい合うことを通して、よりよいだしを作る。そのだしからみそ汁作りを行う。

(3) 作っただしに合うみそ汁を作ろう。

自分で大事にしたいだしを求めて、みそ汁を作る。本や資料からの情報や、自分の舌からの情報も大切にし、だしに合うみそ汁作りという課題に即した活動を行う。

友だちの作っただしを味わいながら、自分の作っただしとの違いを感じ、情報を集め、工夫することで、より自分に合ったみそ汁作りを行うようにする。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 小学校5年生の家庭科は、基本の活動が大切となってくることはいうまでもない。そのことからも家庭科室の使い方や調理器

具の使い方、みそ汁の作り方の基本を学習してから活動を広げることが大切である。

(2)だしの取り方には、「こんぶ」「かつお節」「にぼし」「しいたけ」「化学調味料」の中から選ぶようにした。日本にあるだしの取り方をすべて用意することで、自分の味覚を研ぎすませ、自分に合ったという味を追究することにした。

(3)課題に即した読みということに関しては、自分で資料を見つけたり、資料の中から自分が行いたい活動を見つけたりすることからもとても重要である。ただ単に資料を読むだけではなく、感覚的に味わったり、聞いたりすることも小学校の段階としては、とても大切だった。

(4)今回の表現方法は、書くだけではなく、みそ汁という実際のものに表現した。そのことからも、より綿密な資料の活用が必要であり、有効だった。

## 11 まとめ

課題に即した読みということについて、自分に合ったみそ汁を作るという実際の活動を入れたことで、より自分ごとになった課題追究となった。自分の味覚という感覚を説明したり、その感覚に合ったみそ汁を作るということは、活動を積極的に進め、意欲を高めることに有効であった。小学校段階では、課題に即した読みの表現方法として、実際の活動を組み合わせていくことも有効だったと考えている。

子どもたちにとって、生涯忘れられない味覚となった。  
(山本 純)

## 筆者の表現意図を考えながら文学作品を読む

ア（ア）目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

### 1 参考にした事例

筆者の表現意図を考えながら文学作品を読む  
p90,91（国語・中1）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 本事例では、筆者の表現意図を捉えることを目的とした授業を展開している。テキストを単に読むだけではなく、読む目的を明確に設定している点に着目したい。
- (2) 筆者の表現意図を捉るために「作品全体の構成と表現」に焦点を当て、生徒自身に考えさせる学習活動が行われている。「考える力」と連動させ、読む力を高めるという本事例の視点を取り入れていきたい。
- (3) 本事例で使用するテキストは文学作品である。文学作品を通して養う感性的な認識は「解釈」「熟考・評価」の力を育成する重要な一面を担うものである。文学的文章の効果的な活用を一つの視点としたい。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

- (1) テキストの意味や構成を理解したり、表現の細部が全体においてどのような役割を果たしているかなど、筆者の表現意図を解釈したりする能力。
- (2) テキストの内容や筆者の表現意図をふまえたうえで、テキストの内容を再構成し、自分が考えたことや想像したことを文章として表現する能力。

### 4 主たる評価規準

- (1) 原作である「人質」と「走れメロス」の

構成や表現を比較することで、テキストの内容や筆者の表現意図を的確に読み取っている。

- (2) テキスト「走れメロス」の内容や筆者の表現意図をふまえ、テキストを再構成し、自らの考えや想像を生かした創作文「走れメロス・リライト版」を書いている。

### 5 単元・題材・教材名

私も作家の仲間入り！  
—「走れメロス」をリライトしよう—

### 6 指導のねらい

本单元の「指導のねらい」は、テキスト「走れメロス」の内容や筆者である太宰治の表現意図を的確に読み取らせるところにある。そのねらいの実現を図るために、生徒達に対し、活動目標を二つ提示した。一つ目は、原作である「人質」と「走れメロス」を読み比べることにより、「太宰治は読者に何を伝えたかったのか」という課題を解決することである。二つ目は、テキスト「走れメロス」の内容を再構成し、創作文「走れメロス・リライト版」を書くことである。

ここでは特に、二つ目の活動目標を重視した指導をおこなっていく。生徒達は創作文を書き上げる過程で、テキストの構成や表現、そして太宰治の「意図」に必然的に立ち返ることになるのである。その時に、私自身が生徒達の学習活動に寄り添い、生徒一人ひとりの視野を広げ、視点を深めていく指導・支援をおこなうべきであると考えている。

## 7 単元・教材・題材について

本単元・第一次では「太宰治は読者に何を伝えたかったのか」と問いかけることにする。そのことにより、テキストに込められた筆者の意図を一層明確に捉えられると考えたからである。グループ毎の話し合い活動と、それに対する支援を通して、登場人物の「心の葛藤」の部分へと読みの中心を導いていきたい。心の内面が揺らいだのはメロスだけではない。メロスの身代わりとして人質となったセリヌンティウスもまた同様である。

第二次では、セリヌンティウスの視点に基づいて「走れメロス・リライト版」を創作する。生徒自身が読者として想定するのは学級内の学習者、そして来年度「走れメロス」を教材にするであろう2年生（約1年後）の生徒とする。このような学習の場を創ることで、単元全体の学習活動に一本の柱を通し、読みを深化させる過程を明確にするとともに、生徒の学習意欲の喚起・継続を図っていく。

## 8 使用するテキストについて

使用するテキストは主に二つである。

- 「人質」（シラー「新編シラー詩抄」より）
- 「走れメロス」（太宰治）

生徒達が書き上げた創作文「走れメロス・リライト版」自体もまた、学習過程においてテキストとなることを意識づけていく。

## 9 授業の実際（6時間扱い）

### （1）テキスト「走れメロス」を読む

単元始めには「人質」を読む。そして「太宰治は『人質』を『走れメロス』に書き換えることによって、読者に何を伝えたかったのか」と問いかける。その上で、「走れメロス」の初読をおこなうことになる。生徒達がワークシートにまとめた考えとしては「友情の大切さ」「家族を思う気持ちの強さ」「信頼することの意味」「人間の強さと弱さ」などが挙げられる。ここでは特に「人間の強さと弱

さ」に着目させ、メロスの内面の葛藤を描き出し、際だたせる表現方法や段落構成を考えさせた。同様に、メロスの身代わりとして人質となったセリヌンティウスの心の内面に視点を向けさせ、第二次への橋渡しとする。

### （2）「走れメロス・リライト版」を創作する

創作文を書くにあたって、セリヌンティウスの視点から書くということを指示した。生徒自身が読者に伝えるテーマは「人間の強さと弱さ」「心の葛藤」である。生徒は書くことの過程において、テキスト全体の構成や表現、そして太宰治の「意図」に必然的に立ち返ることとなる。テキスト中に描かれている「王様にからかわれる」場面や「たった一度だけ、ちらと君を疑った」場面などの表現に着目させることや、三日間の登場人物の行程や場面設定を把握させることを通して、読み取りを深化させる支援をおこなった。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- （1）読みの深化を図る過程に書くことの学習活動を効果的に位置付けることである。そのためには、教師のねらい（ここでは「筆者の表現意図を捉える」）に即した活動目標を明確に提示する必要がある。
- （2）文学作品を読む視点や切り口を的確に示すことである。登場人物の心情に浸りながら読み進めるだけでなく、筆者の意図を考えながら、テキストを大観的・分析的に見通せる視点や切り口を与える必要がある。

## 11 まとめ

書くことに浸っている生徒の姿は、まさに「作家」そのものである。「走れメロス・リライト版」は学級内で読み合い、読後の批評を交換した。その中に「太宰治は〇〇というつもりでその言葉を使ったのではなく…」という批評を見つけた。作品だけではなく、筆者の意図にも視点が向けられたことを実感している。

（田沼 良宣）

## 「説得性のある表現」への工夫点を考える

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

テキストを用いたサッカーのゲーム分析  
p88・89（保体・中3）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 参考事例は、「テキストを用いたサッカーのゲーム分析」を行うことで、生徒がその分析結果を自身のサッカー学習に生かすことをねらう。参考事例ではそのテキストとして「雑誌関係」「新聞関係」「HP関係」の文字による情報を挙げ、最終的にはその分析を自身のゲームそのものに生かす視点をもっている。この様々なテキスト(資料・情報)を分析し、自身の学習活動に生かすことが、参考事例を活用する視点の第1である。
- (2) 参考事例には、具体的な情報(テキスト)を分析し、その分析した要素や要因を一般化する視点がある。帰納的な思考や論理では、①具象(具体例)を要素・要因に分析し、②さらに要素・要因を観点ごとに分類し、③一般化(抽象化)を図るという過程を探る。この過程を探ることにより、生徒の気づきが表現の際の「評価規準」(目安とすべき工夫点)ともなる。この帰納的な思考や論理が、参考事例の活用の視点の第2である。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

説明的な文章を目的や条件を明確にして読み、自分なりの考えを持つ力を培う。(ここでいう目的や条件を明確にした読みとは、「説得性のある表現とは、どのような表現か」を考えるための読みである。)

### 4 主たる評価規準

複数のテキストを分析的に読み、書き手の表現の有り様(一文や論理の展開の有り様)を「説得性」との関連からとらえ、自分の表現に役立てる。

### 5 単元・題材・教材名

「説得性のある表現」への工夫点を考える

### 6 指導のねらい

「説得性のある表現をしなさい」と生徒に100回言ったところで、生徒は説得性のある表現をできない。「説得性のある表現とは、具体的にどのようなものであるのか」を知り、意識して表現を工夫することで実現する。

この「説得性のある表現とは、具体的にどのようなものであるのか」を生徒が知る手立てとして、「説明的文章の比較読みによる分析」という手法を探る。ここで用いる読みの目的とは、「分析するための読み(分析的な読み)」である。

「分析的な読み」とは、ある「観点」に対して、その観点をさらに「要素」や「成分」に分化しながら読みとらえることである。本单元でいう観点とは、「説得性のある表現」であり、分化する要素(成分)は、①「材料の在り方(具体例の扱い方)」、②「文の在り方」、③「構成の工夫」、④「資料提示」である。この4つの要素は、指導者が指導目標・指導内容である「説得性のある表現」を分析する中から見出した要素であり、生徒たちはこの要素を目安にして文章を分析することになる。生徒には、「どちらの文章の方がわかりやすいのか。なぜ、それをわかりやすいと考えたのかを分析する」という課題で提示した。

## 7 単元・題材・教材について

以下の文章を分析する教材として使用する。

- ①【教材A】：「学校図書」小学校1年上（平成4年版）「どうぶつのあかちゃん」
- ②【教材B】：「光村図書」小学校1年下（平成14年版）「どうぶつの赤ちゃん」
- ③【教材C】：「光村図書」小学校1年下（昭和64年版）「どうぶつの赤ちゃん」
- ④【教材D】：小学館保育絵本「どうぶつのあかちゃんたち」の解説文

## 8 使用するテキストについて

【教材A】から【教材C】は小学校1年生の教科書の文章であり、音読や内容の取り出しには生徒の課題は生じない。また、【教材D】は絵本につけられた保護者向けの文章ではあるが、それほどの難しさを伴わない。

そして、それぞれ教材文には、「問題提起の文の有無」「論証のための事例数の差異」「事例を一般化する表現の有無」「対比表現の有無」「数値表現やたとえ表現の有無」「関連する挿絵の差異」「一文の長さ、單文・複文・重文等の差異」などの表現の違いがある。生徒たちは、その違いを「わかりやすさ」や「説得性」と関連づけて分析することになる。分析することは、「各テキストのどういう点が、なぜわかりやすいと考えたのか」を文章の表現や叙述の在り方を根拠にしながら説明することにもつながる。

## 9 授業の実際（3時間扱い）

- (1) 「説明的文章」を比較して、分析的に読む。（各テキストのどういう点が、なぜ「わかりやすい」と考えるのかを班ごとに挙げる）
- (2) 分析結果をマッピングし、「説得性のある表現」の観点別にグループ化する。（グループ化されたものが生徒たちが文章を書く際に工夫すべき目安となる評価規準になる）
- (3) 「評価規準」を意識して、文章の構成を考える。（テーマは「後輩達へのメッセ

ージー衣中の『変えてほしこと』『変えてほしくないこと』一）。ここでは文章を書かない。構想をもとに後のリレースピーチ（「話すこと・聞くこと」の帯授業）につなげる）

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 「分析的に（情報を）読む」という視点は、理科の実験での「比較対照実験」に代表される「比較」することによる認識である。参考事例もこの方法を採っている。国語では「同テーマ（主題）での比較読み」「同作家での比較読み」「同主題に対する生徒の異なる意見の比較読み」などがあり、大量に情報が流布する中で、より確かな認識を得るために情報処理の手法であろう。そして、情報には文字情報等に限らず自然現象や社会現象、ゲーム展開などを含むのはいうまでもない。
- (2) 「分析的に読む」意図は、分析結果を生活（学習場面）に生かすことである。参考事例では、分析結果を自身のゲーム展開に生かす視点をもち、本単元では表現活動に生かす視点をもっている。

## 11 まとめ

分析的な読みに慣れていない生徒にとっては「比較して分析しなさい」とだけの課題では、どんな視点や観点で分析すればいいのかが明確にならない。初期の段階では、指導者は分析する観点・視点を示す必要がある。その際に指導者が行うべき点は、学習指導要領とその解説の「目標」「内容」を、それこそ分析的に読み、指導目標・指導内容の具体化を図ることである。

高次の学力の育成を目指すには、こうした目標・内容分析から具体化する方法か、あるいは生徒のパフォーマンスや作品をもとに、それがなぜ優れている、不十分であると考えるのかを考察し、集約する方法から教材化を図る必要がある。今回は生徒に後者の手法で工夫点を考えさせた。 （今村 高治）

## 収集した情報を基に、パネルディスカッションのための意見を簡潔にまとめる

ウ（イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

「収集した情報を読み、パネルディスカッションのためのメモを簡潔に書く」

p60・61 (国語・中3)

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 非連続型テキストを含むさまざまな情報をおかに活用するために、意見を述べるための情報を収集し、整理し、選択させる。
- (2) 主張する内容を学習者に明確に持たせ、簡潔に述べるために、意見を具体的にまとめるための書式を提示する。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

自らの立場を明確にしながら、読んで理解した内容を関連付けて、自分の考え方や思いを、簡潔に効果的に伝える力を高める。

### 4 主たる評価規準

- ・情報を基に、根拠をはっきりさせ、主張する内容を明らかにして自分の意見をまとめている。
- ・さまざまな見方や異なる考え方を通して、自分の考えを深めている。

### 5 単元・題材・教材名

「パネルディスカッションをしよう」  
～テーマ「平和な世界を築くには」～  
三省堂「現代の国語3」

### 6 指導のねらい

パネルディスカッションでは、理由や根拠を明確にして、自分の立場や意見を具体的に述べる力が求められる。この学習では「平和な世界を築くには」というテーマを設定し、中学生と

しての自分の考えを述べることを中心におく。そこで討論するのに十分な意見を出していくために、自分はどんな目的で何を伝えたいのか、ある想定した立場に身を置く

設定でパネルディスカッションを展開した。

次に意見を述べるまでに今まで読んできた文章、さまざまな資料、写真などを整理・解釈し、自分の立場に合わせて論点を明確にしながら、簡潔に相手に説明するための力を高めていくことを考えた。また、効果的に話す内容を組み立てる構成にも目を向けさせた。

- ①目的意識をもつ  
→ 話合いの目的を理解する
  - ②話す材料を選び出す  
→ 確かな情報を収集する
  - ③効果的に話す内容を組み立てる  
→ 話の構成や組み立てに注目する
- ①から③のような力を子どもにつけさせていくためには、意図的な学習内容の工夫や改善を示していくことが大切である。「話すこと・聞くこと」という言語活動の成立には、資料やテキストを読み解く力が密接に関係している。膨大な情報から簡潔に意見をまとめるために、「話すこと」の内容を高めていく学習に重点を置いた。

### 7 単元・題材・教材について

これまでの学びでは、例えばスピーチでは話の組み立て、ポスターセッションや討論ゲームなどで、立場を意識する話し方や発表方法、話す順序などを学んできた。今回は、テーマに従って資料を読み、理解し、自分なりの主張を、パネリストとしてどのように簡潔に分かりやすく表現するかということを基本として、確かな話し合いをすることを試みた。具体的には、確かな情報を基に話し合うために、既習の学習で得た知識や内容、総合的な学習で得た情報、その他の資料（本、インターネット等）をどのように活用するかを考え、意見をまとめるために、複数の資料を用意し、学習者に活用させた。

### 8 使用するテキストについて

使用したテキストは次の通りである。

- ・教科書を中心にこれまで扱ってきた平和をテーマにする読み物。(主に「平和を築く」)
- ・図書室の写真集、書籍
- ・新聞記事
- ・ヒロシマ平和学習のまとめ
- ・インターネット情報

## 9 授業の実際（7時間扱い）

時	学習活動
1	<p>◎パネルディスカッションの概要を知る。</p> <p>①テーマ「平和な世界を築くには」を確認する。</p>
2	<p>◎テーマと立場を確認し、発表内容の検討をする。</p> <p>《主張する立場一例ー》</p> <p>A 人との交流から考える立場（国際交流）</p> <p>B 政治や経済、難民の状況から考える立場（「平和を築く」参考）</p> <p>C 過去の歴史から学んでみようとする立場（ヒロシマ平和学習参考）</p>
3	<p>◎立場ごとのグループで意見を出し合い、意見の根拠となる情報の収集、整理を行う。</p> <p>①一人ひとりが自分の提案として簡単な原稿を書く。</p> <p>②具体的な提案主張の根拠、予想される反論や質問などを考える。</p>
4	<p>◎収集した情報をもとに、具体的な提案や主張を行う。</p> <p>①一人ひとりが完成した<u>原稿メモ</u>をもとに簡単な提案、説明を行う。→ミニパネルディスカッション</p> <p>②全員の提案を聞き、代表パネリストを選ぶ。</p>
5	<p>◎パネルディスカッションを開く。</p> <p>①代表パネリストによる提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ立場から、情報や事例を通して意見を簡潔に述べる。</li> </ul> <p>②パネリスト以外のものは、フロア（聴衆）となり、討議に参加する。</p> <p>③フロア側は質問をする。パネリストとの意見交流</p>
6	<p>◎パネルディスカッションを振り返る。</p>

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 全員がパネリストの立場を想定し、立論のための原稿を考える。  
→ミニパネルディスカッションの実施
- (2) パネリストとしての立論のメモを書くためのヒント集を示し、具体的な意見の組み立てとして活用させる。

## 《パネリストとしての立論のメモを書くためのワークシート》

- ・書式A4、1枚
- ・事実を確かな根拠から述べる。  
→具体的な数字や事例など
- ・自分の主張をどのように伝えるのか、はつきり盛り込む。
- ・使う資料を（写真や掲示物）示す。

～私の意見を組み立てよう！～意見を述べるためのメモ作り～	
★まず結論！	
★結論の根拠・理由…調べたこと、見つけたこと、調べましたことは？	
まず第1に…	資料の提示 …資料として提示するものは？
第2に…	
そして第3に…	
★まとめ…これだけ伝えたい！①から③の情報から自分が発言したこと	

## 11 まとめ

自分の考えを相手に明確に伝えようとする能力を育てるためには、授業を通して互いのコミュニケーションが成立するような活動を、発達段階に応じて積み重ねていくことが必要である。特に3年では、場面や必要に応じて発言したり、読んで感じたことを相手に的確に伝えたり、意見や主張を簡潔にまとめて発表するなどの「表す力」がいっそう求められる。

高いレベルでの話合いを目指すためには、ただ単に話したり聞いたりする場を設定するだけではなく、話し合う情報を吟味し、熟考する活動を行うことで、相手に向けて効果的に発信する能力や資質が育っていくものであろうと考える。具体的には、次の視点が大切である。

○意見を述べるためのさまざまな情報の選択  
→非連続型テキストを活用する価値、意味、用法に学習者自身が気づく。

○論理的、かつ簡潔に思いや考え方を述べるために、主張する内容を明確に持たせる。  
このようなことを授業の目標に据えることが、生徒が自ら考え、表現し、言葉により「実社会で自己を表現できる力」そして「相手の意見を真摯に受け止める力」を育てることにつながるものと考える。

(竹下 恒子)

## 多様なテキストからせまる「鎖国の意味」

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 参考にした事例

私たちの言葉について考える—統計や図表を読むことを通して— p46,47（国語・中2）

様々なテキストを読み「ゲルニカ」を鑑賞する p90,91（美術・中3）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 読み取ったことを整理していくことで、テキストを読む目的や視点を明確にするという方法を参考にした。
- (2) さまざまな連続的なテキスト、非連続的なテキストを、そのテキストに応じた読み取り方をし、読み取ったことを統合化して理解する方法を参考にした。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

多様なテキストに対応した読む能力の育成  
〔指導のねらい ウ（ア）〕

### 4 主たる評価規準

近世社会の成立とその後の政治、社会、文化に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追求し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。

### 5 単元・題材・教材名

第4章「武家政治の発展と世界の動き」  
2節「幕府の体制と東アジア」

### 6 指導のねらい

この単元の大きな問い合わせである「なぜ江戸幕府は他の幕府より長続きしたのか」について自分なりの答えが見つけ出せるよう、資料を

もとに、江戸幕府のとったさまざまな政策の意図を考えさせていきたい。

### 7 単元・題材・教材について

歴史学習では文書資料や絵画、地図などさまざまな資料を扱う。何に注目したらよいか、必要な情報は何かをはっきりさせることで、そこから読み取れる内容も違ってくる。そして読みとった情報を相互に関連づけたり、既習の知識と組み合わせることで、自分の考えをもつこができるようにしていきたい。

### 8 使用するテキストについて

今回の授業では、教科書の本文、教科書や資料集に掲載されている絵や図、その他の絵や地図、文書資料などさまざまな形態の資料をテキストとして使用し、「なぜ江戸幕府は他の幕府より長続きしたのか」というこの単元の大きな問い合わせにせまれるよう、「鎖国が、江戸幕府にとってどんな意味をもつ政策であったか」を理解し、理解した内容を自分のことばで表現する学習を行う。

さまざまな資料の中で、最初は教科書の本文から、「鎖国」が実は文字通りの「国を『鎖(とざ)す』」ではなく、四つの窓口が開かれていたことを読み取る。次に、その四つの窓口の違いを表に整理することにより、長崎の特殊性および交易相手国としてのオランダの特殊性に気付かせ、そこから「なぜ江戸幕府はオランダとの外交関係を続けたのか」という疑問につなげる。

その疑問の答えには二つの方向でせまっていく。一つは「同じヨーロッパの中で、来航

を禁止されたポルトガルと、来航を許されたオランダとの違いは何か」、もう一つは「オランダとの関係を続けることが、江戸幕府にとってなぜ必要だったのか」

一つ目の課題を考えるためのテキストには次のようなものを使用する。

- ・「島原・天草一揆」に関する資料→オランダが幕府側につき、一揆を押さえる側にまわったことを読み取らせる。
- ・「当時のヨーロッパ」「それ以前のヨーロッパ」「当時の東南アジア」の地図→オランダがスペイン領から独立し、スペイン・ポルトガルをしのぐ力を持っていたことなどを読み取らせる。

二つ目の課題を考えるためのテキストとしては次のようなものを使用する。

- ・「幕府がオランダに示した『御条目』」「オランダ船が入港手続きとして必ず提出しなければならなかつたもの」→海外の情報を得るために、オランダとの関係は絶つことのできない重要なものであったことを読み取らせる。

## 9 授業の実際（10時間扱い）

- (1) 社会がかわるということはこの時代においてはどういうことなのか再確認する。
- (2) 織田信長はなぜ室町幕府を滅ぼすことができたのかについてその過程を考える。
- (3) 豊臣秀吉はなぜ戦国大名を統率することができたのか教科書や資料集を読んで見つけ出す。
- (4) 德川家康はどのように長期政権の基盤を築いたのか調べて理解したことをまとめめる。
- (5) 江戸幕府が長期政権となったことをそれまでの武家政権との違いを比較して考える。また、それによって人々の生活はどのように変化したのか調べる。
- (6) 鎮国を始めた日本と他の国はどのような交流があったのか様々な資料から読み取り、理解したことをまとめめる。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) すべての子どもが所有し、もっとも身近なテキストである教科書をまずしっかりと読み取らせる。その際、「四つの窓口の違いを整理する」という課題を与えることで、読み取るポイントを意識させる。
- (2) 多様なテキストからどのように必要な情報を読み取り、それらを関連づけながら知識や自分の考えを整理していく力を身に付けさせたい。また、その当時の絵画や文書資料からそのころのようすを読み解いていくという、歴史学習の醍醐味を味わえるような授業にしていきたい。
- (3) この単元を通じて考えていく「なぜ江戸幕府は他の幕府より長続きしたのか。そのような幕府によって社会はどのように変化したのか」という課題を意識させる。
- (4) 授業は、クラス全体で疑問に対する答えを探るために、さまざまな資料を読み解いていき、最後に自分のことばで自分の考えをまとめ、他の人と意見交換をするという順番で進めていく。自分の考えをまとめるときには、その考え方の根拠を具体的にあげることに留意させる。また、他の人に説明するときには、よりわかりやすく相手に伝わるように、ということを意識させる。そして、授業の最後に、他の人の考えも参考にして、自分の考えを再構築させたい。

## 11 まとめ

多様なテキストを準備し、「読む能力」を育成するといつても、それは読むだけでは育成できない。読み取ったこと、そこから考えたことを「表現する」という活動を入れることによって、読む視点がはっきりし、読み取ったことをしっかり理解することもできる

（柿崎 順子）

## 図形の性質を証明する記述を評価する課題

ア（イ）評価しながら読む能力の育成

### 1 参考にした事例

図形の性質を証明する記述を評価する

p72・73（数学・中2）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 図形の証明では、文章だけで問題を提示し、その文章を理解して正しい作図ができるかというところから始める。
- (2) 図形の性質の証明についての記述を論理的に矛盾するところがないかなどを建設的な視点でクリティカルに読む。
- (3) 気づいた間違いを、皆に理解できるよう、適切な表現で指摘し、正しく説明する。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

評価しながら読む能力の育成

### 4 主たる評価規準

記述された証明を読んで、内容を正確に把握し、不適切なところがあれば、その根拠を明らかにして、指摘することができる。また、その部分についての正しい証明を、皆に分かりやすく適切な表現で説明することができる。

### 5 単元・題材・教材名

「平行四辺形になるための条件」

### 6 指導のねらい

図形の学習では、生徒の理解が容易になるように、その状況を適切に表現した図を添付して説明している場合が多いが、逆にそのことによって生徒は文章から、問題に適した図を描くことに慣れていないともいえる。図形

の特徴を理解するためには、文章に基づいて適した図を描くことも大切な学習であると考え、その学習プロセスを入れることにした。また、根拠を明らかにしながら、論理的に証明をすることが苦手な生徒が多いが、論理的に説明する力は、数学において最も身につけさせたい力の1つである。そこで、記述された証明を熟読し、改善すべきところを指摘することや、別の証明方法を考えることを通して、論理的に説明する力を高めることが大切であると考える。

### 7 単元・題材・教材について

「1組の対辺が平行で長さが等しい四角形は

平行四辺形である」ということについて、適した図を描き、誤りやすく、誤りを指摘しづらい不適切な部分を含んだ証明を読んで不適切な部分を指摘し、訂正する。

### 8 使用するテキストについて

「四角形ABCDで、 $AB//DC$ ，  $AB=CD$  ならば四角形ABCDは平行四辺形になる」ことを証明したい。このとき、この証明に適した図を描きなさい。また、以下に示す証明は、不適切な部分を含んでいるので、どこかを指摘し、正しい証明を完成しなさい。

＜証明＞

△ABCと△CDAにおいて

$$AB = CD \text{ (仮定より)} \cdots ①$$

$$AC = CA \text{ (共通な辺)} \cdots ②$$

$$BC = DA \text{ (仮定より)} \cdots ③$$

①, ②, ③より3辺がそれぞれ等しいから

$\triangle ABC \equiv \triangle CDA$

合同な図形の対応する角の大きさはそれぞれ等しいから

$\angle BAC = \angle DCA$  ,  $\angle ACB = \angle DAC$

つまり錯角が等しいから

$AB // DC$  ,  $AD // BC$

したがって、2組の対辺は平行だから  
四角形 ABCD は平行四辺形である。

(証明終了)

(3) 生徒の行った証明の中に誤りがあれば、  
その生徒に配慮しながらも、そのものを扱う方が教員の用意した不適切な部分がある  
証明を扱うよりも効果的である。

## 11 まとめ

図形の証明では、文章だけで問題を提示し、正しく作図するところから始める事を積み重ねていくことも「読解力」を育成するという視点では重要な指導になる。日頃から、文章や式、表、グラフ、図など提示するテキストについて工夫をすることで、読みとる力が効果的に育成されるものと考える。

(大谷 一)



《「考えてみよう」～授業の様子》

## 9 授業の実際（1時間扱い）

- (1) 条件に合った正しい図形を描く。
- (2) 各自分で証明する。
- (3) 不適切な部分のある証明を提示し、その問題点を理由を説明しながら指摘する。
- (4) 指摘した部分を適切な表現で訂正する。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 証明の単元では、できるだけ文章だけで問題を提示して、その文章を理解し、適した図形を作図するというプロセスを入れて学習に取り組むことで、より適切に図形のなかの等しい線分や角について認識するようになる。
- (2) 図を描くなかで、等しい線分や等しい角同士を異なる色のチョーク（ペン）を使って、かき表すことで、生徒の認知が記号での表記よりも認識が容易になる。

## いろいろな気象現象を分析する

イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

第二次世界大戦のドイツを読み解き、自分の考えを書く、まとめる

p78・79（社会・中2）

### 2 参考事例の活用の視点

理科においても、次のような視点を共通に持たせる必要がある。

- (1) 資料(現象)を読み解く力付ける。
- (2) 自分なりの考え方持たせる。理科では、観察したことから気づいたことをできるだけ多く見つける力を付ける。
- (3) 的確に表現する力を付ける。理科では、結果と考察を区別し、論理的に表現する力を付けさせる。
- (4) 正答が一つではない課題を与え、多面的な見方を意識させる。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

「空気中の水蒸気と天気」の学習を通して獲得した知識や日常の生活で身に付けた知恵とともに、霧や雲の消長等の現象を分析することを通して「読解力」の育成を図る。

「読解力」育成の視点からすると、2つの段階からなる。1つ目は実験や写真・映像資料の観察を通して、気象現象を的確に観ること。2つ目は観察した結果から考察すること。2つ目の段階において、自分の分析したことを、図やグラフなどの非連続型テキストを使用して分かりやすく表現する。このような学習活動を通して、自分の考えを論理的に分かりやすく表現する能力の育成を図りたい。

### 4 主たる評価標準

根拠をもって、実験の結果や映像資料を分析している。

### 5 単元・題材名

単元：空気中の水蒸気と天気

題材：霧や雲に関する気象現象を分析しよう

### 6 指導のねらい

理科学習では、自然現象を解明していく学習活動が中心である。その過程で「なぜ」という疑問が生じ、それを解決することで科学的思考力が養われる。その際に扱うテキストは多様である。文章だけでなく、図やグラフ、表などの「非連続型テキスト」や観察・実験などの「他のテキスト」などを駆使し、科学的思考力を高めたい。

そこで、本単元では、観察したことを的確に記述し根拠をもって考察する活動を中心に行う。

このような学習を通して、自分の考えを論理的に分かりやすく表現する能力を高めていくことができると言える。

### 7 単元・題材について

気象現象は、生徒が毎日接している身近なものである。しかし、今日の天気が晴れかどうか、温度が高いかどうかなどを把握することはあっても、天気のしくみやその変化を考えたり、天気を予測したりすることは少ない。

そこで、本題材では霧や雲のでき方の学習を通して得た知識を、いろいろな気象現象に

適用して分析する。その過程を通して、科学的な思考力や表現力、「読解力」を高め理解の深化を図る。気象に関する知識は、実生活にも活かしやすいため、興味も高めることができ、理科を学習する意欲を高めることにもつながると考える。

## 8 使用するテキストについて

ここで扱うテキストは、教科書や資料集などの記述のいわゆる「連続型テキスト」の他に、図やグラフ等の「非連続型テキスト」、観察・実験から得られる自然現象そのものや映像資料などの「その他のテキスト」を使用する。このような多様なテキストは、理科の特徴であると考える。

## 9 授業の実際（10時間扱い）

### （1）天気の移り変わり

雲画像やアメダスデータをもとに、雲の下の天気や天気の変化について考え、今後の学習についての見通しをもつ。

### （2）霧はどのようにして発生するか

実験を通して、温度変化によって空気中の水蒸気が水滴に変わったものが霧であることを知る。

#### 【キーワード】

飽和水蒸気量・露点・湿度

### （3）雲はどのようにして発生するか。

雲の観察や雲をつくるモデル実験を通して雲のでき方を知る。また、雨や雪などによる降水と大気の水の循環について理解する。

#### 【キーワード】

気圧・空気の膨張・露点・上昇気流



### （4）霧や雲を詳しく観察し分析しよう

霧や雲のでき方の学習を通して得た知識をもとに、いろいろな気象現象を分析し考察する。また、グループ討議や発表活動を通して、考えたことを分かりやすく伝える。

#### 結果と考察のワークシート記入例

No 第1章 雲ができる雨が降るしくみ 霧や雲に関する気象現象を分析しよう																							
2月____日(____)	大気: ● 2年 組番 氏名 _____																						
課題 ハンドボトルの中の雲を外した時の変化を見よ。																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>観察結果</th> <th>考察</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○○という現象が見られた</td> <td>観察結果から、○○と考えられる。その理由は、○○だからである。</td> </tr> <tr> <td>1)ハンドボトル内に水を入れる ↓</td> <td>フタを開けて外た空気は</td> </tr> <tr> <td>2)線香の火を入れる ↓</td> <td>ハンドボトルの中では圧縮され、温度が下がり、水蒸気が水滴となつて雲となつたから。</td> </tr> <tr> <td>3)圧力をかけ3→かいてない ↓</td> <td>空気中に出来たので温められ、水蒸気が再び状態変化して水蒸気になった。</td> </tr> <tr> <td>4)雲発生</td> <td>だから、見ええた雲が見えるなくなつた。</td> </tr> <tr> <td>5)フタ閉じる</td> <td>×参考して(へ)</td> </tr> <tr> <td>一瞬白いのが口から出でる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハンドボトルを押す</td> <td></td> </tr> <tr> <td>輪とも 勢いがある ホーッ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7)も結局消えてしまう!!</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		観察結果	考察	○○という現象が見られた	観察結果から、○○と考えられる。その理由は、○○だからである。	1)ハンドボトル内に水を入れる ↓	フタを開けて外た空気は	2)線香の火を入れる ↓	ハンドボトルの中では圧縮され、温度が下がり、水蒸気が水滴となつて雲となつたから。	3)圧力をかけ3→かいてない ↓	空気中に出来たので温められ、水蒸気が再び状態変化して水蒸気になった。	4)雲発生	だから、見ええた雲が見えるなくなつた。	5)フタ閉じる	×参考して(へ)	一瞬白いのが口から出でる。		ハンドボトルを押す		輪とも 勢いがある ホーッ		7)も結局消えてしまう!!	
観察結果	考察																						
○○という現象が見られた	観察結果から、○○と考えられる。その理由は、○○だからである。																						
1)ハンドボトル内に水を入れる ↓	フタを開けて外た空気は																						
2)線香の火を入れる ↓	ハンドボトルの中では圧縮され、温度が下がり、水蒸気が水滴となつて雲となつたから。																						
3)圧力をかけ3→かいてない ↓	空気中に出来たので温められ、水蒸気が再び状態変化して水蒸気になった。																						
4)雲発生	だから、見ええた雲が見えるなくなつた。																						
5)フタ閉じる	×参考して(へ)																						
一瞬白いのが口から出でる。																							
ハンドボトルを押す																							
輪とも 勢いがある ホーッ																							
7)も結局消えてしまう!!																							

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 実験や映像資料などの自然現象を正確に記述させる。
- (2) 結果と考察を区別し、図やグラフを使って表現させる。
- (3) 正解を一つに絞らず、現象を多面的に見られるよう意識させる。
- (4) 日頃から、考える意義を感じるような、適当に段差のある課題の提示をしていくたい。
- (5) 的確な発問や教材の選定を心がける。

## 11 まとめ

観察や実験の結果と考察を分けて書いたり、図やグラフなどを活用して発表したりするトレーニングを積み重ねることで、生徒は論理的で分かりやすい表現の仕方が身に付くと考える。

(関谷 育雄)

## イメージを生かし合唱表現をしよう

ウ（イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

美しいハーモニーを響かせるために楽譜を  
読む p96,97（音楽・中2）

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 参考にした指導事例は美しいハーモニーを響かせるためにテキストである楽譜を読むことに重点をおいているが、さらにもう一歩深め、楽曲をよりよく味わい深く表現するためにテキストを読んでいく。
- (2) テキストとしての楽譜を読むが、その他に、音や音楽そのものも大切なテキストとしてらえていくことに留意する。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

テキスト（音や音楽そのものや楽譜）から、楽曲に対する自分の思いや表現意図をもつことを通して、自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力を育成する。

### 4 主たる評価規準

テキストより音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる楽曲の曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を曲の仕組みや歌詞の中に見付けている。

### 5 題材・教材名

題材名 「イメージしよう」  
教材名 「命が羽ばたくとき」  
作詞 人見敬子  
作曲 西澤健治

### 6 指導のねらい

音楽科の学習活動には、歌唱、器楽、創作といった表現活動や鑑賞活動がある。そこで大切にすべきことは、様々な音楽活動を通して音楽をどのように感じ取り、理解するかということである。音楽作品に対して自らの想像力を働かせ、イメージを深めることは、音楽を深く感じ取ったり、理解するために必要なことであると考える。

このようなことから本題材では、音楽作品に対するイメージを深くもつ工夫をすることで、さらに音楽を深く、幅広くとらえられるようになることを指導のねらいとする。

### 7 題材・教材について

#### (1) 題材について

自分なりのイメージをテキストからもつことを中心に学習し、表現活動に生かすことが題材の主たる学習活動である。

#### (2) 教材について

混声三部合唱曲であり、生徒の関心の高い合唱曲から想像力を働かせ、イメージを深め、表意意図もち、表現活動を行うことを本教材の主たる学習活動である。

### 8 使用するテキストについて

歌詞が比較的に抽象的な表現であり、曲想をとらえることから、歌詞のイメージを深めることができる教材であるため、テキストから様々なことを読み取ることができるのではないかと感じている。

さらに、テキストを通して個々が深めたイ

イメージから表現意図をもち、合唱表現につなげるのにふさわしい教材であろう。

## 9 授業の実際（4時間扱い）

- (1) 楽曲の歌詞や曲想を生かした歌唱表現をするために、パートの音取りをし、合唱できるようにする。
- (2) 楽曲の音楽の構成要素や表現要素から音楽がどのように成り立っているかを理解し、歌詞内容のと合わせてイメージをふくらませることで、自分なりの表現意図をもつ。  
表現意図を歌唱表現に結び付けるよう工夫をする。
- (3) 既習の楽曲ではない、新しい合唱曲をテキストを観ながら聴き、音楽の諸要素や諸要素同士のかかわり合い、歌詞からイメージをふくらませ、自分なりの表現意図をまとめた。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 合唱活動は音楽科の学習の中でも生徒の興味・関心の高い学習である。合唱教材をテキストとして用いることで、生徒の積極的な授業への参加が期待できる。
- (2) 単に歌うだけではなく、個々がしっかりと思考・判断しながら歌うことができるようになる。
- (3) 表現意図をもつことで、歌唱だけではなく、器楽や創作などにおいてもどのように表現すべきか考えることが大切であるということを理解させることができる。
- (4) 鑑賞活動において、様々な表現の工夫を考えるヒントとなり、より味わい深く音楽を鑑賞することができる。

## 11 まとめ

様々な音楽活動をする場合大切なことは、音楽をどのように表現すべきか、個々の表現意図をもちながらえら表現活動することであ

る。

音楽科において「読解力」を育成する取組を考えた場合、音楽を成り立たせている諸要素や諸要素のかかわり合いを根拠とし、授業で扱った作品について深く考え、表現意図をもち表現活動することが大切であると考えている。このような取組が「自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成」につながるであろう。

このような取組は、新しい取組ではなく、様々な音楽の学習の中にすでに存在しているものであり、「読解力」の育成という観点を学習の中で明確にしただけである。しかし、このように音楽から思考・判断し表現活動につなげるという学習のプロセスを明確にすることで音楽科で指導すべき学習内容が明確化なるのではないかと考える。

（杉山 利行）

## 学習成果を発表するためのポスター制作

イ（イ）日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

### 1 参考にした事例

- ① 対象と目的を明確にした「お薦め本パンフレット」を作る p34, 35 (国語・中1)
- ② 複数のアンケートの結果をグラフで表し、レポートに書く p36, 37 (国語・中1)
- ③ 本から得た情報や思いをPOP(ポップ)に表現し、伝える  
p44, 45 (国語・中2)
- ④ 自分の考え方を企画書にまとめてプレゼンテーションする p56, 57 (国語・中3)
- ⑤ 課題学習で「読解力」を育成する一コンセプトマップ法の活用を通して—  
p98, 99 (理科・中1)

### 2 参考事例の活用の視点

前項で示した①～⑤の事例はいずれも、テキストから課題に即して情報を取り出し関連付け再構成したり、自分の考えを表現したりする際に視覚化する過程を含むものである。

①で扱っている“キャッチコピー”は、ややもすると言語的な要素のみが問題にされがちであるが、フォントやジャンプ率などタイポグラフィーの要素も考え合わせなければ、実用的な活用はできない。⑤は自他の考えを交流しまとめ上げるプロセスでの視覚化を、コンセプトマップ法の活用により示している。③ではキャッチコピーに加えPOP(Point of purchase advertising)作成の際の造形的な要素の活用にも触れている。④はグラフを交流と表現の対象として扱い、③はまとめと表現、伝達の手段として「一枚企画書」を位置づけている。

従来、美術科で扱ってきた学習内容だけに

着目するならば、ここに登場する造形的な要素のみを抽出して扱えばよいということになる。しかし、これらの要素を実生活に即した、活きてはたらくものにするためには、これら①～⑤で示されているような、“「読解」のプロセス”に目を向け、意識することが不可欠である。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

7つの指導のねらいから「イ（イ）日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成」を念頭に置いた指導を展開する。美術科での既習事項を踏まえ、それらを総合的に活用して日常的、活実用的な「学習活動」のまとめに役立てる能力を身に付けさせる。

### 4 主たる評価規準

客観的な情報や自分の考えを、目的に即し視覚的な効果を生かして表現することができる。

### 5 題材名

学習成果を発表するためのポスター制作

### 6 指導のねらい

美術科としての指導目標を達成するとともに、その過程で、いわゆる“「読解」のプロセス”を有効に位置づけていく。適性表現（果すべき目的と機能を伴うデザイン表現）としての位置づけを明確にさせ、実用的な表現活動に結び付けられるようとする。

## 7 題材について

生徒が様々な学習活動で日常的に直面している「まとめと発表」という共通局面を題材として取り上げ、美術科の既習事項を複合的に活用し、そのまとめと発表に用いるポスターを制作する。制作に当たっては分かりやすく美しく表現し、発表したり交流したりすることに役立てられるよう意識付ける。他教科との連携の仕方によつては、造形的な要素や所要時間に制限を加えるなどして、無理なく日常化と実用化を図れるよう、条件整備をして扱う。

## 8 使用するテキストについて

他教科と連携をとり、この題材を扱う時期の学習内容を把握しておき、それぞれの学習内容に即したテーマを、各自の興味、関心にあわせて選択させる。各教科で使用している教科書や資料集、授業で使用したワークシート、板書の写し、ノート、別に作成したレポートの類など、あらゆるものをテキストとして位置づけることができる。

## 9 授業の実際（4時間扱い）

### (1) 発表内容をまとめスケッチする

作品化することを想定して、多教科での学習を踏まえた内容を取捨選択しポイントを絞る。それに基づいてレイアウトなどを大まかにスケッチし、全体の構想を確かめていく。同じ教科を扱う者同士でグループ編成をしておく。

### (2) グループ内で交流する

大まかなスケッチの段階でグループ内で交流する局面を設ける。ここで学習成果を共有し相互評価を進めることにより、自分の取り組みをふり返り、作品制作に反映させる機会とする。

### (3) 制作と活用

制作を進める。完成作品は各教科での発表で活用すると共に、展示して互いの作品を鑑賞の機会として位置づけると共に、相互評価の対象とする。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

### (1) 共有できる要素を拾い出す

その定義づけはもとより、教科の枠を超えて指導すべきものとして位置づけられていることが示すとおり、「読解力」育成には複数の異なる教科指導の、様々な局面に共通する要素が多く含まれる。従って、他の教科の指導計画にも目を向け、それを念頭に置きながら『事例集』にざっと目を通すだけでも、他教科での既習事項を美術科の指導に役立てたり、その逆や、あるいは相互に関連付ける方向での可能性に気付くはずである。まずはこうした共有可能な要素の拾い出しを通して、美術科の指導内容全般や題材ごとの課題を、教科の外側から見つめ直してみるとよいだろう。

### (2) 長期的な指導計画に位置づける

いくつかの題材について(1)に示したような作業を進めていくと、長期的な指導計画への位置づけ方も、少しづつ思い描くことができるようになる。日頃からこうした意識を高め、全体構想をイメージするという作業を習慣付けておくと、美術科が教科として身につけさせるべきことの再確認も可能になり、3年間を通して指導計画立案にもそれを反映させることができる。

## 11 まとめ

「読解力」の取り組みを進めていくと、教科指導の本質をあらためて見極め、再構築を図ることの必要性に気付くと思う。『事例集』はその過程で多くの示唆を与えてくれる。美術科が本質的に位置づけ扱ってきた学習題材を今一度、種々の「テキスト」の活用と関係付けて考え日々の実践に生かすとよいだろう。

(三浦 匡)

## チームの特徴や評価を新聞記事から読み取る

### ア（ウ）課題に即応した読む能力の育成

#### 1 参考にした事例

新聞記事を読み、自分の考えを発表する。  
p.106-107（国語・中2）

#### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 正解は1つではないことを理解しておくとともに、様々な意見の違いを楽しむことができるようとする。つまり、着眼点を何処に置いたかということに話題の中心が置けるとよい。
- (2) 自分自身に情報が入ると、無意識的にそれに対して情報分析している。あえて意識化することで自分のチームを批評する力が生まれ、自分たちにとってより良いチームづくりのために課題を発掘するための一助となる期待がある。

#### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

情報からチームの特徴・課題を明らかにしようとするとき、即応して読むことができる力。

#### 4 主たる評価規準

すでに身に付けた知識や技能を使って、短時間で分析的な読みができる。また、それを書き出したり、発表したりすることができる。

#### 5 単元名

サッカー

#### 6 指導のねらい

最近、サッカーは新聞・雑誌・TVスポーツ番組でよく取り上げられるようになった。

生徒たちは男女問わず、サッカーに関する情報を受け取る機会が多くなっている。

まずは、自分の知識や技能と照らし合わせながら「読む」能力を高めたい。読みを進めていくことで、知らないルールや用語が登場することが考えられ、そこでひとつの学習場面が設定される。仲間と相談したり、自分自身でさらに情報検索する機会も得られる。

自らの知識や技能を使ってチームの分析をおこなうことで、以後のゲームただ「見る」ということから、試合の流れを読みながら、積極的に「観る」という態度が身に付けることができるようとする。テキストを読み解いたところから、簡単な設問を用意して分析をしやすくする。

#### 7 単元について

サッカーは、選手配置や攻守のフォーメーションにはいろいろなパターンがある。

チームの特徴を踏まえて攻撃を考えたり、相手のチーム力を分析して、攻守の仕方を工夫することが必要となる。そして、その作戦やねらいに合わせたチームプレーが大切となる。

#### 8 使用するテキストについて

サッカーのチームを紹介したり、取り上げた新聞記事の切り抜き

#### 9 授業の実際（2時間扱い）

テキストを理解・評価しながら「読む力」を高めるためることを目標として取組1をおこなう。次にテキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高めることを目標にして取組2を

おこなう。それぞれの取組を 1 つのワークシートを使っておこなう。

### (1) 取組 1 の説明文より

いよいよサッカーワールドカップ(ドイツ)が始まりました。昨日は、日本対オーストリア戦がおこなわれました。その新聞記事(資料①)から、日本代表チームの特徴(優れた点や課題点など)を読み取ることをねらいとして読みましょう。



取組 1 :「読む力」

### (2) 取組 2 の説明文より

新聞から読み取ることができた情報を整理したいと思います。次の点について、要約して書いてください。

○日本代表チームの優れているところを「要約」してください。

○日本代表チームの問題点・課題点を「要約」してください。



取組 2 :「書く力」

選択球技サッカー2006ワークシート №5	
ゲームを読み解こう(思考・判断)	組 姓 氏名
取組1【目標①】テキストを理解・評価しながら「読む力」を高める ちょっといいよサッカーワールド杯。ドイツ大会が始まりました。昨日は、日本一オーストリア戦がおこなわれました。新聞: 資料①(の情報)から、日本代表チームの特徴(優れた点や課題点など)を読みとることをねらいにしながら読みます。	
新聞を読んで、意味のわからないルール・用語があったら、アンダーラインを引き、書き出しましょう。そして、試し合ったり検索してわかるようにしましょう。 〔 〕 ... 〔 〕 ... 〔 〕 ... 〔 〕 ... 〔 〕 ...	
取組2【目標②】テキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高める 新聞からの読み取ることができた情報を整理したいと思います。 次の点について、要約して書いてください。	
(1)日本代表チームの優れているところを「要約」してください。 ..... ..... .....	
(2)日本代表チームの問題点・課題を「要約」してください。 ..... ..... .....	

ワークシートの例

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) チームの比較をする機会があることで分析的な読みは促進される。テキストの選択のしかたに工夫をしたい。
- (2) チーム分析の経験によって、試合前の両チームの戦力や攻防に関して予測することまでに興味・関心を持たせたい。
- (3) 多角的な情報収集や分析的な観戦ができる力も身に付けられるようにしたい。それが生涯を通してスポーツに親しもうとする態度となって現れてくると考える。

## 11 まとめ

いきなりにチームの分析をさせることには無理がある。いくつかの設問をヒントにテキストを要約することから始めるようにしたい。今回は、球技領域のサッカーを取り上げた。チームの比較、チームの分析は他のスポーツでも可能であると考える。

(末岡 洋一)



## 製作品の構想をスケッチに描いて具体化する

ウ（イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

課題学習で「読解力」を育成する  
—コンセプトマップ法の活用を通して—  
p98,99（理科・中1）

### 2 参考事例の活用の視点

(1) 参考事例では生徒が考えたことを表現させる手段として、コンセプトマップの効果的な使用法が示されている。技術で行うものづくり学習の設計段階でも、製作する作品の機能・構造・加工法などを検討し構想をまとめる学習活動がある。この課題に取り組む際には、構想したことを文章を使用して表現させるだけでなく、図などの視覚的にわかる方法も併用して自分の考えを説明させている。思考したことを図や文章で表現するという行為は考え方を整理するだけでなく、自らの考えをふり返ることができるようになるという効果もあると考えた。

(2) 参考事例では授業を行う際のポイントとして、生徒の思考を発展させるために行う教師の支援活動の大切さがあげられている。技術の場合、ものづくりの経験が浅い生徒にとって自分の考えが実現可能かどうかという判断は難しいものである。生徒に課題解決の見通しを持たせるためにも、設計者である生徒と教師がコミュニケーションしながら設計を修正していく支援が大切になってくる。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

製作品の構想を文章とスケッチ（非連続型

テキスト）によって表現する活動を通して「読解力」の育成を図る。

### 4 主たる評価標準

- ・使用目的や使用条件に即した製作品を構想し、その設計について工夫し創造している。
- ・製作品の構想を図や文章を書いて表現し、考えたことを説明することができる。

### 5 単元・題材・教材名

「身のまわりの問題を解決するものを作ろう」

### 6 指導のねらい

本題材では設計から製作までのすべてに取り組み、自分の力で最後までやり遂げることを目指している。この学習活動を通して生徒にやり遂げたという達成感・成就感とともに自分でできたという自信を持たせ、生活を営む上で生じる課題に対して自分なりの判断をして課題を解決することができる能力（問題解決能力）を身につけさせたい。

### 7 単元・題材・教材について

問題解決能力は生活の自立を目指すために大切な力であると同時に技術・家庭科の最終的な目標の一つでもある。この力を育成するためには自分の頭で考える活動と、考えたことを自分の手を使って実現させるという活動が同じくらい大切であると考えている。市販のキット教材を使用すれば作品の実用性や完成度を上げることはできるが、考えさせる活動が不十分になり単なる技能・知識の習得で終わってしまう可能性がある。構想の検討か

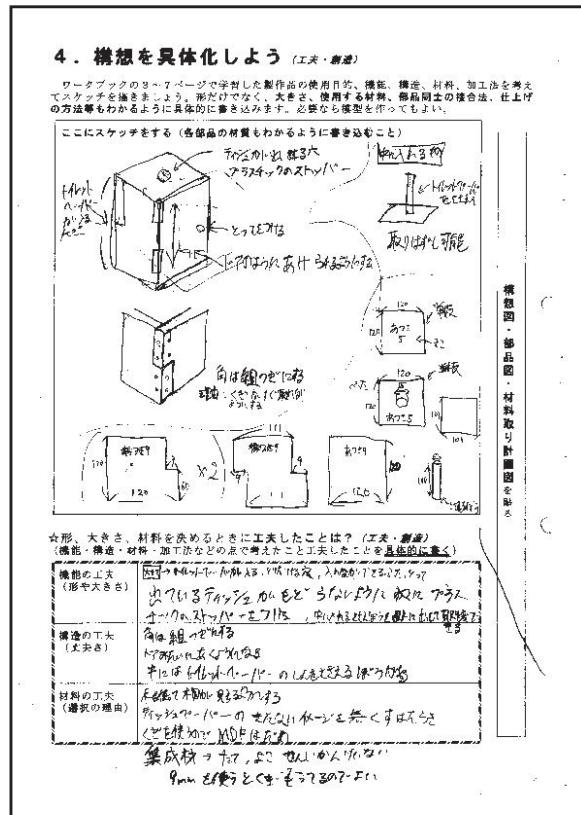
ら作品の完成までのすべてを自分の力で行うことは生徒にとって苦労も多く指導する側としても簡単なことではない。しかしその分やり遂げたときに生徒が味わう達成感・成就感も大きいものとなり、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育成することができると考える。

## 8 使用するテキストについて

製作品の構想をまとめるために描くスケッチを主なテキストとして使用する。スケッチには製作品の形状・大きさ・構造などを図で表示させるが、機能の工夫や接合方法などの図で表現することが難しい事柄は図のまわりに文章で書き込ませる。スケッチする目的を明確にし、フリー手帳で描かせる。

## 9 授業の実際（20時間扱い）

- (1) 家族の様子を観察したり意見を聞いたりしてものづくりによって解決できる問題を見つける。製作品の使用目的・使用条件や設計に必要な情報を書き出してはっきりさせる。
- (2) 使用する材料の特徴や丈夫な構造にするための方法などを学習し、設計するために必要な知識を習得する。
- (3) 製作品の機能・構造・加工法などを総合的に検討し、考えたことをスケッチと文章で表現し教師に説明する。アドバイスを受けて構想を再検討し必要なら修正をする。
- (4) スケッチを基に等角図で正確な設計図を描く。
- (5) 製作工程表を作成し作業の計画を立てる。
- (6) 計画に従って作品を製作する。



スケッチの例

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 本題材に取り組む前に設計図の描き方や道具の使い方などの基礎的な技能や知識を習得させるための基礎題材を設定しておくとよい。
- (2) 構想が表現されたスケッチを見ながら「なぜこの形・大きさにしたのか」などの問い合わせを行い、必ず理由を説明させる。同時にアドバイスも積極的に行い、生徒の実力から考えて難しいと判断した場合は修正するためのヒントを出して支援する。

## 11まとめ

技術分野では非連続型テキストやその他のテキストを扱うことが多いが、「読解力」の指導のねらいの中で今回取り上げなかったものについても今後取り組みながら改善ていきたい。  
(朝比奈 忍)

## 発表活動

ウ(イ)自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

自己紹介

p94,95 (英語・中1)

動)で、実際に生徒が行った会話文を正確に直した対話文を用いて発表させる。

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 自己紹介は、生活していく上で欠かせない活動であり、相手とのコミュニケーションを上手くとるためのきっかけとなる。他人の前で自分のことを話す活動は英語科で積極的に取り入れていく活動である。
- (2) 自己紹介をさせるまでの過程で、自己紹介のモデルを提示する (Input) →自分についての自己紹介の文を作り練習する (Intake) →皆の前で発表する (Output) →評価する (Assessment) →間違えた所を確認してやり直したり、より長い文を作り自己紹介文をする (Action)。このようにスムーズな流れで活動を行っている点が効果的である。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力が身につくことを目指し、原稿を覚え、相手にわかりやすく表現する能力を育てる。

### 4 主たる評価規準

初歩的な英語を用いて、場面やトピックに応じて相手に対して適切に話すことができる。

相手の話したことを見聞き取り、適切に応じることができる。

### 5 単元・題材・教材名

本校で行っている One minute talk (ペアで1分間あるトピックについて会話する活

### 6 指導のねらい

学習指導要領の目標に、「英語で話すことに慣れ親しみ、初步的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようとする」とあるがこの活動はこの目標と合致する。トピックを指定しての会話、電話での応対、道案内、買い物、家庭での生活などの具体的な場面を想定し、適切な言語活動ができるようする。

### 7 単元・題材・教材について

One minute talk とは、与えられたトピックについて、ペアで自由に会話させる活動で、2年生から行い、毎回授業のはじめに行っている。この活動はトピックの設定がキーポイントである。生徒にとって話しやすいトピックは、comics, teachers, games, shoppingなどであった。実際に生徒が話した会話を文にしたものを見書きし、発表した。

### 8 使用するテキストについて

生徒の作った対話文をテキストとして用いた。下の英文はあるペアの行ったもの。トピックは「comics」である。

- A: Hello!  
B: Hi! It's a nice today. How are you?  
A: I'm fine. It will be rainy this afternoon.  
B: Really? I didn't bring my umbrella. Now, do you like comics?  
A: Yes, of course. I like Ramma3. How about you?  
B: I like comics, too. I like Tubasa It's CLAMQ's comics.

A: I know that one. I watched it on TV. I like Ramma3 more than Tubasa.  
B: I don't think so. Which do you like better, comics or books?  
A: I like comics, better. How about you?  
B: Me, too. Because it's very interesting.  
Why do you like comics?  
A: Because comics are easier for me than books. Do you think so?  
B: Yes, books are difficult for me too!

## 9 授業の実際（5時間扱いとしたが学校や生徒の状況により異なる。）

- (1) One minute talk を行い、その対話文を文字にしてみる。
- (2)・(3) ペアで練習する。
- (4) 皆の前で発表する。見ている他の生徒は、評価表にその評価を書いていく。
- (5) 間違えたところを確認し、場合によっては、もう一度やり直す。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 人前で英語を話すことによって、英語に対して自信をもたせるようにする。
- (2) アイコンタクトや会話をすすめるときの態度を意識させる。
- (3) 声の大きさやジェスチャーの使用など、どのようにしたらわかりやすい発表になるか工夫させる。
- (4) 自分で対話文を作ることによって、今まで習ってきた英語を総合的に使うことができるようとする。
- (5) 友達の発表を聞くことにより、自分の発表をふりかえるようにする。

## 11 まとめ

発表活動は、生徒が自分たちで英文を書き発表することを目的としている。トピックやテーマを自分たちで設定できるので、生徒の興味関心に合った英文を考えることができる。その中には、「対話形式」「報告」「意見を言う」なども含まれている。発表活動は「話

す」と同時に、他の生徒にとっては「聞く」活動となる。他の生徒の発表を見て、自分では思いつかなかった言語の使用場面を理解したり、伝達する際にどのようにすれば効果的であるなどを理解できる。

発表の際には必ず目標を立てさせる。「声を大きく」「発音に気をつける」「つかえずに言う」などである。これらの具体的な目標を設定し、練習することによって、より高度な発表活動へと発展していく。他人の発表を見て、刺激を受け、今度はもっと良い発表にしたいと思わせることが大事である。

「自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成」は、読む能力はもちろんのこと、書く能力、話す・聞く能力の育成と関連付けていく必要がある。発表活動は、書き、読み、話し、聞くのすべて駆使する活動であり、思考し発信することができる活動である。また、自分の意見や経験を述べることもできる。年間計画の中に入れ計画的に行いたい。

英語科の目標は「実践的コミュニケーション能力」の育成である、この目標は「自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成」とほぼ一致すると考えられる。PISA型読解力は、言うまでもなく国際人として必要な能力である。人前で話すことや意見をいうことが苦手なままでなく、積極的にコミュニケーションを図れる生徒を育てていきたいと考えている。本校では、「実践的コミュニケーション能力」を高めるために有効な手段であると考えて発表活動に取り組んでいる。ペア、インタビューなどで行う言語活動を取り入れ、生徒の発話の機会をできるだけ多くするようしている。

時間はかかるが、発表活動によって、対話を続けようとする態度は確実に身についている。

（平間 貴志）

## 具体的な根拠を明示した上で自分の考えを表す

### イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

#### 1 参考にした事例

自分の考えを企画書にまとめてプレゼンテーションする p56,57（国語・中3）

る能力を高める。

#### 2 参考事例の活用の視点

##### （1）体験から根拠を導き出している点

参考事例では、実際に近隣の図書館に足を運ぶという体験を学習過程に盛り込み、その体験を通して得た知識や発見を根拠に、自分の考えを構築している。

そこで、本単元では次の二つの体験をベースに授業を構成した。

- ①考え方をもつための土台となる”読書体験”
- ②考え方の根拠となる“日常生活での体験”

①の体験を通して得た自分の考えに対して、そう考えるに至った根拠を日常生活の中で確認していくという流れをとった。

##### （2）自分の考えを筋道立てて表している点

参考事例では、A4一枚の企画書に自分の考えを簡潔に書くという条件を提示することで、自分の思考過程を振り返らせながら、考え方の筋道を書き表すことに成功している。

本単元では、画用紙大のポスターを書くという表現活動を設定し、読み手を意識しながら、限られた紙面に自分の考え方をわかりやすく書き表すという学習場面を与えることで、考え方の筋道を意識させた。

#### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

根拠を明示した上で、自分の考えを表現す

#### 4 主たる評価規準

身近にある資料（新聞・雑誌・パンフレット等）を活用して具体的な根拠を立て、自分の選んだ本が2007年に流行すると思う理由をわかりやすく書き表している。

#### 5 単元

「2007年大予想！」

今年はこの本が流行する！！」

#### 6 指導のねらい

総合的な学習の時間における読解力の育成にあたっては、『読解力向上に関する指導資料』（注1）に次のような記述がある。

体験活動等を通じて芽生えた課題意識を基にして、課題の解決に必要な情報を獲得し、それを自分の知識・技能と結び付け、自分なりの考え方を深め、自分なりの言葉でまとめ、表現するところまで含めて学習を完結させることが期待されるところである。

今回、学習者は、個々の読書体験から自分の考え方を導き出し、その考え方の根拠に具体性をもたせるための資料を、日頃触れている様々な情報の中から探す。この情報を獲得していく過程で、漠然としていた自分の考えが自身の中で明確な道筋をもち始める。それをポスターという形式で表現させることで相手意識をもたせ、具体的な根拠を明示しながら、無理のない流れで自分の考え方を書き表す能力の育成を目指した。

## 7 単元・題材について

朝の読書ブームで、中学生は今までになく本を読んでいる。

そこで、朝の読書を中心とした読書体験の中から自分の考えがもてるよう、「2007年に流行する本を予想する」という共通の課題を提示した。課題を共有することで、のちの交流活動に必然性が伴うと同時に、様々な考えに触れることによる個々の考えの深まりが期待できる。

予想を立てた学習者は、その予想を支える資料を日常生活の中から探し、具体的な根拠を明示する際のテキストとして活用する。

ポスターの作成を通して、彼らは自分の予想とその根拠をわかりやすく読み手に伝えるために、資料を効果的に活用しながら、考えの筋道を言葉に表していくのである。

## 8 使用するテキストについて

①学習者の読書体験、②③から導き出した本、③日常生活で触れている様々な情報（新聞や雑誌の記事、パンフレット等）が主なテキストとなる。体験にテキストとしての価値をもたらせたことが本単元の特徴である。

## 9 授業の実際（3時間扱い）

### (1)自分の考えをもつ

○2007年に流行する本を予想し、その根拠を支える資料（新聞や雑誌の記事、パンフレット等）を探す。

### (2)考えを表す

○(1)の資料を活用しながら根拠を明示し、流行すると思う理由をポスターにまとめる。

### (3)お互いの考えを交流する

○ポスターを使って、流行すると予想した本について友だちと語り合う。

### (4)学びを広げる

○校内にポスターを掲示し、ポスターを通して異学年・異クラスの相互交流をはかる。

○ポスターを見て、興味をもった本を読む。



【2006年を表す漢字が「命」に決定したという新聞記事を根拠に、自分の考えを説明する学習者】

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

### ①体験をいかす

体験をいかした学習活動は実際的であり、学習への取り組みを真剣にさせる。

### ②資料を活用させる

根拠に具体性をもたせる一方法として、資料の読み方・活用の仕方を学ばせる。

### ③考えを交流させる

お互いの考えを交流させることで、新たな発見や考えの深化が期待できる。

## 11 まとめ

「…〇〇さんは熱く語っていた。流行する理由以上に、その本がどれだけ好きなのかジンジン伝わってきて、読んでみたくなった。

今回は根拠の適切さがポイントだったが、私が交流で発見したことは、どれだけ人に熱く語ってもらえるかで、その本の未来が変わっていくということ。どれだけ人を熱くさせるかが、その本が流行するかどうかの本当のポイントなのだと思った。」

読書は、読書行為自体はもちろんのこと、本そのもの、読書環境にいたるまで、全てが教材としての可能性をもち、豊かで幅広い学習活動が展開できる。読書を切り口とした学習を通して、本に対する意識を新たにする子どもも多い。本を手に取る子どもは、読書を指導していく中で育つ。（杉本 直美）

（注1）『読解力向上に関する指導資料』

文部科学省 2005.12

## 国語・高1（国語総合）

### 石垣りんの詩における、構造・形式や表現法を評価する読解

#### ア（イ）評価しながら読む能力の育成

#### 1 参考にした事例

クリティカルリーディングのための三角ディベート（マイクロディベート）学習

p104, 105（国語・高1・2）

#### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 意図的に立場を変えるディベートでは、多角的に物事をとらえることを学ぶ。説得力のある主張をするためには、根拠を明確にし、かつ客観性も伴っていなくてはならない。この点を意識したうえで、詩の読解を行う。ここでは、ワークシートに取り組んだ上、3人グループを作り、意見交換することを通して読みを深める。
- (2) 発表においては、ナンバリングとラベリングを意識すると、自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。発言者がこのことを理解し、自らの考え方を整理した上で、他者にわかりやすく伝えると効果的である。

#### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

PISA型「読解力」でいう「読解力」とは、従来の読解（理解したという地点）にとどまらず、それを効果的に話したり書いたりする能力までを含んでいる。ここでの活動では、理解したことをワークシートにまとめる（書くことによる発信）と、3人グループでの意見交換において自分の考えを発表すること（話すことによる発信）の二つの活動を意識的に取り入れている。

#### 4 主たる評価規準

- (1) 詩中に根拠を求めながら、自らの考えをまとめ、的確で説得力のある文章で表現している。
- (2) 自らの考えを、他者にわかりやすく伝えるための工夫をしながら、積極的に発言しようとしている。
- (3) 他者の考えを積極的に聞き受容することで、新たな視点に気づき、自己の中で思考を再構築している。

#### 5 単元・題材・教材名

詩「シジミ」（石垣りん）

#### 6 指導のねらい

今回は、3人でグループを作ったが、ディベートではなく、グループ内での意見交換とし、読解した内容を発信することに取り組んだ。

読むこと（受信）→思考・吟味（熟考）→話すこと・書くこと（発信）というプロセスを授業に意図的に取り込むことで、読解した内容を発信することの大切さに気づかせる。読解力の伸長を図るために特に「発信」の重要性を生徒たちに伝え、指導者もこれを意識して取り組む。自己の考えをまとめ発信すること、他者の意見を聞き、その結果、自己の中での、思考の再構築すること、などが期待される。

#### 7 単元・題材・教材について

韻文は評論文に比べると、論理性という点では劣るが、読み手の自由な発想を認めるという点では優位性がある。当然、詩の解釈は

読み手それぞれの考えが認められる。生徒にとっては、これまでの経験を十分に活用しながら、読解の切り口が自由に与えられている教材である。答えが一つではない韻文の特徴を利用し、生徒からさまざまな読みを引き出し、それを表現することで自分の考えを確認することに適している。

## 8 使用するテキストについて

石垣りん『シジミ』(三省堂・新編国語総合)

## 9 授業の実際（3時間扱い）

(1) 詩「シジミ」の内容理解を深める。

(2) 以下のようなワークシートを取り組む。

ポイントは2点ある。

- a) 作者には「伝えたいもの」があり、より正確に、より効果的に伝えるための工夫がなされている点に気づかせる。
- b) 作者の表現意図をクリティカルに読み解き、根拠を示しながら評価する姿勢を身に付けさせる。

### ワークシート

①三連一行目「鬼ババの笑い」とは、どのような笑いだと思いますか。

②一連四行目「口をあけて」と三連四行目「うつすらと口をあけて」と、二箇所に同じような表現があります。作者・石垣りんの表現の意図を説明してください。

③詩全体を通して、作者が詩の形式や詩の構造で、工夫していると感じる点を書いてください。また、それによってどのような効果が得られていますか。

- (3) 3人グループを作り、ワークシートの番号ごとに、一人90秒で自分の考えを発表する。(これが自己の中で受信した情報を思考・吟味し、発信する作業である。)その後グループ内で話し合い、そこで出たものを代表者がクラス全体に向けて発表する。(これがグループ内で受信した情報を発信する作業である)。

ここでは二重の「受信→熟考→発信」という学習活動を通して、読解を深めていく。

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 3人グループでの話し合いにおいては、ディベート事例でも再三指摘されているとおり、自分の意見を根拠を持って説明することを強く意識させる。
- (2) 意見交換では、お互いが話しやすい環境を作ることが大切である。中央に三角形の空間ができるように机を配置し、生徒相互が他の意見を尊重しあいながら話し合いが進められるようになるとよい。  
(対決姿勢を和らげる)

## 11 まとめ

読解力を向上させるための視点のひとつに、理解・評価しながら読むことがある。そのためには読解した内容を、生徒一人ひとりの中だけで完結させず、書くことや話すことで発信させることが有効である。指導者も、意識的・意図的に取り組むとよい。

ここでは、3時間扱いの単元としたが、この前にさらに2時間確保できれば、次のような工夫もできる。平成18年3月発行の「指導事例集」P112・P113にある「文章や資料から、作者（作家）の紹介カードを作ろう」の活動を組み込むのだ。国語便覧を利用した紹介カード作成によって、作者への理解が深まり、親近感を持って作品に接することが可能となる。作品執筆時の時代背景や、作者が置かれていた状況を考慮しながら詩を読解することで、作品理解がさらに深まることが期待される。

(遠藤 広樹)

## 本の紹介文を書く

イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

### 1 参考にした事例

本の紹介文を書く

p108, 109 (国語総合・高1)

### 2 参考事例の活用の視点

- (1) 読んだ本の内容を的確に理解する力と自分の考えを適切に表現する力を育成する手立てとして、2学年においても本の紹介文を書くことを課す。
- (2) 新しい要素として、紹介文の意見と自分の意見とを比較させる。これによって、読みの多様性についての認識を深めさせるとともに、生徒が互いに本についての刺激を与えあうことをめざす。

### 3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

読んだ本を的確に理解する力を高める。さらに、その本についての他者と自分の意見の異同について的確に理解し、それを適切に説明する力を養う。

### 4 主たる評価規準

読んだ本の内容について自分が理解したことや考えたことを、紹介文に示された考え方と対比しながら、的確に表現し、かつ他の生徒も興味を持てるように紹介できている。

### 5 単元・題材・教材名

単元：小説（二） こころ

「本の紹介文を書く」の前段階として授業において、生徒の感想を発表させたり、100字～200字程度の感想をFDなどで提出させ教師が編集して配布するなどして、他の生徒

の意見に触れる機会をつくるようとする。

題材：図書室・国語科教室等にある「ブックリスト」掲載の本、およびそれについての夏休みの課題の集約プリント。

※本校では、教職員及び生徒の推薦する本のリストを、紹介文とともにホームページに掲載し、閲覧に供している。以下、これを「ブックリスト」という。

### 6 指導のねらい

今回は夏休みの課題（9の(1)参照）の集約または「ブックリスト」から1冊選んで読み、感想・意見などを書くことを課した。その際、紹介文の筆者の意見と自分の意見・感想とを対比して書くように要求した。この課題の集約を配布することによって、生徒が読みの多様性を知り、また、仲間の読書に刺激を受けて自分も読もうと思ってくれることを願っている。

### 7 単元・題材・教材について

『こころ』は定番教材であり、多くの生徒が学習するはずである。授業の中で、「K」や「先生」の生き方などについて、文章を書いていたり発表したりして、読みの多様性に触れているものと思われる。ここでは、発展的学習として、9に記載のような授業を実施した。

### 8 使用するテキストについて

ブックリスト（「ブックリスト」については5参照）。

## 9 授業の実際（4時間扱い）

- (1) 夏季休業中の課題として、ブックリストから1冊、それ以外からもう1冊本を読んで紹介文を書き、FDなどで提出させる。様式等は事前に説明しておく。
- (2) 提出されたものを集約し、「読書案内」として授業で配布する。生徒はこれを参考し、(どうしてもない場合はブックリストから)本を選んで読む。(2時間、図書室・国語科教室で授業を行う。読み切れない生徒は課題とする。)
- (3) 感想・内容紹介などを、(2)の紹介文の意見などと対比して書き、FDなどで提出する。紹介文の筆者への手紙の形式をとってもよい。(1時間、パソコン教室を使用。終わらない生徒は課題とする。)
- (4) (3)を集約したプリントを授業で配布する。目を通させた後、意見・感想などを言わせる。(1時間)

## 10 事例の効果的活用のためのポイント

- (1) 夏の課題の際、ストーリーだけでなく、表現にも留意させるため、その本の中で最も印象に残ったセリフや描写を抜き出させる。
- (2) 課題提出の際に様式等を指定しておくと、集約が楽で、提出後すぐに生徒に配布できる。パソコンの使用やスキルについて「情報」科にあらかじめ確認しておくとよい。

## 11 まとめ

他の生徒が書いた紹介文は、かなり熱心に読まれており、それなりの刺激になったようである。生徒の読書意欲を喚起し、読書量を増やすことで国語力の向上につながることを願っている。

なお、ここでは文学作品で実施したが、自分の進路に関わるような本（新書など）で実施しても有意義であろう。この活動は「総合

的学習の時間」などの学習活動にも含めうる内容と思われ、また、他教科の協力を得てこうした本のブックリストを作れれば、利用価値があるものになるとも思われる。

(松岡 豊)

「夏休みの課題」集約から
「——いつか必ず、だれもが時の闇の中へちりぢりになって消えてしまう。そのことを体にしみこませた目をして歩いている。」
吉本ばなな『キッチン』（角川文庫）
主人公、桜井みかげの両親は、そろって若死している。そこで祖父母が彼女を育ってくれた。中学校へあがる頃、祖父が死んだ。そして祖母とふたりでずっとやってきたのだ。
先日なんと祖母が死んでしまった。
そしてひょんなことから祖母と仲が良かった雄一と雄一の母（本当は父）と同居することになる。雄一の優しさに触れていく中でみかげは心を和ませていくのだった。
みかげは幼いときから大変な経験をしているためすごく大人で物事をよく考える子だと思いました。私は思いついたらよく考えもせぬ行動してしまうほうなのでとても勉強になりました。みかげと雄一の不思議な関係やセリフ、そして話の展開がとてもおもしろいと思うのでぜひ読んでみてください。
【うま】

本授業の課題より
吉本ばなな『キッチン』（新潮文庫）
だれかを失うことのかなしみや生きることのつらさ、切なさ・・・そんなことが全く教訓ぼくなくとても自然に、優しく伝わってくる作品で、読んでいるとじんわりと温かい気持ちになれました。「読書案内」の中の【うま】さんは、みかげはすごく大人で物事をよく考える子、と表していますが、私はみかげという女の子は一方で感受性がとても素直で、純粋な優しさをもつ子だと思いました。でも【うま】さんと共におすすめできる点は、物語の展開がとてもおもしろく読みやすいということです。文体も自由で新鮮さに溢れています。
人はときにつまずいて、苦しさから逃れたくなる。でも自分を包んでくれる、抱きしめてくれる神様のようなものはきっとある。そう心から思ってくれる稀有な小説です。ふんわりと癒されたい人や、感動で泣きたい人、あるいは今すごく悩んでいる人にもぜひ読んでほしいです。
【くるみみ】

## PISA型「読解力」に関するQ&A ①(情報&資料収集編)

Q 1 : PISA調査ではどのような問題が出題されたのでしょうか。調査問題や結果に関する詳細な情報はどこから得たらよいのでしょうか？

A 1 : 文部科学省・国立教育政策研究所のHPでPISA関係の資料が閲覧できます。また、以下の①・②に紹介した書籍にもまとめられています。

- ①『生きるための知識と技能（2）OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2003年調査国際結果報告書』国立教育政策研究所編、ぎょうせい
- ②『PISA 2003 調査 評価の枠組み OECD生徒の学習到達度調査』国立教育政策研究所監訳、ぎょうせい  
→すでにPISA 2006が実施されています。今後の新しい情報にも注目していく必要があるでしょう。

Q 2 : PISA型「読解力」を意識した指導をしていく際にはどのような視点から授業を組み立てたらよいでしょうか。指導の方向性を示してくれる資料はありませんか？

A 2 : まずは以下に記した資料には必ず目を通しておくべきと考えます。

- 『読解力向上に関する指導資料』文部科学省、平成17年10月  
→この指導資料には、①PISA調査における読解力の定義や調査問題の特徴、②調査結果とその分析、③指導の改善の方向、④各教科・領域等の授業における45の指導例、などが示されています。PISA型「読解力」を意識した指導を展開する際にはこの資料に示されて

いる、七つの「指導のねらい」を念頭におくとよいでしょう。なお、この『指導資料』は書店でも手に入れることができます。

Q 3 : PISA調査において世界の注目を浴びているフィンランドの教育について知りたいのですが？

A 3 : 次の①・②の書籍をおすすめします。

- ①『フィンランド・メソッド入門』北川達夫・フィンランド・メソッド普及会、経済界、2005  
→「発想力・論理力・表現力・批判的思考力・コミュニケーション力」の五つのメソッドからフィンランドの教育とその背景について解説されています。
- ②『フィンランド国語教科書 小学3年生』、メルヴィ・バレほか著、北川達夫・フィンランド・メソッド普及会訳・編、経済界、2005  
→上記五つのメソッドを身につけるための国語教科書の日本語翻訳版です。

Q 4 : この冊子には、第1部にあたる「読解力向上のための指導事例集」があるそうですが、入手方法を教えてください。

A 4 : 以下のアドレス（横浜国立大学教育人間科学部）からPDFファイル（8MB）でダウンロードできます。

<http://www.edhs.ynu.ac.jp/mt/news/2007/jireisyu2006.html>

(黒尾 敏)

## Ⅱ部 「読解力」評価問題

## 「評価」についての考え方

### 1. PISA型「読解力」における評価について

学校における教育活動には、評価が伴う。PISA型「読解力」においても、何を、どのように評価するのかが、その学習の内容と方向性を規定するものとなる。PISA型「読解力」においては、次の7つの「指導のねらい」に示されている内容が、評価項目となる。

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

(イ) 評価しながら読む能力の育成

(ウ) 課題に即応した読む能力の育成

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実す

ること

(ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成

(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

上記、7つの「指導のねらい」は、それぞれの項目において育成すべき能力の内容が示されている。したがって、ここに示された能力の育成について、評価を行うことになる。このことは、「指導のねらい」に沿って、授業における指導によってこの7つの能力を育成することができたか、ということが問われる。ここに、PISA型「読解力」における指導と評価の一体化がある。

### 2. 各教科の評価とPISA型「読解力」の評価との関係

各教科の評価についてその評価規準は、小学校と中学校においては「評価規準の作成、評価方法の工夫のための参考資料－評価規準、評価方法等の研究開発（報告）」国立教育政策研究所（平成14年2月28日），高等学校においては「評価規準、評価方法等の研究開発」国立教育政策研究所（平成16年6月18日）に評価規準が示されている。

この評価規準は、各教科の学習指導要領の「目標」と「内容」とであり、各教科で実現すべき能力が示されている。

しかし、その中にはPISA型「読解力」で育成すべき能力の内容は、含まれてはいるものの、それは各教科で育成すべき能力の内容であり、それらをそのままPISA型「読解力」で育成すべき能力に置き換えることはできない。各教科には、各教科で育成すべき能力があり、それを実現するのは、各教科の授業を通してであることは言うまでもない。

そこで、PISA型「読解力」としての評価内容と評価項目の設定が必要となる。PISA型「読解力」で育成する能力は、上記の7つの「指導のねらい」に示されている内容であるが、それは、上記の各教科の評価規準とは、別に位置づけることが求められる。さらに、7つの「指導のねらい」は、その対象とする評価内容を、そのまま各教科におろしても、目

標とする評価規準には大きすぎてしまう。

そこで、『読解力向上に関する指導資料』（文部科学省 平成17年12月）の7つの「指導のねらい」の解説に示されている内容に沿って、各教科の評価規準に示されている内容とは別の具体的に、PISA型「読解力」としての評価内容を設定する必要がある。

言い換えれば、各教科の評価規準とPISA型「読解力」の評価規準とを併記することが求められる。ただし、全ての教科で全ての内容にPISA型「読解力」の育成を行っているのか、というとそうではない。そこで、カリキュラムの中に、PISA型「読解力」の授業として評価規準を位置づけることが求められる。このことは、教科の評価規準と、PISA型「読解力」の評価規準とを併記することになる。

教科学習を通して育成する学力とPISA型「読解力」として育成する学力とは、似ている場合もあれば、異なる場合もある。そこで、PISA型「読解力」での評価を明確にする意味でも、PISA型「読解力」の評価規準を明確に示す必要がある。

### 3. 「受信する→考える→発信する」プロセスにおける評価

PISA型「読解力」は、「受信する→考える→発信する」という学習のプロセスによって育成される。従って、PISA型「読解力」の評価は、この一連のプロセス全体を評価することが求められる。

この「受信する→考える→発信する」というプロセスを分離し、「受信する」「考える」「発信する」をそれぞれに評価しては、PISA型「読解力」としての学習の意味が無くなる。学習は、段階を踏むものであるので、「受信する」「考える」「発信する」については、それぞれの学習を文節的にとらえて考えざるを得ない側面もある。しかし、PISA型「読解力」という学力の育成を評価するには、「受信する→考える→発信する」というプロセスそのものを対象化することが求められる。

PISA型「読解力」の評価は、パフォーマンス評価としての学習のプロセスそのものの中での評価もあるが、「受信する→考える→発信する」というプロセスの出口である「発信」の内容をとらえることによる評価が、比較的行いやすい。

この「発信」の内容を評価することは、外言化された「書くこと」や「話すこと」という表現されたものが評価を行いやすい。評価の対象となるのは、「受信する→考える→発信する」というプロセスの内での最終段階ではあるが、それは、それまでのプロセスによってあるので、「発信」された内容を評価することは、プロセス全体を対象とすることにもなる。言い換えれば、結果として外言化されたものによって評価を行う、と言うことである。

さらに、PISA型「読解力」の評価では、一連の「受信する→考える→発信する」という1回のプロセスのみでなく、「受信する→考える→発信する」ということが繰り返されるサイクルの中で、PISA型「読解力」の育成が図られていくことにも目を向けなくてはならない。このことは、一つの教材や単元によって育成される学力ではなく、年間の授業を通してPISA型「読解力」を育成していくことでもある。

それは、先にも述べたが、各教科や総合的な学習の時間で行う授業の中で、各教科等の評価規準とは別立てに、PISA型「読解力」の評価を、7つの「指導のねらい」に沿って評価内容と評価項目とを明確に位置付けることによって、より、具体的な評価が行える。

## 文章とグラフを結びつけて読む

ア（イ）評価しながら読む能力の育成

### 1 評価問題例

【以下に示すテキストを参照してください】

・使用テキスト

「エネルギー消費社会」高木 仁三郎

・出典

「●みんなと学ぶ 小学校 国語 六年 下」学校図書 平成17年度

・問題として引用する部分

(1) 第9段落の「現在の経済では…」(p,33,l,14) から第10段落の「それがどうしても必要です。」(p,35,l,8) まで。(第9段落の冒頭「また、」はのぞく。)

(2) グラフ「買いかえまでの使用年数」(p34)

(3) グラフ「増えていくごみの量とその内訳」(p35)

・問い合わせ

問題1 「買いかえまでの使用年数」のグラフで、6品目を示したことに対するあなたの考えを書きましょう。

問題2 作者が、「買いかえまでの使用年数」のグラフを示した理由を書きましょう。

問題3 「森林を守るためにも、それがどうしても必要です。」という筆者の意見が、さらに 説得力をもつようにするためには、どのようなグラフを加えたらよいでしょう。

## 2 「読解力」に関する評価規準

### 問題 1

- ・6品目を示すとかえってグラフが分かりにくくなることに気付いている。
- ・使い捨て文化の問題が、車だけの問題ではないことに気付いている。

### 問題 2

- ・「使い捨て文化」から「長持ち文化」にあまり変わっていないことに気付いている。

### 問題 3

- ・紙のリサイクルに関するグラフ
- ・森林面積が減少していることを示すグラフなど

## 3 評価を行う場面

- ・単元終了時の定着度テストとして

## 4 評価問題作成のポイント

### 問題 1

- ・よい面と悪い面の両面から解答が導き出せるように配慮する。

### 問題 2

- ・グラフだけでなく、本文に注目するよう配慮する。

### 問題 3

- ・「中でも、今どうしても実現したいのは、紙のリサイクルです。」の一文が「増えていくごみの量とその内訳」のグラフからだけでは読みとれない。この点を評価する能力が身に付いているのかを確かめる。

## 5 評価事例

### (1) B :

#### 問題 1

- ・6品目示すとかえってグラフが読みにくいので、より身近なカラーテレビ、電気冷蔵庫、ルームエアコンの3品目でよい。

#### 問題 2

- ・「長持ち文化」にあまり変わっていないことを示すため。

### 問題 3

- ・古紙回収率
- ・国内で消費されている再生紙の推移
- ・森林面積の推移 など

### (2) C :

#### 問題 1

- ・どれか1品目の変化をたどらせ、買いかえまでの使用年数があまり変化していないことに注目させる。

#### 問題 2

- ・「これからは、『使い捨て文化』から『長持ち文化』に変わっていくべきだと思うのはなぜか考えさせる。

#### 問題 3

- ・「紙のリサイクル」という言葉に着目させる。

## 6 まとめ

- ・主張を支えるものという視点でグラフを評価する。(問題 1)
- ・「買いかえまでの使用年数」のグラフとと「これからは、『使い捨て文化』から『長持ち文化』に変わっていくべきだと思います。」の一文とを比較することは、言語感覚を養うことにつながる。(問題 2)
- ・グラフの効果に気付くことができる。(問題 2、3)
- ・文章だけでは説得力が弱い部分について、筆者の意見を補強するグラフを示すことができる。(問題 3)

このように、文章やグラフを評価する力が身に付くと、内容をより深く理解することができる。また、筆者の意図を推察する力も身に付く。

(中村 弘志)

## 異なる二つの意見を解釈・評価する

ア（イ）評価しながら読む能力の育成

## 1 評価問題例

**「まちに出てくるサルについて、注意をよびかけるお知らせ」****町内会からのお知らせ****サルの対策について**

サルが畑をあらしたり、人をおそったりするひ害が増えています。サルは人が追いはらわないと慣れてしまい、人をおそれなくなります。サルの害をなくすためには、サルの数を減らし、山にもどす必要がありますので、次のことに注意してください。

**(1) 田や畑でえさを取れないようにする。**

サルが田畠に入らないように、使わなくなった田畠を管理したり、取り入れた後に出た野菜のごみをきちんと片付けたりする。

**(2) むやみにサルを殺さない。**

ボスザルを殺すと群れが分かれて、かえって活動のはん団や勢力が広がるので、サルどうしの力関係を考えなければいけない。

**(3) サルが近づかないように、いつも気をつける。**

追いはらいをけい続的に行うとともに、サルが入れないような柵を作る。

サルがえさを求めて山から下りてくる原因是、山の自然をこわしてサルの食べ物をなくしたり、餌をやって人に慣れるようにしたり、人の住む所には食べ物があると教えたりしてしまった人間のせいだと思います。

サルを殺したり、つかまえておりに入れたりしても、サルの害は減りません。サルの群れを減らしても、別の群れがその場所に入ってきて同じことをくり返すからです。電気柵やネットで防いだり、発信器などを使ってサルの行動をつかんだ上での追いはらいをしたりするなどの作業を根気よく続けることが大切だと思います。

電気柵…電気を通して、さわるとしごれるよう細工をした柵



Aさん

サルにおそわれて自分の家族や子どもが危険にさらされたり、畑の作物のほとんどを食いあらされたりして生活に困っているという現実を見てください。きっと「サルを大切にしよう」などということはだれも言えなくなると思います。

家庭の小さな畠なら柵を作れると思いますが、農業で生活している人の場合、大がかりな柵で囲むのに、どれだけの費用がかかってしまうでしょう。ネットをはるにしても、多くの農家の働き手はお年寄りで、そんな大変な作業はできない事実を分かってください。



Bさん

前のページの「町内会からのお知らせ」とそれについての「Aさんの意見」「Bさんの意見」を読んで、問1~4に答えてください。

**【問1】** 「町内会からのお知らせ」の「(2)むやみにサルを殺さない」で言っている「むやみにサルを殺してはいけない理由」は、次のうちどれですか。

- ① 動物の命を大切にするために、むやみに命をうばってはいけない。
- ② サルを殺すと人間との関係がさらに悪くなるので、命をうばってはいけない。
- ③ ボスザルがいなくなると、活動はん団や勢力が広がってひ害が増える場合があるので命をうばってはいけない。
- ④ サルが減り続けて絶めつのおそれがあるので、命をうばってはいけない。

**【問2】** Aさんが提案するサルの害を防ぐための方法の問題点は、どのようなことでしょう。

**【問3】** AさんかBさんのどちらか一人を選んで、その人の考えに対する反対意見を書いてください。

**【問4】** (どちらの意見に賛成かは別として) AさんかBさんの意見をもとに、サルの害への対さくとしてあなたがよいと思う方法を【問3】で答えたときの立場から書いてください。

## 2 「読解力」に関する評価規準

**【問1】③ 【問2】**多額の費用がかかること。

農家が高齢化で作業が困難なこと。

**【問3】(例)**Aさんの意見に対して、Bさんの考え方や自分の考え方など確かな根拠を基に批判の考え方を述べている。(Bさんの意見に対しても同様) **【問4】**自分の立場を明確にして考え方をもち、具体的な方法を書いている。

## 3 評価を行う場面

- ・ 学習後に、評価しながら読む能力の育ちを客観的につかむテストの一部として用いる。

## 4 評価問題作成のポイント

- (1) 異なる二つの立場の意見を客観的に読み、評価する能力をつかめる問題にすること。
- (2) 批判したことを通して自分の意見をもち、活用しようとしているか評価できる問題にすること。

## 5 評価事例(問3を例として)

- (1) **B :** 「Aさんは、サルが現れたのは人間の

せいと言うけれど、人をおそうようになって実際にけがをしたり死んだりするおそれが出てきたのだから、放っておけないと思う。」

**B :** 「Bさんは、サルについて悪く言うけれど、もともとサルが近づくようになったのは人間に責任もあるのだし、もっと人が努力して共に住めるような方法を考えるべきだと思う。」

(2) **C :** サルが下りてくるようになった原因、町の人の事情を一つ一つ取り上げ、それに対してどう思うかと聞くことによって、自分の考え方を基準にした評価ができるようにする。

## 6 まとめ

環境に関する問題は、それぞれの立場によって事情が異なり、意見の対立が生まれる。確かな事実を基に自分の考え方をもち、しっかりととした根拠を基に客観的に評価する力が育つような指導と評価をしたい。

(鈴木 彰)

## 「黄色いボール」の筆者の表現意図を考察する

ア（イ）評価しながら読む能力の育成

### 1 評価問題例

【以下に示すテキストを参照してください】

・使用テキスト

「黄色いボール」立松 和平

・出典

「新しい国語 4下」東京書籍 平成11年度

・問題として引用する部分

(1) 第1段落の「パパは、黄色いテニスボールを…」(p,80,l,2) から第23段落の「ケンちゃんのかパパに会えたら、ぼくはこのボールをもどさなければならない。ずいぶんよぎれてしまったが、このボールはパパのものだ。」(p89,l,10) まで。

(2) 各段落に1～23までの段落番号を付ける。

(3) 第23段落の「ケンちゃんかパパに…」以降の二文に渡って傍線をつける。

・問い合わせ

問題1 ぼく（タロウ）の苦しさや恐さが、強く表している段落の番号を2つ書きましょう。

問題2 なぜ作者は、ぼく（タロウ）が苦しむ姿を多く描いたのでしょうか。あなたの考えを書きましょう。

問題3 物語の展開をふまえると、一線部「ケンちゃんかパパに・・・パパのものだ。」という文をあなたはどう思いましたか。あなたの考えと、その根拠を書きましょう。

問題4 黄色いボールは、物語の中でどのような役割をしていますか。文章中の言葉を使って説明しましょう。

## 2 「読解力」に関する評価規準

問題1 [14] [17]

### 問題2

- ・苦しみの中でも黄色いボールを離さなかったタロウの、パパやケンちゃんへの思いの強さを表すため。
- ・モモちゃんとの出会いによって救われたタロウの喜びを強調するため。

### 問題3

[肯定的] ケンちゃんと遊ぶ夢を見たり、どんなに恐いことがあっても黄色いボールを離さなかつたりしたタロウの気持ちがよく表れていてよい最後だと思う。

[否定的] タロウがひとりぼっちだとさみしくなり、死ぬかもしれないと思ったのはパパのせいだから、最後はモモちゃんとの幸せな生活で終わらせるべきだと思う。

### 問題4

- ・黄色いボールを落とさないように逃げたり、横に置いて寝たりしながらも、モモちゃんと出会った時にはボールを離し、手をなめた。黄色いボールは、タロウのパパやケンちゃんへの気持ちそのものだと思う。

## 3 評価を行う場面

この問題は、開発単元「自分の力でゴールを決めろ！」（2006 附属横浜小公開授業研究会）の単元終了時に使用したものである。この単元では、様々な物語の最終場面を意図的に隠して児童に提示し、児童自らが書く。それと作者が書いた最終場面を比較し、自分の考えをもつことをくり返してきた。物語の言葉ひとつひとつに着目し、人物の心情の変化や情景描写をとらえると納得のいく最終場面が描けることを実感した児童は、自らの最終場面に強い思いをもち、作者の最終場面に対する考えを述べていた。その中で、作者の巧みな書きぶりを知り、物語を読む新たなおもしろさを発見していた。単元のまとめとして行ったのがこの問題である。

## 4 評価問題作成のポイント

- (1) 物語というテキスト全体を直に批評することは、小学校段階では難しい。まず、適切に情報を取り出せるかを問い合わせ、そこから作者の意図を考える問題へと発展させたい。
- (2) このような形式の評価問題では、決まった文言の正答が導きにくい。文章中のどこから考えを導き出しているか、その考えに妥当性があるか、などの規準を立て、判定をしていきたい。

## 5 評価事例

- (1) B：文中の言葉を用い、物語に対して自分の考えを述べていることが最初の規準となる。単なる想像ではなく本文をふまえた根拠のある考え方を導くこと、さらに物語の展開や全体像を把握することが大切である。
- (2) C：まず、登場人物や場面展開を整理し、内容を理解させたい。そこから登場人物の心情の変化を捉え、物語のテーマなどを考えさせたい。その上で作者の意図やねらいを探る発問を取り入れることが必要だろう。

## 6 まとめ

物語文は不可侵なもの、完成されたものという概念がある。これまでの国語科学習の多くが、テキストに何が書かれているか、そこから作者は何を伝えたいのかという受動的な立場で学習が進んでいたように思う。しかし、物語文も文字情報のひとつと考えるとそれに対して自らが能動的にかかわってもよいのではないか。

物語の世界にどっぷりつかり、その世界を味わい、心を動かすことも国語科の重要な役割であり、学習である。この目を物語への主観的なアプローチとすると、その学習と並行して一步引いた目でテキストをとらえ、その構造や作者の意図にせまるような目、いわば客観的なアプローチも今後重要であろう。

(茅野 政徳)

## 文章やグラフの情報を関連づけ、自分の意見を論理的に構成する

## イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

## 1 評価問題例

5 まとめ	4 予想される反論に対する意見	3 根拠	2 「意見文構想表」ワーカシート	1 「意見文構想表」
<p>私は、日本が二酸化炭素の排出量を六パーセント削減するためには、最も効果的だと考える。</p>				

「問」 Yさんのクラスでは、「日本が二酸化炭素の排出量を六パーセント削減するには、どんな方法が最も効果的か」というテーマで意見文を作成することになりました。あなたは、どんな方法が最も効果的だと考えますか。「資料A」「資料B」を参考にして、構想表の①「意見」・②「根拠（理由）」の要点を書きなさい。

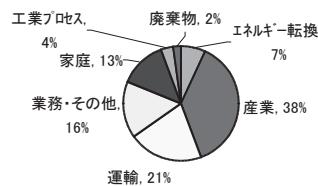
二〇〇五年二月十六日、「京都議定書発効」のニュースがメディアにぎわいました。以来、みなさんも、「省エネ」「クールビズ」「地球環境にやさしい」「再生利用」などの身近な環境活動に関する言葉をよく耳にするようになりました。この「京都議定書」で、日本は、二〇〇八年から二〇一二年までの間に、温室効果ガスの排出量を、一九九〇年に比べ六パーセント削減することを約束しました。この六パーセントの削減のために、私たちには、様々な面から二酸化炭素の排出量を減らさなければなりません。

◎次の資料A・Bを参考にして、あとの問題に答えなさい。

## 「資料A」

## 「資料B」

## 我が国の部門別二酸化炭素排出量



②二酸化炭素排出量の約50%が産業、家庭に関係しているので、連携して3R運動を行えば二酸化炭素の削減を効果的にできると考えたから。

(2) C：資料A・Bの情報とかかわりなく、意見と根拠を書いています。

→資料Aの情報（省エネ・クールビズ等）と資料Bの情報（産業、運輸、家庭等が多い）をとらえさせ、効果的な方法と根拠を明確にさせる。

## 6 まとめ

本問題は、意見文を書く学習の構想づくりの場面を設定して作成したが、生徒が目的意識を明確にして情報を収集できたり、収集した情報を生かす部分を明らかにして意見文の構想を立てられたりできるようにした。

\*本評価問題は伊勢崎式学習プリント作成委員（伊勢崎市立第二中学校）高橋敬子先生の作成問題を基にしたものである。（栗本郁夫）

## 2 「読解力」に関する評価規準

資料A・Bの情報を基に、二酸化炭素を削減する最も効果的な方法と根拠を明確に書くことができる。

## 3 評価を行う場面

- ・意見文記述後の単元の評価場面
- ・定期テストの一部

## 4 評価問題作成のポイント

○目的を明確にして必要な情報を収集できるよう、設問に目的を明記したり、根拠となる資料を様々な形態で提示したりする。

○収集した情報を活用して筋道立てて組み立てられるよう、場合によっては構想表のような形で活用場面を明確にするのもよい。

## 5 評価事例

(1) B：資料A・Bの情報を関連づけて、意見と根拠を書いています。

(例) ①各企業・家庭で、3R運動を展開すること

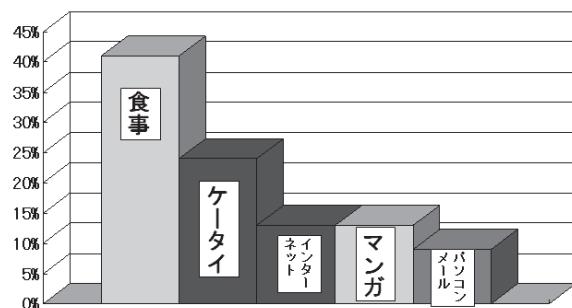
中学生のテレビとのつきあい方をグラフから分析する。

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

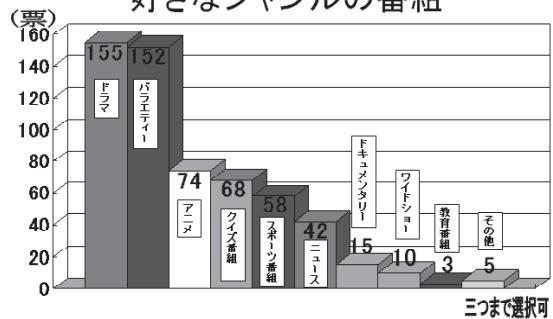
### 1 評価問題例

問 次の二つのグラフは本校の生徒アンケートから得られた結果です。この二つのグラフから、最近の中学生のテレビとのつきあい方について、150字以内で書きなさい。

テレビを見ながらすること



今の中学生が好きなジャンルの番組



### 2 「読解力」に関する評価規準

二つのグラフから情報を引き出し、推論し、文脈を構築をし、根拠を示しながら、自分の考えを表現（記述）することができる。

### 3 評価を行う場面

- 単元「ポスターセッションをしよう」のまとめで、調べたことや引用する図・表
- グラフから情報を導き出す手立てを身につけたことを評価する場面で行う。
- 定期テストの一部として行う。

### 4 評価問題作成のポイント

- グラフの形式（折れ線グラフ・円グラフ・棒グラフ）によって、読み取れる情報の質（経過・割合・量の順位）なども考えさせるように配慮する。
- データは新聞記事の統計調査を活用し、生徒の作文と実際の記事の文面とを比較分析し、発展的学習につなげるのもよい。

### 5 評価事例

- B：中学生はテレビを「ながら視聴」しており、番組も楽しく気軽に楽しめるものが好まれているといったように、二つのグラフの情報を関連づけ、根拠を示しながら、自分の考えを書くことができる。
- C：グラフでの順位を書くことができるが、二つの情報を結びつけた文脈を書くことができない場合、自分の日常生活に結びつけ、想像をふくらませて書くように導く。

### 6 まとめ

このような「非連続型テキスト」の読解では着目すべきポイントは多様であり、正解は一つではないが、根拠をふまえ自分の考えを表現する正しい構成方法を身につけさせたい。互いの作品を読み合い、評価し合うことも授業に取り入れるとよい。（中村 純子）

遣隋使として聖徳太子に提案する

ウ（イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

## 1 評価問題例

次の課題において記述で答えなさい。

「遣隋使として隋にやってきたあなたは、進んだ文化を学び、それをもとに今後の日本をどうしたら良い国にできるのか、聖徳太子に提案することになっています。隋の古文書館いでかけたところ、中国やまた、中国以外にも古代文明があったことを記す歴史書を発見しました。そこには驚くべき事実が書き並べてあることを発見したあなたは、その文明について、出来るだけ魅力的にアピールしてください!」

## 2 「読解力」に関する評価規準

- ・ある文明を資料を効果的に活用して読みやすい構成でわかりやすくまとめている。
  - ・その文明でつくられたもので取り入れるとよいのものについて説明している。

### 3 評価を行う場面

## 単元 古代国家と東アジア 古代国家のまとめとして

#### 4 評価問題作成のポイント

- (1) この単元で学習した概念や学習方法をもう一度自分で復習する機会となるように配慮して設定する。

## 5 評価事例 ※右面参照

6 まとめ

この小レポートを書くことでこれまでに学習した内容をもう一度、比較・検討しながら読む機会になると考へた。さらに「遣隋使として今後の日本をどうしたら良い国にできるのか、聖徳太子に提案する」と状況を仮定することで学習課題をより明確にし、自覺的な読みの能力を育成することが期待できる。

(三藤 あさみ)

5 評価事例

- (1) B ;

エジプト文明

太陽歴

①人陽居  
まわしもんやしきジブリは「ガル川」がいつも水をかかれて、橋の  
間にひかれていた。そこで太陽燈が発達しました。なぜかという  
と、「ガル川」は毎年同じ時期に秋をもたらす予測があるから  
です。神官は、星を利用して予測することになります。これらを利  
用して太陽川で祭典を行なうと、外から人々が、今まで古びた太  
陽川を見に行きました。

いつか  
おじいちゃん

② 農業の発展と測量術の発展  
農業・測量術はどちらが先で、農業に影響を与えたのか? 農業は、オアシスが毎年雨季に降ります。草木を高めると、エジプトの豊饒な収穫を可能にしました。また、灌漑期に農地をはさんで干し田を作りました。測量術はオアシスに水を運ぶのがどうやっていったか、開拓地をどのように分けていたかなどを詳しく説いています。

(2) C : 内容をもう一度ふり返り理解し直す  
ように支援する。

口-ア文明を取り戻すと  
市民と体になり、どうとも発展  
できます!!

まずは、  
まずヨーロッパ文明の発展は、  
「市民の戦い団」から!!  
そのおかげで、地中溝一帯を築きました。

発展したあと、  
水利も良くなりました。  
区々  
(3)  
水道橋を作り、貯木場  
トレイや、公会堂や  
貯水池などに  
有効利用しました。

ヨーロッパは、水利利用や人々の團結力が良いので  
ここで発展していました。

日本では、  
人々の團結力  
水の有効利用  
を取り戻すまでは!!

## 数学・中2

### 図形の性質を証明する記述を評価する課題

ア（イ）評価しながら読む能力の育成

四角形ABCDで、 $AB = DC$ ,  $AD = BC$ ならば $AB \parallel DC$ ,  $AD \parallel BC$ であることを次のように証明しました。この証明にふさわしい図を描き、証明の中で不適切であるところを、理由を付けて指摘して下さい。

＜証明＞ 四角形ABCDにおいて、対角線ACをひき、

$\triangle ABC$ と $\triangle CDA$ で

$$AC = CA \quad (\text{共通な辺}) \cdots ①$$

$$\angle BAC = \angle DCA \quad (\text{平行線の錯角は等しい}) \cdots ②$$

$$\angle BCA = \angle DAC \quad (\text{平行線の錯角は等しい}) \cdots ③$$

①, ②, ③より 1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABC \equiv \triangle CDA$$

したがって、2組の向かい合う角が等しいから 錯角が等しいので、

$$AB \parallel DC, AD \parallel BC$$

#### 2 「読解力」に関する評価規準

記述された証明を読んで、内容を正確に把握し、不適切なところを、理由を付けて指摘することができる。

#### 3 評価を行う場面

「平行四辺形になるための条件」の証明について学習した授業の終末に、学習内容の定着を確認するための小テストとして実施する。

#### 4 評価問題作成のポイント

- (1) 仮定や結論を正確に把握することができているかを確認するために、この部分に不適切な記述を入れる。
- (2) 文章だけの記述にすることで、文章に適した図を描くことができるかを確認できるようにする。

#### 5 評価事例

- (1) B : 適した図を描くことができる。また、証明では、②と③は結論で述べるものであり、ここでは、仮定の  $AB = DC$ ,  $AD = BC$  を記述し、それに伴って合同条件が変わることを指摘できる。
- (2) C : 適した図を描くことができない場合は、 $AB = DC$ ,  $AD = BC$  となる四角形ABCDを描くよう個別に指導する。図は描けるが、不適切なところを指摘できない場合は、仮定と結論が何であるかを明確にする。

#### 6 まとめ

図形の証明では、文章から適した図を描く指導から始めてことで、日常的に読みとる力を育成したい。  
(大谷一)

## 科学事典の文章「循環している自然」を読み理解する

ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 1 評価問題例

「循環している自然」に関する科学事典の文章を読み、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) 下線部 a 「太陽エネルギーが利用できる形」とは、どのような形ですか。  
ア. 光エネルギー イ. 熱エネルギー ウ. 化学的エネルギー  
エ. 運動エネルギー
- (2) 下線部 b 「これ」は、具体的には何のことですか。  
ア. 食べすぎた植物 イ. 若芽や木の皮 ウ. シカの体  
エ. 運動するときのエネルギー
- (3) 下線部 d の「養分」という言葉は、理科の世界では「植物に必要な物質」の時に使われ、「栄養」という言葉と区別して使われます。具体的に「養分」と「栄養」は何が違うのでしょうか。  
ア. 養分は無機物、栄養は有機物 イ. 養分は複雑な有機物、栄養は単純な化合物  
ウ. 栄養の中でも、土に含まれるものと養分と呼ぶ  
エ. どちらも同じだが、植物の場合には養分、動物の場合には栄養という言葉を使う
- (4) 下線部 e 「固定された」の、ここでの意味について、もっとも適切なものを答えなさい。  
ア. 「吸収した」という意味 イ. 「使われた」という意味  
ウ. 「物質の状態になった」という意味 エ. 「液体から固体になった」という意味  
オ. 「気体から固体になった」という意味

### 2 「読解力」に関する評価規準

今まで学習してきた理科の知識を利用して科学事典の内容を理解し、さらに深い内容の考察をすることができる。

### 3 評価を行う場面

第2分野「循環している自然」

定期テストの一部として使用することもできるが、今回は単元終了時にグループワークの形で取り組ませた。

### 4 評価問題作成のポイント

- (1) 科学事典から得られた文章を加工し、国語の長文読解の問題に似せた形式を取る。
- (2) 読解力に加え、思考力を試す課題を多く取り入れる。

### 5 評価事例

今回はグループワーク課題として、全て選択肢を用意した。そのため、できた、できないの判断は容易である。できなかった（C）と判断される生徒も、グループとしての結論を出す過程で話し合いが行われるため、考えが深まっていくことになる。

### 6 まとめ

今回、「国語の能力では解けない長文読解の問題」を意識して作成した。また、グループでの討論がしやすいように選択肢を設けたが、選択肢の内容をよく吟味することで、安易に記述式にするよりも思考レベルを上げることが可能である。

（五十嵐 俊也）

## 美しいハーモニーを響かせるために楽譜を読む

ウ（イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

### 1 評価問題例

楽譜A  
(多声的なハーモニーの譜例)

楽譜B  
(和声的なハーモニーの譜例)

問1 楽譜Aと楽譜Bのハーモニーの成り立ちの違いを問う問題を出題する。

例) AとBのハーモニーの特徴をそれぞれ考えて答えなさい

問2 既習済みの合唱曲から同じようなハーモニーで成り立っている箇所を問う問題を出題する。

例) 楽譜A、楽譜Bそれぞれと同じようなハーモニーで成り立っている部分を、前回歌った「合唱曲名」から見つけ出し、その部分の歌詞を書きなさい。

問3 実際に歌う場合の留意する点について問う問題を出題する。

例) 楽譜A、楽譜Bを歌うときにどのように留意して歌うべきか、自分の考えを書きなさい

### 2 「読み解力」に関する評価規準

#### 問1

- 多声的ハーモニーと和声的ハーモニーの区別が楽譜から読み取れている。

#### 問2

- 「既習した合唱曲」の「歌詞」の部分は楽譜Aと同じハーモニーの成り立ちである。(楽譜Bについても同様)

#### 問3

- 楽譜A(多声的なハーモニー)は、お互いの音をよく聞き、それぞれのパートが別々の動きをしていることを意識して歌うべきである。
- 楽譜B(多声的なハーモニー)はお互いの音をよく聞き、美しい調和のとれたハーモニーを作るべきである。

### 3 評価を行う場面

- ワークシートや定期テストの一部として出題し、評価をする。
- 実技テストのを行い、実際の歌唱表現において工夫することができているか評価をする。

### 4 評価問題作成のポイント

- (1) テキストから思考・判断をし、歌唱表現につながるような問題を作成すべきである。

### 5 評価事例

- (1) B : テキストから多声的ハーモニーと和声的ハーモニーの違いを読み取り、歌唱表現に工夫をすることができる。
- (2) C : 楽譜というテキスト読み取れない場合は、音や音楽そのものというテキストから多声的ハーモニー、和声的ハーモニーの違いを感じ取らせる。

### 6 まとめ

ハーモニーの比較にとどまらず、歌唱表現について考え方をもち実際に歌唱するというプロセスを確立させることで、音楽科(この場合は歌唱)において何を学習させるべきかを明確できることがわかった。

(杉山 利行)

## 定められた視点に基づいて対象を観察する

- ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成  
 イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

## 1 評価問題例

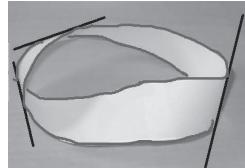
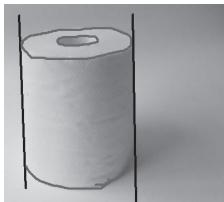
●下の参考文を読み、右の問い合わせに答えなさい。

物をみて描くとき、輪郭線を用いて形を表現する方法や、輪郭線を直接には描かずに明暗や色彩の差で表す方法などがあります。西洋では長い間、輪郭線の多くは「実際には存在しない」線として考えられていて、輪郭線に頼らずに立体感を出して形を表す方法(モデリング)を追求していました。逆に日本では浮世絵(木版画)のように、くつきりとした輪郭線で人物の顔の輪郭などを描き、立体感は出さずに平面的に描く方法をとっていました。東西の文化交流が進むうち、日本の浮世絵は西洋の人たちに知られることになり、彼らはその新鮮な表現方法に大きな衝撃を受けました。ゴッホなどは浮世絵を「未来の絵画」を感じ、熱心に模写したり作品の中に取り入れたりしました。

## 2 「読解力」に関する評価規準

説明文を読み、着眼点を明確に意識しながら示された写真を参照し、問い合わせに対する説明をすることができる。

[回答例] (写真に図示して)



- ①→いざれも紙の切断面として実際に存在する線だから。  
 ②→曲面が回り込んで見えなくなる境界となる部分が線になって見えるだけで実際には存在しないから。①は常に曲線で②は常に直線。①と②は常に溶け込むように滑らかに合流して描くことができる。

## 3 評価を行う場面

・「A表現」の題材として

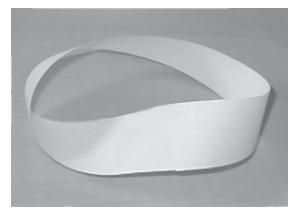
「観察」して描く活動のなかに位置づける。“スケッチ”は、対象をそのまま描くことは意味を異にするが、対象を“深く観察”する方法のひとつとして、ここに示したような視点の定め方をすることができる。

・「B鑑賞」の題材として

鑑賞の題材(対象学年は2・3年生になる)として日本(輪郭線を用いて平面的)と西洋(一時期までは輪郭線を用いないことに腐心)の絵画表現の違いに関連付けて扱うなどすることができる。

【問】 下の写真に、次の①、②で示す線を色分けしてなぞり、その理由やそれぞれの線にみられる特徴を説明しなさい。

- ① 実際に存在し輪郭線としても描ける線  
 ② 実際には存在しないが輪郭線として描ける線



## 4 評価問題作成のポイント

教科の特性を踏まえ、言語的な要素と造形的な要素の対応や関連付けや、両者の双方向的な概念のやり取りを促すことができるよう、配慮する必要がある。言語情報と視覚的な情報を組み合わせながら、自分の意見を表現するといったような作業を要求する形式としてもよい。

## 5 評価事例

- (1) **B** : 図へのかき込みを正しくすることができており、説明については①曲線、②直線の特徴に触れている。  
 ②について説明しようとしている。

- (2) **C** : 考えようとしない／図へのかき込みだけで終わらせる……など

[指導の手立て]

写真的上だけで考えず、様々な角度からの見え方を推察させながら実際に描かせたりして、考えるよう促す……など。

## 6 まとめ

美術科の題材はややもすると、ただ描く、ただ見る、感想を述べさせる……などをさせるだけの活動に陥りがちである。表現と鑑賞の活動の過程に「読解力」を意識した局面を組み込むことにより、種々の能力をより深めたり高めたりするための新たなヒントを得ることができる。

(三浦 匡)

## 「陸上競技」で跳躍競技の踏み切りを分析する

ア（ウ）課題に即応した読む能力の育成

### 1 評価問題例

並んでいるふたつの図は、「走り高跳び」と「走り幅跳び」それぞれの踏み切り一步前(踏み切り準備動作)の姿勢を表しています。次の各問い合わせに答えなさい。



走り高跳び



走り幅跳び

- ① ふたつの動きを比較し、その相違点を明らかにしながらそれぞれ(走り高跳び・走り幅跳び)の踏み切りの特徴を、文章で書きなさい。
- ② 踏み切りは、助走の力を活用することが大切となります。①で考えたことも踏まえながら、それぞれの理想的な助走の仕方を考え、文章で書きなさい。

### 2 「読解力」に関する評価規準

テキストを参考に、短時間で運動のある局面について分析的に読み解くことができる。

### 3 評価を行う場面

- ・ 学習指導要領では、領域「陸上競技～走り高跳び・走り幅跳び～」は、どちらかを選択することになっている。けれども、授業の場面で、それらを比較対照させる「問題」提示によって運動局面への思考が深まる。
- ・ 定期テストの一部としての活用も期待できる。

### 4 評価問題作成のポイント

- (1) 比較対照させることから思考を深めさせることができる。
- (2) 比較対照させるためといってオーバーな動きの図にしない。実際の自分自身の動き方を思い浮かべようとする程度にと

どめることが大切である。

### 5 評価事例

- (1) B :

  - ① ふたつの動きの違いを挙げ、それぞれの動きの特徴を明解にしている。
  - ② 助走から踏み切りに移行する際の身体の沈み込みに触れた記述がある。

- (2) C :

  - ① 肢体を部分的に注視させる。
  - ② 跳躍競技の助走が、疾走のままの動きから踏み切りに入らないことを気づかせる。

### 6 まとめ

種目選択制の導入により種目固有の動きに着目することが多いが、このような領域内の比較対照から「わかる」ことが多い。

(末岡 洋一)

## 家庭分野・中2

### 「食生活を考える学習」での総合力を試す

ア（ア）目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

#### 1 評価問題例

今まで学習してきた食生活に関する知識や理解の状況を総合的に問うものです。次の文を読み、あなたの考えを述べなさい。

・約10年前から日本の自給率（カロリーベース）は40%です。農林水産省は、食料の輸入がなくなても、国内生産のみでも国民が最低限度必要とする食料（1人1日当たり2020kcal）が、いも類への生産転換などにより供給可能と試算しています。その場合、現在ほぼ自給できている鶏卵は、1週間にSサイズを1個しか食べられない。その理由を述べなさい。

#### 2 「読解力」に関する評価規準

- ・鶏を育てるのに必要な餌（トウモロコシなど）をほとんど輸入に頼っているから（輸入できなくなると鶏が激減する）。

#### 3 評価を行う場面

- ・題材「食生活を考え変える」
- ・教材 いちばん身近な「食べもの」話
- ・食生活の学習のまとめの段階

#### 4 評価問題作成のポイント

- (1)単なる暗記でなく、既習の知識や経験を生かし、関連づけて考えることができるものとする。
- (2)多様なテキストや資料活用を積み重ね、総合的に思考していく基盤をつくるもとにする。
- (3)さまざまな情報を解釈し、推論できる要素を入れる。

#### 5 評価事例

- (1)B：鶏卵ができるまでの状況や背景を推測し、飼料などの問題に気づくことができるかがポイントとなる。

(2)C：全くわからない場合は、隣席同士で考えを述べあい意見を交換する。また「鶏インフルエンザが流行って死んでしまうから、卵の輸出量が増えるから、鶏肉を食べ過ぎて鶏が減るから…」などの返答の場合は、「1個の卵ができるまでには何が必要かを考えよう」「輸入が全くできなくなると、どんなことが予想される？」などのヒントを与えながら、さまざまな考えを引き出す。それでも導き出せないときは、正答を出した生徒に発言させ、学級全体で共有する。

#### 6 まとめ

毎時間の学習で得た情報を理解し、それらの知識を相互に関連づけて解釈したり、生活経験も結びつけて思考する能力を育成するようにしたい。「鶏の餌はトウモロコシとは限らない。おじいちゃんのところの鶏は雑穀や草を食べていました」などの発言があった。実体験に基づくこのような情報を大事にするとともに、思考のプロセスを重視しながら授業を重ね、「その背景にあるものを見極める力」をつけていきたい。  
(西岡 正江)

身近な題材を内容としたテキストを活用して、コミュニケーション能力を育成する

イ（イ）日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

1 評価問題例

1. 次の質問に対して、正しいものの記号に○をつけて下さい。

What did Mr Kojima want to be in junior high school days?

ア A doctor. イ A teacher. ウ A pilot.

2. あなたの立場で（ ）の中に英語で答えて下さい。

① Are you thinking about your future course now?

Yes, I am. I want to ( ).

No, I'm not. But I want to ( ).

② Are you worried about your future course?

( ).

③ What do you think about your future course? Are you worried about your future course? Please tell me about your future course in English or Japanese.

2 「読解力」に関する評価規準

1. ウ

2. に関しては各個人での解答になり、できる限り英語で答えるよう指示するが、日本語でも構わないこととする。

3 評価を行う場面

・授業中にワークシートを使用し、回収後評価を行う。

4 評価問題作成のポイント

- (1) 生徒が答えやすいように、記号を使用した解答しやすい問題から自分の考えを具体的に述べるやや難易度のあがった問題へと移行した内容にする。
- (2) 使用する単語や表現は、本文で使用したものを使用するようにし、設問の内容が多くの中学生に理解しやすいように努める。

5 評価事例

- (1) B : 基本的に英語での解答を目指すが、日本語と英語をまぜても、日本語だけでも自分の意見を言うことができる。
- (2) C : 各個人のワークシートを返却する際、全体に関わる説明を施す別シートを配付するとともに、各個人のワークシートに説明やアドバイス等を添える。

6 まとめ

内容に対して自分の意見を表現する一方で、英文で使用された語彙が、その表現の中でどれだけ多くアウトプットされるかも大きな課題である。興味を持たせることと、コミュニケーション能力を育てることを目標にもしているので、短い時間で英語の表現がどれだけ内在化したかを確認できればと考える。

（小嶋 丈典）

「山月記」で登場人物像を多角的に捉えることで、筆者の表現意図を考える

ア（ア）目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

1 評価問題例

【以下に示すテキストを参考してください】

- ・使用するテキスト 「山月記」 中島 敦

- ・出典 「高等学校 現代文〔改訂版〕」 三省堂

- ・問題として引用する部分

(1) 冒頭「隴西の李徵は博学才穎、…狂悖の性は愈々抑え難くなつた。」(p,20,1,1～p,21,1,5)  
まで。「賤吏に甘んずるを潔しとしなかつた。」の部分に傍線。

- ・問い合わせ

問1 「賤吏に甘んずるを潔しとしなかつた」とはどういう意味か。尚、教科書の脚注、  
辞書を用いて答えてよい。

問2 問1で答えた以外の意味を、「賤」という意味に注目して答えよ。尚、辞書を用いて  
答えてよい。

問3 問2で答えた意味と共通する表現を本文中より見つけ、答えよ。

問4 問1～3まで答えたことを踏まえ、上記の文章から読み取れる「李徵」とはどの  
ような人物か説明せよ。

問5 問4で答えた李徵像には、原典「人虎伝」とは異なる部分がある。筆者中島敦が「人  
虎伝」とは異なった人物設定をしたのはなぜか。自身の考えを述べよ。

2 「読解力」に関する評価規準

問1 身分の低い役人であることを我慢  
して受け入れることは、自負心や誇  
りから許されなかつた。

問2 品性の劣った（私利私欲のために、  
不正を働くなど）役人になること  
(役人の中で働くこと)は、自身の  
誇りにかけて許されなかつた。

問3 （下吏となつて）長く膝を俗悪な  
大官の前に屈するよりは、詩家とし  
ての名を死後百年に遺そうとした

問4 以下の点を踏まえていること。

①問1～3の内容

②「博学才穎」「若くして名を虎榜  
に連ね」

③「性、狷介」「自ら恃むところ頗  
る厚く」

④「貧窮に堪えず、妻子の衣食のた  
めに遂に節を屈して」

⑤「己の詩業に半ば絶望したため」

⑥「往年の儒才李徵の自尊心を如何  
に傷けたかは、想像に難くない」

問5 以下の点を踏まえていること。

①単なるエリート李徵として描かなか  
つた意図に触れている。

②自分自身と重ね合う部分を意識し

て考察している。

### 3 評価を行う場面

- 冒頭部分の人物設定を正確に行おうとしているかどうかを確認するためのテストである。
- 「頭がよい」「プライドが高い」といった面だけに引きづられた人物設定をしないことに留意させることで、今後全体の鑑賞の際に、読解の深化が期待できる。

### 4 評価問題作成のポイント

- 問1 教科書脚注等から意味を導き出せるか。
- 問2 ①辞書を活用して、「身分が低い」以外の意味に到達し、文全体の意味を構成できるか。  
②問3との関連付けができるか。
- 問3 ①正確に指摘できるか。  
②問2との関連付けができるか。
- 問4 ①課題文全体から李徵像を構成しようとしているか。  
②多面的な存在として李徵を捉えようとしているか。（頭がいい、自尊心が強いという面だけで捉えない）
- 問5 ①人虎伝、山月記それぞれの本文を根拠として、論理的に指摘しようとしているか。  
②問4との関連付けができるか。

### 5 評価事例

- (1) B：前述した評価基準がBに相当する。
- (2) C：（具体的な手立て）  
問1 脚注を利用すること、辞書の活用の仕方などを確認し、分かる部分から箇条書きさせていく。その後、箇条書きをまとめさせる。

問2 問3との関連に気づかせる。

問3 問2との関連に気づかせる。

問4 本文中のどこに注目しているか、人物像の根拠となる表記を箇条書きさせる。そこから、自身の言葉で説明できるものについては、箇条書きさせる。意味の不明瞭なものについては、辞書の活用などを確認させる。  
文全体から李徵像を示す表現を探すことを指示する。

どうしても「頭がよい」「プライドが高い」といった面だけに引きづられた人物設定しかできない場合は、具体的な指示を試みる。（「妻子がいて、そのために己の野心（詩家となること）をあきらめた」ことからどのような人物像が描けるか？など）

問5 自分自身が単純な存在でないことに気づかせる。

人虎伝の因果応報的な表現に気づかせ、対比させて山月記を捉えさせる。

### 6 まとめ

「自分が複雑な存在（優しい面もあれば厳しい面もある。いろんな側面をもった存在）であること」を自覚し、その延長線上に李徵において、単一的な人物像を構成しない態度を身につけさせたい。このことが、後半の李徵の告白をより深く考察する際に機能するものと考える。

また、人虎伝との相対化は、鑑賞後に行うものが多いが、ここでは初読の感想提出後に示し、「筆者の意図を探りながら読む」ということを意識させながら展開していく授業を想定した。

授業との関連を意識した評価問題事例である。  
(高松 洋司)

## 現代文・高3

複数の新聞記事を読み、その内容を関連付けながら自分の考えを書く

イ（ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

### 1 評価問題例

次のA・Bの新聞記事を読み、以下の問いに答えよ。

A 東京都足立区立小中学校、学力テストで予算に格差。4段階に分類。

B 中学校毛筆「必修逃れ」。大阪府枚方市で14校、通常の国語を確保のため。

問1 A・Bの記事についてそれぞれ、200字程度で要約せよ。

問2 Aの記事について、賛成か反対か立場を明確にして、400字程度で意見を述べよ。  
その際、記事に即してそう考えた根拠も述べよ。

問3 Bの記事の、毛筆の授業を通常の国語に振り替えた中学校の対応について、賛成か反対か立場を明確にして、400字程度で意見を述べよ。その際、記事に即してそう考えた根拠も述べよ。

問4 A・Bの記事に述べられたような状況が進めば、今後どのようなことが起こり得るか。400字程度で根拠を挙げて推論せよ。

### 2 「読解力」に関する評価規準

問1 必要な情報を過不足なく取り出して、再構築することができる。

問2・問3

論拠を明確にして情報を評価し、自分の意見を述べることができる。

問4 与えられた情報や従前からの知識を総合して2つの記事に共通する背景や原因を見つけ出し、これから起きる可能性のあることを推論することができる。

### 3 評価を行う場面

通常の授業の中で生徒に問題を提示し、解答用紙を回収して個別評価を行う。

問2・問3については、クラス内の異なる意見を授業の中で採り上げ、プレゼンテーションの形で教師による評価、生徒による相互評価を行うことも可能である。問4の推論の作成に向けて、個々の生徒の思考の深まりが期待できる。

### 4 評価問題作成のポイント

文章を書くことが苦手な生徒にとっても取り組みやすいよう、身近でタイムリーな話題を選んだ。

問1 500～600字の記事を200字程度に要約するためには、必要不可欠な情報と省略可能な情報を取捨選択する能力が問われる。そのヒントが新聞記事の場合、見出しにあることも知識として必要である。

さらに、情報を取り出した順に並べただけでは要約文は成立しない。取り出した情報を再構築する能力も試されている。

#### 問2・問3

感想文を書くときと意見文を書くときとでは、文章のスタイルが異なることに留意させたい。賛成か反対かの立場を明確にした文章を書くには、客観的な根拠を述べる必要がある。

時には、自分の意見とは相反する情報に反論を加える必要もある。相手を説得・納得・同意させるための論の運び方を修得させるのが目的である。

問4 「読解力」には情報や知識をもとにして分析・推論する力も含まれていると考えた。“教育”というテーマで選んだ今回の2つの記事は、ストレートにつながるわけではない。2つの記事の間に言語化されていない何を読み取るのか、読み取ったものをどのような形で言語化するかを問う設問である。

授業時数が許し生徒に余力があれば、問5として、問4で述べた推論に対する改善策または推進策を考える学習にも取り組ませたい。

### 5 評価事例

(1) B：前述した評価規準がBに相当するものとした。

(2) C：

問1 取り出すべき情報が不足していたり、省略可能な情報を取り上げたりしたため字数オーバーした生徒に対して、キーワードの精選を再度行うようアドバイスする。

#### 問2・問3

賛成、反対の根拠が主観的な記述にとどまる生徒に対しては、記事の中から立場を決めるもとになった事実を指摘するようアドバイスする。

問4 どちらか一方の記事に基づいた推論を開発する生徒に対しては、使用しなかった記事の中に、推論を補強する内容または共通する背景・原因を探すように指示する。

推論することができない生徒に対しては、2つの記事に書かれた出来事の背景・原因を考えるよう指示する。次に背景・原因に共通項がないかどうか考えるよう指示する。

### 6 まとめ

「読解力」が身についたかどうかを評価するためには、実は、生徒が「表現」したものを見るよりほかない。せっかく正しく読解することができていたとしても、それを第3者に向かって的確に「表現」できない生徒は、結局「読解力」のない生徒とみなされてしまうのである。「表現」されないものを評価することはできないからである。その当たり前の事実をもう一度見直すところから「読解力」の向上は始まる。

どのような書き方・話の進め方をすれば自分が考えたことを的確に相手に伝えられるのか、自分が書いたもの・話したことには何が不足していたから、相手に真意が伝わらなかったのか、評価問題を解くことで、生徒の認識を新たなものにしたい。 (西村 礼子)



# Ⅲ部 「読解力」評価問題の分析

## 「読解力」に関する学習状況調査の実施と結果の集計および分析

### 1 本調査実施のねらい

本調査は、国語の学力を「読解力」の側面から診断することを試み、今後の「読解力」向上の指導に役立てようとするものである。

「読解力向上に関する指導資料～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向」（平成17年12月）における「II PISA調査（読解力）の結果を踏まえた指導の改善」の中の「指導のねらい」として掲げられた7つのねらいの趣旨にのっとり作問した。

作成にあたっては、指導内容の習得状況を「指導のねらい」ごとに診断する本調査の性格を考慮して、内容的には「書かれたテキスト」を読み「考え」「表現する」ことを中心に出題し、また設問の表現は平易であるよう配慮した。

### 2 調査実施日

第3学年………平成19年2月21日（水）

第1・2学年…平成19年3月16日（金）

※今回は第2回目。第1回は昨年度の平成18年3月17日（金）に、1・2年（本年度2・3年）のみ実施。

### 3 調査問題の具体

《第3学年》

- 〔2〕次の、YNFY中学校の生徒会本部役員が全校生徒向けに作った「文化祭スローガン募集のお知らせ」をよく読んで、との問い合わせに答えなさい。

平成19年7月1日

全校生徒の皆さんへ

YNFY中学校生徒会本部役員会

### 文化祭スローガン募集のお知らせ

全校生徒の皆さん、テストも終わり夏休みまであとわずかですね。長いお休みをどのように過ごす予定でしょうか。部活、家族で旅行、…3年生にとっては自分の進路についてじっくり考える大切な時期でもありますね。

さて夏休みが明けると、いよいよ11月2日・3日の2日間にわたって開催される文化祭が迫ってきます。クラスや部によっては、夏休み中から準備にかかるところもあるでしょう。



今年は第50回という節目の年でもあります。

そこで、現本部役員会では、第50回の記念事業の一つとして、毎年本部役員会で考えている文化祭スローガンを、全校生徒の皆さんから募集したいと考えお知らせを作りました。

今年の文化祭のテーマは第50回という点をふまえ「伝統」です。歴史あるYNFY中学校における一年間の中でも最大の行事であるこの文化祭を、多くの人に印象づけることができるよう、効果的なスローガンにして表現することを考えてみてほしいと思います。

どんなスローガンでもかまいません。応募の規定に学年や性別はもちろん関係なし。思い切った発想で、ドンドン応募してください。今年のテーマに関連性があって、本校の品格を損なわない素敵なお題がたくさん集まることを期待しています。

応募期間は今日から夏休み中を含む9月21日(金)までです。応募されたすべての作品を対



象に本部役員会が第一次審査を行い、優秀作品を10本選んで昇降口の廊下に掲示します。そのあと、全校生徒の皆さんに第二次審査として投票してもらい最優秀作品を選出し今年のスローガンとして決定したいと思います。美術部が制作するポスターにスローガンを盛り込むことを考えるとこれがギリギリの日程です。期限は守ってください。

また、所定の応募用紙は生徒会室前に置いてあります。必要事項を記入の上その横にある  
生徒会ポストに入れてください。

皆さんふるってご応募下さい。

問1 本部役員会は、この「お知らせ」を誰でも気軽に応募してみようと思えるようなスタイルにしたいと考えました。

うまくできていると思いますか。

「お知らせ」のレイアウト、文体、イラストなどについて詳しく述べながら、そう思った理由を説明してください。

問2 「お知らせ」の一部に以下のように記されています。

「どんなスローガンでもかまいません。」

本部役員会には、「お知らせ」を配布した後で生徒のひとりから「どんなスローガンでもかまいません。」という語句は誤解を招くから、省いた方がよかったという指摘(助言)がありました。

あなたも、この語句は誤解を招くから、省いたほうがよかったと思いますか。

具体的な理由を示して意見を述べてください。

## 《第1学年》

- ⑤ 体育祭前のことです。1年D組の体育委員であるあなたは、明日行われる体育祭について、先生から次のようなメモを渡されて、クラスで必要な部分を黒板に書いて伝達するように言われました。メモをよく読んで、との問い合わせに答えなさい。

○第60回体育祭（テーマ：「希望に向かって走り抜け」）について

- ・明日5月13日（土）は午前8：50に開会式開始、9：00競技開始です。
- ・生徒は8：30に、1年生は朝礼台前、2年は応援席、3年は入場門です。体育委員は8：00に体育倉庫前に集合です。
- ・雨天の場合は14日（日）に延期になります。延期の場合は6：00に電話連絡網を使って延期の連絡が回ります。
- ・全員はちまき着用です。競技中は半そでシャツに短パン、応援中はジャージを着用してください。半そでシャツの胸の部分にはゼッケンをつけてください。体育委員は係の腕章を忘れずに左腕につけます。

問い合わせ あなたが1年D組の黒板に書くことを、横書きで解答らんのわく内に書きなさい。なお、その際は項目をいくつか立てて書くこと。

## 4 結果に見られる実態と分析

### 大問0 書字・読字

- ① 次のA・Bの各問い合わせに答えなさい。

- A 次の1から5の文中の――線部のカタカナの言葉を漢字で書きなさい。  
B 次の1から5の文中の――線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。

今回は、第3学年に関しては、書字および読字とともに、平成18年7月に出された「特定の課題に関する調査(国語)調査結果(小学校・中学校)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)において通過率の高かった問題の中から2題、低かった問題の中から2題、さらに無解答率の高かった問題の中から1題を、調査問題本文中の使用漢字との重複がな

いよう配慮しながらそれぞれ取り上げ、本校生徒の学習実態と比較した。第1学年および第2学年については、17年度実施(平成18年3月)の調査と同一問題のため、既習漢字の中から無作為に抽出している。

各問い合わせの内容と通過率は、次の通りである。

### 《第3学年》

〈書字〉

問い合わせ	文科省	本校	通過率(%)
1 久しぶり	87.4	93.3	
2 運賃	76.1	83.8	
3 承認	33.4	65.7	
4 朗らか	25.7	62.9	
5 除く	62.0	84.8	
(無解答率 27.6 8.5)			

〈読字〉

問い合わせ	通過率(%)	
	文科省	本校
1 渴く	99.0	100
2 収穫	96.4	100
3 催す	64.3	95.2
4 執着	61.4	92.4
5 激励	71.7	93.3
(無解答率	7.2	0)

〈書字〉に関しては、数値には違いが見られても、全体的な傾向は変わらなかった。通過率の低かった「承認」や「朗らか」については、日常生活の中での使用頻度はそれなりに高く、音声として耳にはしていても実際に自分で書く場面は少ないということの表れと思われる。顕著な誤答の例として「承任」「朗らか」などが見られた。また、「除く」における本校の無解答率が比較的低いのは、日頃から意識的に漢字を使って作文等の学習活動に取り組ませる指導が奏功したのではないだろうか。

〈読字〉に関しては、どの問い合わせも通過率は高く、大きな問題は感じない。進路決定に関わる受験(受検)直後という影響もあろうか。

《第2学年》

〈書字〉

問い合わせ	通過率(%)
1 衛星	90.2
2 賛成	89.4
3 幹	62.9
4 窓	91.7
5 視野	79.5

〈読字〉

問い合わせ	通過率(%)
1 納める	99.2
2 貝殻	97.0
3 派遣	99.2
4 著しく	75.0
5 飾る	100

〈書字〉に関して、「幹」と「視野」の通過率の低さが気になるところである。特に「幹」については無解答率も12.9%と、この問い合わせの中では比較的高く、単語として認知はしても表現する術としての漢字とともに定着していない生徒の割合が高めだということが分かる。また、「視野」は、昨年度の調査においては80パーセント台後半の通過率を示しており、今年度の2年生に見られる定着の度合いの低さとして捉えてよいだろう。

〈読字〉については、通過率の高さから見て、特に課題は見出せない。

《第1学年》

〈書字〉

問い合わせ	通過率(%)
1 桜	99.2
2 枝	93.1
3 授業	99.2
4 乳	97.7
5 築く	93.1

〈読字〉

問い合わせ	通過率(%)
1 絶え	100
2 招待状	99.2
3 誤り	98.5
4 応援	100
5 離れて	100

〈書字〉に関して、各問い合わせとも高い通過率を示している。日常的に授業の中で、漢字の副教材を活用した漢字の小テストを実施している成果ではないだろうか。

〈読字〉については、通過率の高さから見て、特に課題は見出せない。書字同様に平素からの地道な取り組みが知識の定着になっているように思われる。

全学年ともに、書字と読字との結果の差から、生徒の中に「読めても書けない」傾向が見られることを示している。

現行の学習指導要領では、以前に比べ書字の扱いもずいぶんと変わってしまったが、情報化の時代といわれる現代を情報の受け手としてばかりでなく、情報の発信者として生きていくためにも、正しい表記・表現を心掛けるべく、漢字の役割を理解させる指導はますます重要になってくる。自己表現のための一手段・基礎基本として「正しい言葉」「正しい漢字」のさらなる定着を図る工夫が必要であろう。

#### 大問1

- 問1 書かれた文章から表現意図を読み取る  
【ア(ア)目的に応じて理解し、解釈する能力】  
問2 書かれた内容について考えを述べる  
【ウ(イ)自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力】

#### 《第3学年》

- ① 次の文章を読んで、との問い合わせに答えなさい。

本文：「ホンモノの日本語を話していますか？」（金田一春彦）より引用

- 問1 この文章を書いた人は、どんな人に對して、どんなことを言いたいのだと考えられますか。分かりやすくまとめなさい。（通過率：18.2%）  
問2 この文章に書かれていることに対して、あなたの考えを3文以上で書きなさい。（通過率：74.2%）

・問1ア(ア)は、書いてはいるが問題の意図を理解していない生徒の割合が高い(66.7%)。本調査を受けた現3年生が、昨年度2年次に受けたときと同様の傾向が見られた。

#### 《第2学年》

- ① 次の文章を読んで、との問い合わせに答えなさい。

なさい。

- 本文：「私の自然ウォッチング」による  
問1 この文章を書いた人は、どんな人に對して、どんなことを言いたいのだと考えられますか。分かりやすくまとめなさい。（通過率：47.7%）  
問2 この文章に書かれていることに対して、あなたの考えを3文以上で書きなさい。（通過率：42.4%）

・問1・問2ともに、無解答率の高さが目を引く（問1：11.4%　問2：19.3%）。1年次に昨年度の調査を受けた際の、同趣旨の問い合わせに取り組んだときには見られなかった傾向である。長文を読むことに対して抵抗感の出てきた生徒が若干増えてきているということだろうか!?

#### 《第1学年》

- ① 次の文章を読んで、との問い合わせに答えなさい。

本文：「朝日新聞」による

- 問1 この文章を書いた人は、どんな人に對して、どんなことを言いたいのだと考えられますか。分かりやすくまとめなさい。（通過率：44.7%）  
問2 この文章に書かれていることに対して、あなたの考えを2文以上で書きなさい。（通過率：67.1%）

- ・問1ア(ア)は、通過率が50%をやや割り込む結果となった。昨年と比較してもほぼ同様の数値である。今後、テキストの内容を全体として押さえる指導のあり方にもう一工夫をしていかなければならない。  
・問2ウ(イ)は、通過率は72%から67%に下がった。また、設問の意図を理解せずに解答した者が昨年の5%から24%に増えている。求められているのは何かという

点をもう少し明確に捉えさせたい。

## 大問 2

問 1・問 2 書かれた文章を批判的(クリティカル)に読む

【ア(イ)評価しながら読む能力】

### 《第 3 学年》

～問題の内容は「2 調査問題の具体」  
を参照のこと～

- 問 1 および問 2 の通過率はそれぞれ 50.7%, 69.9% と昨年度の同様の問題に対する通過率と比較して低下の傾向が見られる。書いてはいるが、設問の意図を十分に理解し切れていない解答も多い。

### 《第 2 学年》

- ② 次の文章は、FYY高校のパンフレットに書かれた文章です。この学校を宣伝するために、実際の学校の情報が操作されていると想定されます。想定されるところを書き出して、なぜあなたがそのように考えたかを書きなさい。

本文：附属横浜中学校国語科自作  
(通過率：書き出し 84.1%，考え方 79.5%)

- 本年度 2 年生において、書かれた内容を批判的に読むという学習活動を意識的に授業の中に取り込んできた結果、生徒たちの中に内容の妥当性を評価しながら読む視点が培われ、上記のような通過率の高さにつながったと考えてよいだろう。

### 《第 1 学年》

- ② 次の文章は、2 年生が職業体験での出来事を書いたものです。ただし、みんなに自分の体験したことを効果的に伝えるために、実際に体験したことをおおげさ

に書いたり、実際には体験していないことを書いたりしているところがあります。そうした部分を書き出して、なぜあなたがそのように考えたかを書きなさい。

(通過率：書き出し 86.2%，考え方 72.4%)

- 昨年は 51% だった通過率が本年は 86% に上がった。授業の中で継続的にクリティカルに読むことの指導を組み込んだ効果であろうと思われる。

## 大問 3 課題に取り組むために書かれた文章を読む

【ア(ウ)課題に即応した読む能力】

### 《第 3 学年》

- ③ 次の文章をよく読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

本文：「よこはま百問 かながわ検定・横浜ライセンス受験参考問題集」(かながわ検定協議会編)より引用  
問い合わせ 社会科の授業の一環で新聞の歴史に関する試験問題作りをしてみました。この文章の内容をふまえて四択(四者択一式)の問題を作りなさい。(通過率：51.4%)

- 正答および正答としては不十分と分類される解答について、内容的には概ねよく書けていると見てよい。ただ、ア(イ)と同様、書いてはいるが、設問の意図を十分に理解し切れていない解答も多い。

### 《第 2 学年》

- ③ 次の、「携帯電話に関する資料」をよく読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

本文：「<http://bcnranking.jp/product/s/01-00006585.html>」より引用

問い合わせ この携帯電話の広告を作ることになりました。「子どもの安全」を心配する「小学生の母親向け」にこの携帯電話の良さを説明しなさい。

(通過率：95.5%)

- ・話題が携帯電話であったことも奏功し、無解答率は0%であった。また、現代を生きる生徒にとっては生活必需品といつても過言ではない携帯電話に関する知識等も豊富なようで、通過率は極めて高い結果となった。

### 《第1学年》

③ 次の新聞記事（2001年11月24日付「神奈川新聞」）を読んで、この記事にふさわしい「見出し」を二十字以内で書きなさい。（通過率：94.3%）

- ・昨年は通過率が83%だったものが本年は94%に上がっている。NIE実践校として新聞を扱う機会も多く、その指導の成果ではないかと思われる。

### 大問4

問1 書かれた二つの文章に述べられている内容を相互に関連付けて読み共通点を挙げる

【イ(ア)テキストを利用して自分の考えを表現する能力】

問2 書かれた内容について考え方を述べる  
【ウ(イ)自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力】

### 《第3学年》

④ 次のA・Bの文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

Aの文章：「食べる日本語」（塩田丸男）  
より引用

Bの文章：「日本語のできない日本人」

(鈴木義里)より引用

問1 A・B二つの文章の内容で、どのような点が共通しているか書きなさい。

(通過率：48.6%)

問2 A・B二つの文章の内容にてらして、「日本語が乱れている」といわれる、若者を中心とする現代の言葉について、あなたの考えを書きなさい。

(通過率：94.3%)

- ・問1の二つの文章の共通点を挙げる問題について、通過率(48.6%)は十分満足とはいえないが、昨年度の同様の問題に対する通過率(16.5%)と比較すると、上向きに変化している。
- ・問2の書かれた内容について自分の考え方を述べる問題については、通過率(94.3%)と昨年度(96.5%)同様良好な結果を示している。
- ・これらは、授業の中に積極的に「比較読み」を取り入れた効果といえよう。

### 《第2学年》

④ 次のA・Bの文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

Aの文章：「21世紀をつくるきみたちへ」（日向章一郎）より引用

Bの文章：「朝日新聞(平成13年4月21

日付)の曾野綾子の文章」より引用

問1 A・B二つの文章の内容で、どのような点が共通しているか書きなさい。

(通過率：13.6%)

問2 この文章を読んだ上であなたの考えを書きなさい。

(通過率：65.9%)

- ・問1の二つの文章の共通点を挙げる問題について、通過率(13.6%)の低さが目を引くが、本年度3年生が昨年度この調査を受

けた際の通過率(16.5%)と合わせて考えると、提示した二つの文章の難易度や共通点の見つけやすさ等、若干妥当とはいえない点があると思われる。今後の改善すべき課題の一つとしたい。

### 《第1学年》

- ④ 次のA・Bの文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

Aの文章：「生物たちのハイテク戦略」

(白石拓)より引用

Bの文章：「サバンナをつくる生きものたち」(黒田弘行)より引用

- 問1 A・B二つの文章の内容で、どのような点が共通しているか書きなさい。

(通過率：84.1%)

- 問2 この文章を読んだ上であなたの考えを書きなさい。

(通過率：73.9%)

- ・問1の二つの文章の共通点を挙げる問題について、通過率は79%から84%と、わずかだが上昇している。
- ・問2の書かれた内容について自分の考えを述べる問題については、通過率は昨年同様に74%を示している。
- ・全学年で、複数の文章を比較させ共通点や相違点を考える学習を指導計画に位置づけた授業の効果が出ていると考えられる。

大問5 書かれた文章から読み取った情報を目的(看板を作る)に沿って表現する  
【イ(イ)日常的・実用的な言語活動に生かす能力】

### 《第3学年》

- ⑤ 次の、「ハオコゼ」に関する資料をよく読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

本文および絵図：「フィールドガイドシ

リーズ②野外における危険な生物」  
(財)日本自然保護協会編集・監修)  
より引用

問い合わせ あなたは、岩場で遊ぶ子どもが被害に遭わないように、ハオコゼ注意の看板を作ることになりました。その内容を横書きで解答欄の枠内に書きなさい。なお、小学校低学年にもわかりやすいように書くこと。

(通過率：27.1%)

- ・「小学校低学年にも分かりやすいように…」という設定が影響したためか正答としては不十分な解答が目立った(58.6%)。

### 《第2学年》

- ⑤ 次に掲げたのは、留学生との交流会の企画について2年D組の実行委員3名が話し合っている場面の一部です。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

本文：附属横浜中学校国語科自作

問い合わせ 留学生交流会の「お知らせ」のプリントを、横書きで解答らんのわく内に書きなさい。なお、その際は項目をいくつか立てて書くこと。また、クラスのみんなに伝えたい留意点などがあればそれをプリントに盛り込んでもかまいません。

(通過率：96.6%)

- ・「必要な情報を抽出し、整理して発信すること」が問われている。ポスターーションやプレゼンテーション等、授業の中に「表現」したり「伝え合う」という「発信」を意識した学習活動が組み込んだことが上記のような通過率の高さにつながっている。

## 《第1学年》

⑤ 体育祭前のことです。1年D組の体育委員であるあなたは、明日行われる体育祭について、先生から次のようなメモを渡されて、クラスで必要な部分を黒板に書いて伝達するように言われました。メモをよく読んで、との問い合わせに答えなさい。

本文：附属横浜中学校国語科自作

問い合わせ あなたが1年D組の黒板に書くことを、横書きで解答らんのわく内に書きなさい。なお、その際は項目をいくつか立てて書くこと。

(通過率：52.3%)

- ・通過率は、昨年の41%から本年の52%と僅かではあるが上昇している。クラスに関係ない体育委員のことなど余分なことを書いてしまったもの、項目をたてなかつたものなどきちんと設問を理解していないもののが多かったが、内容がひとまずは伝わるという点で、それらを含めると全体の95%はある程度内容が伝わるように書いてはいた。「何が求められているのか」という点をていねいに押さえさせたい。

大問6 非連続型テキスト（グラフ）から情報を読み取り【ウ(イ)多様なテキストに対応した読む能力】、それをもとに自分の考えを述べる【ウ(イ)自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力】

## 《第3学年》

⑥ 次の本文と図表を読んで、との問い合わせに答えなさい。

本文および図表：「データで読む家族問題」（湯沢雍彦）より引用

問い合わせ この文章で書かれている内容について、適切ではないと考えられる点を挙

げ図表の内容を根拠に説明しなさい。

(通過率：31.3%)

- ・やや本文や問い合わせが難解であったのか、通過率も31.3%にとどまり（昨年度89.5%）、何よりも無答率の高さ（28.4%）が目を引く結果となった。

## 《第2学年》

⑥ 次の本文とグラフを読んで、との問い合わせに答えなさい。

本文およびグラフ：「私たちと水」（財団法人 河川環境管理財団）より引用

問い合わせ 国語の授業の中で、生徒たちがいくつかのグループをつくり、本文やグラフについて話し合ったところ、二つの意見がありました。本文やグラフから読み取れる内容として**適切でないもの**を記号で選び、その理由を書きなさい。

A グラフで1965年とその30年後の1995年の比較から、一人一日あたりの生活用水の平均使用量が約4.7倍に増加していることがわかるよね。核家族や単身世帯の一人あたりの水の使用量に比べると五人家族の一人あたりの水の使用量は多くなるのだから、家庭用水の使用量は二人家族よりも五人家族のほうが多くなるんだよ。それならば、家族の人数が少ない家庭が増えるほど全体の水の使用量を減らすことができるんだよ。

B 生活用水年間使用量は、1965年とその30年後の1995年を比較すると約3.4倍に増加しているんだね。そして、家庭用水が生活用水の七割を占めているんだね。日本人は水が水道から出るのは当たり前だと思っているみたいだけれど、各家庭で使う水の量はたとえわずかずつでも生活用水全体における家庭用水の割合は大きなものとなるん

だね。世帯人数の関係が説明されているけれど、このグラフだけではわかりにくいね。  
(通過率：68.2%)

- ・様々なテキストを読むことには慣れており、今回のようなグラフがあってもなんら抵抗は感じられない。しかしながら、問題の意図を理解しきれていないものも多く見られ若干ズレた解答もあって、通過率が68.2%にとどまった(今年度3年生の昨年度通過率：89.5%)ことは残念であった。

### 《第1学年》

⑥ 次のグラフから中学生の学習について考えるという課題が学活で出されました。このグラフから読み取れることがらを挙げながら、あなたの考えを書きなさい。

(通過率：82.6%)

- ・通過率の変化を見てみると、昨年度63%から本年度82%と上昇している。様々なテキスト(この場合はグラフ)を読み情報を受信して、その意味するところや分かることについて考え、自分の意見として発信することを、教科を越えて日常的に指導している成果であろう。

## 5 まとめと今後の課題

### 《第3学年》

- ・テキストの書かれた意図を読み取ったり、テキストを批判的に読むという力が、他の力と比較すると弱い。書かれている情報を取り出すだけではない、テキストを理解・評価しながら読む力を高めるという視点を、授業に意図的に取り入れることの必要性を感じた。
- ・無答率は1題を除き8%未満であり、2000年のPISA調査の結果から危惧されたほどで

はなかった。本校では「書くこと」領域以外の単元でも、書く活動を中心に置いて授業展開を計画しており、その成果として書くことへの抵抗感が薄らいでいると考える。書く活動を今後も大切にしていきたい。

- ・クリティカルリーディングについて。書かれた内容をそのまま肯定的に受け止めるばかりではなく、書かれ方や内容の妥当性について検討させたいところである。本校では、メディアリテラシーの視点を重視し、様々なテキストを読む授業を行っている。そのなかで、生徒がテキストの情報を批判的に読む視点を身に付けているという確かな手応えを、解答の中に感じた。
- ・出題された問い合わせの質の微妙な相違等を考慮すると単純に比べることはできないということを前提としてではあるが、昨年度の同時期に行った同様の調査結果と比較し、経年変化を見てみる。通過率そのものは下がっている問い合わせもあるが、文章表記された解答の内容そから、総体として生徒の読みが、より確かなものになってきていると考える。

### 《第2学年》

- ・①の問2や④の問2など、自分の考えを書く問い合わせに対して、若干通過率の低くなる傾向が見られる。書かれたテキストから読み取った情報を踏まえて、自分の考えを整理してすること、あるいはそれを表現し発信していくことに、今後の指導における力点を置きたい。
- ・第3学年同様、出題された問い合わせの質の微妙な相違等を考慮すると単純に比べることはできないということを前提としてではあるが、昨年度の同時期に行った同様の調査結果と比較し、経年変化を見てみる。一題(④問1)を除いて、通過率は軒並み

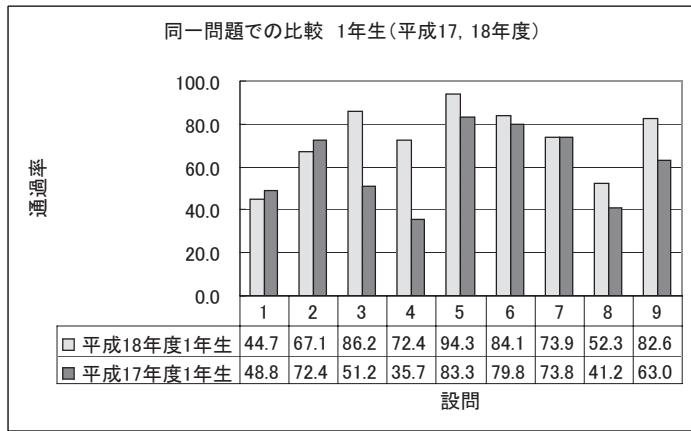
上昇している。PISA型「読解力」を位置づけたカリキュラムに基づき日々の指導に当たった結果として、1年次より生徒の「読解力」は着実に身に付いてきていくと捉えてよいのではないだろうか。

### 《第1学年》

- ・書かれた文章から表現意図を読み取る力が他の力と比較して弱いと感じられる。ただ、設問を良く読みケアレスな間違いが減ると通過率は上がると思われる。
- ・クリティカルな読みの部分では「読解力向上のための指導事例集」(平成18年3月)に掲載されている新聞の実践を参考に授業をした効果が出たのではないかと思われる。また、本校では、メディアリテラシーの視点を重視し、様々なテキストを読む授業を行っている。そのことも今回の好結果につながったのではないかと思われる。
- ・無答率は最も高いもので7%であった。ほとんどが2%以下で2000年のPISA調査の結果から危惧されたほどではなかった。
- ・昨年と同様の問題で、通過率を比較すると、本年度の方が通過率が高い。生徒の質の問題もあると思うが、本校の取り組み、授業の切り口など、確実に受信し考え發

### 《資料 附属横浜中学校で実施した評価問題の比較データ》

#### 1 同一の問題による1年生の通過率の比較 (平成17年度・18年度)



信できる生徒を育てているのではないかと思われる。

### 《全体を通して》

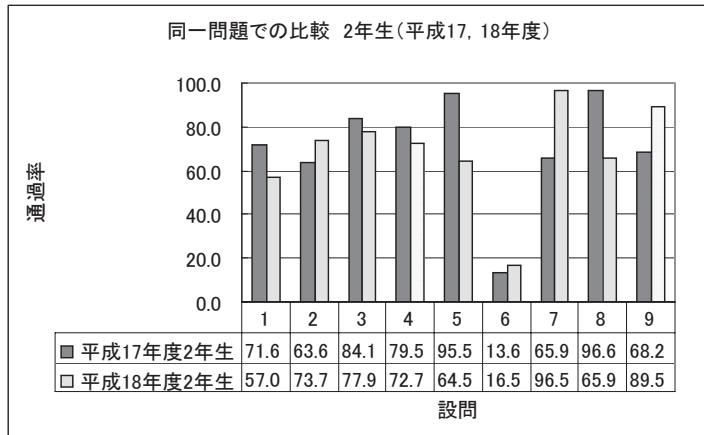
- ・まだまだ試作の域を出てはいないが、PISA型「読解力」を意識したカリキュラムに基づいた授業展開ないし指導の成果と課題が明確になってきたという点で、今回の「『読解力』に関する学習状況調査」は有効であった。
- ・各学年とも問題構成および趣旨を同一にしたことで、学年が上がるごとに生徒の学習状況がどのように変化してきているかという面も把握できた。また、学年ごとに同一の調査問題を昨年度と本年度2年にわたって取り組ませることで、年度ごとの生徒の学習状況や教師の指導の在り方が比較でき、今後の課題がより明確にすることができた。
- ・今後は、この結果から見えてきた生徒たちの実態を踏まえ、指導を改善しながらさらなる「読解力」向上の指導に当たるとともに、この「学習状況調査」も提示するテキストや問の立て方に検討を加えながら、より精度を高めていきたい。

(松田 裕行・高橋 励・松田 哲治)

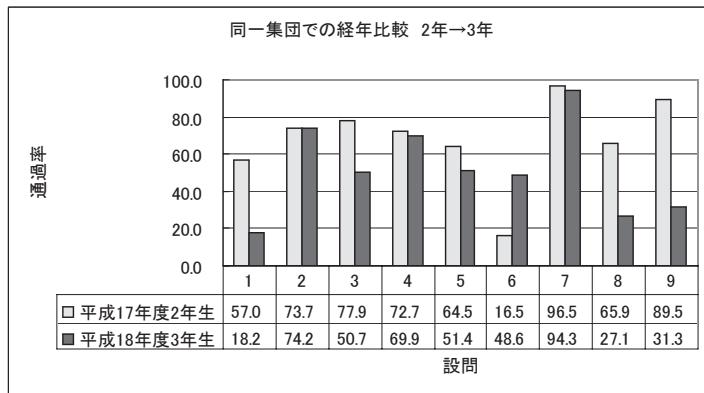
《グラフ「設問」と評価問題の対応表》

設問	評価問題	読解力ねらい
1	1-1	ア(ア)
2	1-2	ウ(イ)
3	2-1	ア(イ)
4	2-2	ア(イ)
5	3	ア(ウ)
6	4-1	イ(ア)
7	4-2	イ(イ)
8	5	ウ(ア)
9	6	ウ(イ)

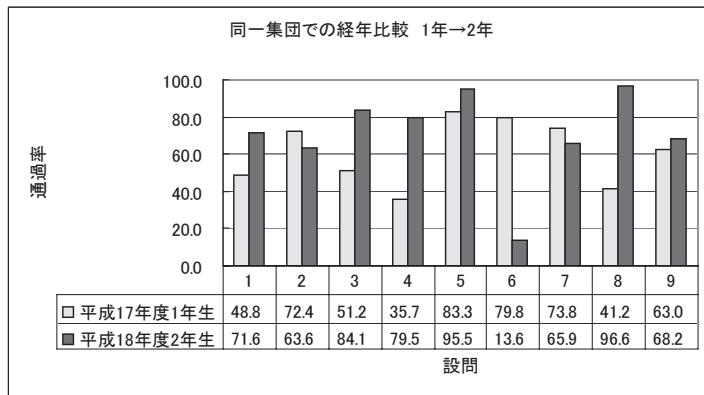
## 2 同一の問題による2年生の通過率の比較（平成17年度・18年度）



## 3 同一の集団の経年比較（2年生→3年生）



## 4 同一の集団の経年比較（1年生→2年生）



※大問0についてのデータは省略しました。



## IV部 「読み解き力」育成のための指導案例

## プロセス重視の指導案について

### 1 プロセス重視の指導案についての考え方（注1）

授業者が指導案をどのような枠組みで構想するかということは、生徒の学習状況の理解、単元の構想、授業展開の工夫についてだけでなく、教科のカリキュラム編成とも関わるものである。その意味では指導案は、各学校のカリキュラムの特徴が反映しているものと言えるだろう。

今回作成した指導案では、PISA型「読解力」の育成を目的として、学習のプロセスを重視する（注2）ということをコンセプトとしている。そのため、この指導案では、次のことを考慮している。

#### （1）育成を目指す学力から

「確かな学力」の育成を図ることは、各教科の最も重視すべき課題となっている。そこで、生徒の実態ならびに学習指導要領の指導事項を押さえながら、まず育成を目指す学力（身に付けたい力）を明確にした。そして、ここを起点に授業を組み立てていくようにした。

#### （2）カリキュラム作成の考え方の順序を反映した。

教科のカリキュラムの作成の基本的な手順（注3）としては、育成を目指す学力（身に付けたい力）→評価規準→単元や教材→学習のプロセスを、考えるということになる。この手順をもとに指導案の事項を配列し、カリキュラム作成の流れがわかるようにしている。

#### （3）学習のプロセスが一覧できるようにする

研究授業では対象となる1時間が重視される。それは当然のことではあるが、育成を目指す学力を重視するならば、どのようなプロセスで育成を目指す学力を身に付けていったかを問題にすべきである。そこで、この指導案では、目指す学力をどのようなプロセスで身に付けていくかを、一目で俯瞰できるようにした。

#### （4）情報量を絞り込む

この指導案では学習のプロセスを中心に情報を絞り込んである。それによって、カリキュラム作成の考え方ならびに授業を見る視点が明確になるようにした。

「確かな学力」を身に付けるためには、カリキュラム・マネジメントの考え方が今後ますます重要になってくる。そのことを意識して授業を組み立てていくことが大事である。

（注1）『「読解力」とは何か Part～カリキュラム・マネジメントで年間指導計画・学習プロセス重視の指導案』横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編（2007年 三省堂）28頁をもとにしている。

（注2）高木展郎「新しい指導案の考え方」プリント資料（横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター 2005.8.30）をもとに本校の指導案を構想した。

（注3）教科のカリキュラム作成にあたっては『評価規準の作成、評価方法の工夫のための参考資料－評価規準、評価方法等の研究開発（報告）』（国立教育政策研究所 2002年2月）の「1 (1) 各学校における評価規準の作成」（17頁）にあるように、学習指導要領に関しての目標等は当然押さえていくことは言うまでもない。

## 2 プロセス重視の指導案の書き方例（※は留意点）

ア（ア）目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

※「読解力」育成の指導案なので、何をねらいとしたものかを明確にするために「読解力」育成の指導のねらいをあげた

### 国語科学習指導案

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 岩間正則

1 日時 平成18年〇月〇日（〇） 13：10～14：00

2 学級 3年〇組（〇〇人）

※生徒の実態を踏まえ、教科の指導事項をもとにした身に

3 教科の視点から育成を目指す能力 付ける力を明確にしておくことが重要。身に付ける

（1）生徒の学習状況から 力をもとに評価規準、指導内容を整理する。

教科書の編集者の意図を考えるために、自分なりの観点をもとに集めた情報を分析する  
力。（「読むこと」1年力）

#### （2）評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①学校図書館等を積極的に活用するなど、様々な文章から目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている。	②様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。 ※評価規準を絞り、主たるもの本書くようにする。	③相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応などについて考えたりして読んでいる。

※この評価規準は『評価規準の作成、評価方法の工夫のための参考資料一 評価規準、評価方法等の研究開発（報告）』からそのまま書く

4 「読解力」の視点から育成を目指す能力 ※「読解力」の指導のねらいをそのまま書く。

④目的に応じて理解し、解釈する能力 [指導のねらい ア（ア）]

5 単元・教材名 ※「単元名」「題材名」「教材名」など、教科に合ったものを書く。

・単元名：編集の意図をさぐる

・教材名：『新編 新しい国語 2』東京書籍（平成18年度版）（平成14年度版）

6 単元・教材について ※教科と「読解力」のそれぞれの視点から、この授業をどのように構想

（1）教科の視点から したかを短くまとめて記述する。この項目までを1頁に収める。

1年で身に付けた「必要な情報を得るために読む力」を、さらに3年においても伸ばしていく。そこで、この単元では、二冊の教科書を比較することを通して、自分なりの観点をもとに情報を分析する力を身に付けることを考える。

#### （2）「読解力」の視点から

目的があるからこそ、情報を探して選ぶことが必要となる。ここでは情報収集の目的として、教科書の編集意図を問題にする。情報活用しながら、編集意図を自分なりに解き明かしていくということは「読解力」を高めるための一つの方策となる。

## 7 能力育成のプロセス（6時間扱い 本時は5時間目）

次	時	単元の評価規準（①から④は 3(2)、4の評価規準の関連する番号）	Aの状況を実現していると判断する際のキーワードや具体的な姿の例、ならびにCの児童への手立て
1	1 ・ 2	<p>③相手や目的に応じて文章の形態や展開の違いがあることに気付いている。</p> <p>※ここの③は、3(2)の「言語についての知識・理解・技能」の評価規準の③に対応している。「参考資料」の評価規準をこの単元に即して具体化したのが、この単元（教材）の評価規準である。なお、単元の評価規準は学習活動のまとめを単位に考えている。</p>	<p>A：それぞれの教科書の中から取り上げた教材を比較して、編集意図という点から文章を分析している。</p> <p>C：具体的に一つの単元を取り上げ、そこで使われている文章を比較させ、その違いについて考えさせる。</p> <p>※Aは具体的な姿の例、またはキーワードで示す。量的なものにならないようにする。</p> <p>※Cへの手立ては必ず準備しておく。</p>
	3 ・ 4	<p>②様々な種類の文章をもとに必要な情報を集めて、分析している。</p> <p>①文章の集まりを、編集という視点から考えようとしている。</p>	<p>A：自分なりの比較の観点を、単元のレベル、教材のレベル、言葉の扱い方のレベルなど、いろいろな段階において設定している。</p> <p>C：グループの友達の考えから参考になるものをメモさせる。</p> <p>A：単元名と教材 単元の配列 商品としての教科書</p> <p>C：教科書の編集の目的について一緒に考える。</p>
2	5	<p>④現行の教科書（平成18年度版）と改訂前の教科書（平成14年度版）とを比較することにより、現行の教科書がどのような意図で編集されているのかを自分なりに解釈する。</p> <p>※本時については、分かりやすくなるように二重線の枠で囲っている</p>	<p>C：これまで単元シートにメモしてきたことや、話し合ったことを参考にさせる。</p> <p>※「読解力」の評価規準として、Aに関するものは本校では作成しない。教科の指導事項を主としながら、そこに「読解力」を関係づけているので、「読解力」については、全員がBであることが大事。</p>
3	6	<p>②様々な種類の文章をもとに必要な情報を集めて、分析している。</p> <p>※この指導案では設定していないが、「評価方法」の欄を作成し、どのような手段で評価したかを明確にしておくことも大事である。</p>	<p>A：効果的な編集 相手意識（教師・生徒） 編集者の目的 編集に込められた思い</p> <p>C：ここまで学習の中でとくに気になったものについてまとめさせる。その際に書き方についても示すようにする。</p>

主たる学習活動	留意事項	時
(1) 今回の学習についての見通しをもつ。  (2) 平成18年度版教科書を読み、平成14年度版との違いについて気がついたことをメモする。  (3) メモをもとに、平成18年度版教科書と平成14年度版との違いから、自分なりの観点をつくり、編集意図について分析する。	・今回は中学2年の教科書を使用する。平成14年度版は昨年度使用したもので、平成18年度版については、現在の中学生から借りて使用する。  ・付箋紙を用意し、気づいたことをメモしていくようにする。	1 ・ 2
(4) 個人で分析したものをもとに、平成18年度版教科書と平成14年度版教科書のそれぞれの編集意図についてグループでまとめる。  (5) 編集という行為について話し合う。	・編集については、2年生で二度学習している。一つ目は、今野勉『テレビの嘘を見破る』(新潮親書)を読んだ後、「秋田の大雪」を取り材したドキュメンタリーフィルムについて、もう一つは「ありのままの事実」である体験をもとに書かれた文章について学習している。	3 ・ 4
(6) 各グループでまとめた平成18年度版教科書と平成14年度版教科書のそれぞれの編集意図について発表する。  (7) 各グループの発表をもとに、平成18年度版教科書と平成14年度版教科書のそれぞれの編集意図について話し合う。	・編集意図について話し合う際に、比較した観点や根拠となる具体例あげるようにする。具体例をあげることで、それについての解釈の違いについて考えていく。	5
(8) 平成18年度版教科書と平成14年度版教科書のそれぞれの編集意図について自分の考えをまとめる。  (9) 平成18年度版教科書を借りた今の2年生に、この教科書の効果的な活用についてアドバイスを書く。	・「情報の活用」に関する「第2学年及び第3学年」の指導事項では、必要な情報を収集して「自分の表現に役立てる」ことを主眼としている。この単元では、これを主たるねらいとしているが、編集意図についての自分の考えをまとめる際に、「自分の表現に役立てる」ということについて意識させたい。	6

## 8 使用するテキストについて

「読解力」の指導のねらいのア（ア）では、「筆者がなぜこういう書き方をしたのかを考える」など、筆者の表現意図を解釈する力を高めるといったことが求められている。そこで、今回の授業では、学習者が3年生であることから、いろいろな文章の集まりとしての教科書一冊をテキストとして使用し、編集意図について自分なりに考えていく学習を行う。

このように教科書一冊を丸ごとテキストとして使い、編集意図を考える学習は、編集という行為について理解したり、本や雑誌から情報を収集したりする際に必要となる読む力を身に付けることにも役立つと考えられる。

※「読解力」においてはテキストは重要な役割を担う。そこで、「使用するテキスト」として、テキストについての説明を入れることにした。ところで、PISA調査のテキストは「連続型テキスト」と「非連続型テキスト」がある。これは「書かれたテキスト」が対象となっているが、実際の授業では、国語では映像をテキストにしたり、理科では自然事象がテキストとなることがある。本校ではそれを「その他のテキスト」として、「読解力」育成の段階において「使用するテキスト」に含めて考えている。つまり「その他のテキスト」は、情報の取り出してのできるもの全てが対象となる。

## 9 この授業を行う際のポイント

- (1) 教科書の編集意図をとらえるためには、比較して相違点を明確にしていくことが効果的である。そのために現行のものと昨年度のものと二冊の教科書を用意した。
- (2) 二冊の教科書を比較するにあたり、単元の配列、学習の手引き、教材の扱いなど、比較する観点にもいろいろな段階があることに気付かせる。
- (3) 編集という行為について考えることは、クリティカル・リーディングを身に付けることにもつながる。そのため、各学年においても編集ということを考えさせる授業を行っておくようにしたい。

※この授業を参考にして新たな授業を構想する際のヒントになるように、授業を行う際のポイントを示してある。

### ※その他

- ①この指導案では「読解力」の育成を意識したものなので、表題のところに「読解力」に関しての身に付けていたい力や、「読解力」の評価規準等が入っている。「読解力」の育成をとくに意識したものでないなら、こうした項目を外していくようにする。この指導案の一番の目的としては、能力育成のプロセスが俯瞰できるところにあるので、こうした主旨を理解して、適切に活用して欲しい。
- ②「7 能力育成のプロセス」が見開きになるように、実際にはA3の表裏に印刷してある。この例よりも実際には情報量としては少し多くなるが、前にも書いたように情報量を絞り込むことが大事である。
- ③「9 この授業を行う際のポイント」以下については、新たな項目を立てたり、資料となるものを入れたりするなどの工夫をしてスペースを活用することも考えられる。

## ウ（ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成

### 国語科 学習指導案

横浜市立桜岡小学校 高木篤子

1 日時 平成18年10月25日（月） 13：40～14：25

2 学級 2年4組（32人）

#### 3 教科の視点から育成を目指す能力

##### (1) 児童の学習状況から

シリーズに興味をもち、物語のおもしろさを味わいながら読む力（「読むこと」1・2年ア・ウ）

##### (2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。	②自ら気に入った易しい読み物を読んでいる。 ③場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる。 ④声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	⑤文の中における主語と述語との関係を理解している。

#### 4 「読解力」の視点から育成を目指す能力

⑥多様なテキストに対応した読む能力 [指導のねらい ウ（ア）]

#### 5 単元・教材名

- ・単元名：「がまくん・かえるくんげきじょう」へようこそ
- ・教材名：「お手紙」（光村図書 2年下）

『ふたりはともだち』『ふたりはいっしょ』『ふたりはいつも』『ふたりはきょうも』全20作品  
(文化出版局)

#### 6 単元・教材について

##### (1) 教科の視点から

「読むこと」の指導事項「読書的な読み」を踏まえて、児童が心ときめく物語と出会い、主人公と共に共感しながらシリーズの本を楽しんで読むことをねらいとする。自分がおもしろいと思う話を選んで、話のおもしろさを音読劇で伝えるという目的をもつことで、自ら本を手にとって読む姿へとつなげる。

##### (2) 「読解力」の視点から

多様なテキストを読むことの初期の段階として、教科書教材から同じ主人公のシリーズの読みへと広げる。『ふたりは』シリーズ4冊20話について、話のおもしろさや主人公の心の交流をとらえながら自覚的に読む力を育み、「読解力」を高めたいと考える。

## 7 能力育成のプロセス（12時間扱い 本時は5時間目）

次	時	単元の評価規準（①から⑥は 3(2)、4 の評価規準の関連する番号）	Aの状況を実現していると判断する際のキーワードや具体的な姿の例、ならびにCの児童への手だて
1	1 ・ 2	②易しい読み物に興味をもって、読んでいる。	A：物語の中から具体的な場面を挙げて自分がおもしろいと思ったわけを話している。  C：挿絵を見ながら話の内容や登場人物のおもしろさを確かめたり、友達の感想を聞いたりしながら物語への関心をもてるようとする。
2	3 ・ 4	①話の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたりしながら、楽しんでシリーズを読もうとしている。	A：主人公の言動から想像しながらそれぞれの話の特徴を考えて読み、自分の視点から話のおもしろさをとらえてカードに記録している。  C：一人で読むことが難しい児童には、読み聞かせを行いながら補助し、どの話がおもしろいと思ったかを問いかけて思いを引き出すようにする。
5		⑥シリーズについて、それぞれの話の粗筋や登場人物の言動など、話のおもしろさをとらえながら読む。	C：友達と一緒にクイズを考えたり、絵カードをヒントに話の内容を確かめたりすることで、クイズを楽しみながら自分が好きな話を選ぶことができるようとする。
6 ・ 7 ・ 8		③場面や登場人物の言動などについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる。  ⑤文の中における主語と述語との関係を理解した上で読み方を考え、台本に書いていく。	A：各場面の様子や人物の気持ちを考え、声に出して表現できるように台本に読み方を書いている。 C：台本への書き込みの例をいくつか示し、その中から場面に合うものを選ぶようとする。 A：文の中における主語と述語の関係を的確にとらえて、劇での表現の仕方や役割を考えている。 C：主語と述語に線を引いて確かめるようする。
9 ・ 10		④語や文としてのまとめりや内容、会話文や地の文の読み方などについて考えながら声に出して読んでいる。	A：台本の書き込みを追加・修正しながら声に出して読んだり、友達に適切な助言をしたりしている。  C：音読の仕方を実際に示しながら助言する。
3	11 ・ 12	④登場人物の台詞、地の文の響きなどについて考えながら音読劇で声に出して読んでいる。  ①物語のおもしろさを味わいながら、音読劇を楽しもうとしている。	A：人物の気持ちを表す台詞の言い方や場面の様子を伝える地の文の読み方を考えて表現している。 C：台本への書き込みを見ながら、表現の仕方を確かめるようする。 A：登場人物の特徴や心の交流をとらえている。 C：劇への感想交流から視点を見つけるようする。

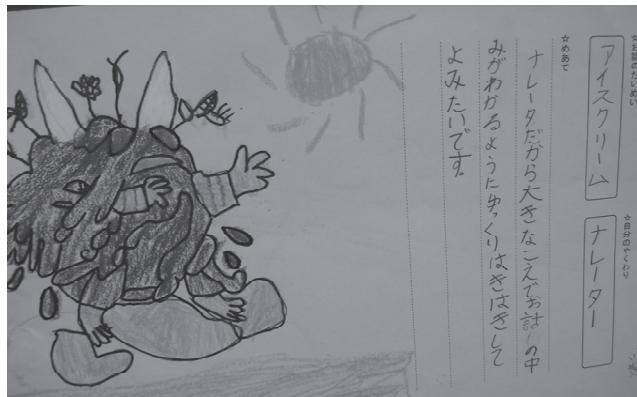
主たる学習活動	留意事項	時
(1) 地域の図書館のお話会をきっかけとして、アーノルド＝ローベルの『ふたりは』シリーズと出会い、物語に関心をもつ。	・事前に図書館と打合せをして、意図的に学習材を紹介してもらうとともに、シリーズをまとめて借りて一人一冊本を手にできるように読書環境を整えるようにする。	1 ・ 2
(2) 授業参観のときに「がまくん・かえるくんげきじょう」を開き、音読劇をするという目的をもって学習計画を立てる。	・発表の場と相手を意識することで、目的をもつて読もうとする意欲を高めるようにする。	
(3) 「がまくん・かえるくん」が主人公の4冊に収録されている20話をお話ラリーを楽しみながら読む。	・20話を自分から読むことを目指すが、個の読む力に応じて好きな話を数点選んで読んでよいことにする。	3 ・ 4
(4) カードに自分が読んだ話をチェックしたり、おもしろいと思った話について一言感想を書いたりする。	・シリーズの中の話を一覧にして、読んだ話のおもしろさを自分の視点からチェックするカードを用意して、お話ラリーを楽しむようにする。	
(5) アニマシオン（読書クイズ）によってシリーズの読みを確かめ、物語のおもしろさを交流する。	・アニメーションの手法を取り入れ楽しみながら話の内容をとらえたり、作者の細やかな表現やユーモアに気付いたりすることができるようになる。	5
(6) シリーズの中から、自分が好きな話を選び、選んだ訳を話す。	・なぜその話を選んだのか訳を付けて話すことで、めあてをもって劇作りに取り組むようになる。	
(7) 音読劇として自分が演じる話を決め、選んだ話ごとのグループで発表の仕方を考えたり、役割を決めたりする。	・選んだ話ごとに3～5人のグループを作り、発表方法や、がまくん・かえるくん・ナレーターなどの役割を相談する。	6 ・ 7
(8) 話のおもしろさを伝えるための読み方を考えて書き込み、台本を作る。	・絵本の表記を学年配当漢字を考慮して直したもの用意し、音読記号を付けたり書き込みをしたりして台本の形にする。	8
(9) グループでアドバイスしながら、音読の仕方を工夫する。	・会話文と地の文の読み方を意識して読むようになる。	9 ・ 10
(10) アドバイスを基に、発表のリハーサルをする。	・発表者が自分はどういう風に読んで話のおもしろさを伝えたいかを話してから音読することで、聞き手が視点をもって相互評価するようになる。	
(11) 「がまくん・かえるくんげきじょう」を開いて発表する。	・発表の後に保護者や友達の感想を聞き、話のおもしろさがどのように伝わったかを確かめ、肯定的な相互評価・自己評価へつなげる。	11 ・ 12
(12) 学習を振り返り、今後の読書計画を立てる。	・活動への充実感から、他のシリーズの読むことへの意欲をもつようになる。	

## 8 使用するテキストについて

「読解力」の指導のねらいのウ（ア）では、「同じ作者の他の作品を読む」「同じシリーズの本を読む。」などの工夫が求められている。そこで、今回の授業では同じ作者が書いた二人の主人公が展開する話のシリーズ4冊をテキストとして使用し、児童の読みを広げていく学習を行う。このように4冊の児童書に収録されている20話をテキストとして使うことで、話の展開を比べたり、登場人物の特徴をつかんだりしながら話のおもしろさを味わうとともに、児童相互で多様な読みを交流することができると考えられる。

## 9 この授業を行う際のポイント

- (1) 導入でのテキストとの出会いを大切にし、区図書館との連携を図り、お話会で司書の方からの紹介をきっかけに本シリーズに関心をもつようとする。
- (2) 読書環境を整備して教室に児童数以上の本を揃えるとともに、シリーズの英語版の原本や、がまくんとかえるくんの人形を展示するコーナーを設けて本を読みたくなるような雰囲気作りを心掛ける。
- (3) アニマシオンという手法を用いて、クイズを楽しみながらシリーズの読みを確かめ、物語のおもしろさを味わうようにする。その際に、指導者は学習材を読み込んで分析することの大切し、児童が粗筋や登場人物の言葉などに着目し、それぞれの話の特徴や主人公の性格について考えることを意図する。
- (4) 本時では、児童が考えたクイズをグループ内で互いに出し合いながらシリーズの話を楽しむ活動も取り入れる。



イ (ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

## 数 学 科 学 習 指 導 案

筑波大学附属中学校 水谷尚人

1 日時 2007年2月23日（金） 13：20～14：10

2 学級 3年A組（45人）

3 教科の視点から育成を目指す能力

(1) 生徒の学習状況から

事象の中に関数の関係を見いだし、表現する力。

(「数量関係」3年)

(2) 評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量、図形などについての知識・理解
①具体的な事象を調べることを通して、一次関数とは異なる数量の関係があることが分かり、こうした見方や考え方をもとに数学的に考察したり、意欲的に問題の解決に活用しようとする。	②具体的な事象の中から関係や法則を的確にとらえ、関数のとる値の変化の割合に目を向けるなど、変化や対応についての見方や考え方を一層深め、事象を数理的にとらえ、見通しをもち論理的に考察することができる。	③関数 $y=ax^2$ の意味、変化の割合とグラフの特徴、問題解決への利用の仕方を理解している。

4 「読解力」の視点から育成を目指す能力

④テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成。

[指導のねらい イ (ア)]

5 題材名

水そうに入れる水の水面の高さと時間について

6 題材について

(1) 教科の視点から

関数では、式の形ばかりにこだわるのではなく、「まず事象を大まかに捉えること」が日常事象と数学を結ぶ大切な視点となる。いろいろな形の水そうに水を入れて高さの変わり具合を調べるという具体的な事象をもとにグラフをかき、それらを分析するなどの体験から関数というものを実感する。

(2) 「読解力」の視点から

本課題は、現実事象をグラフに表し、それを利用してまわりにわかりやすく自分の考えたことを伝えることを求める。説明においては、「広い（狭い）」「速い（遅い）」「傾き（急）（なだらか）」などの日常用語がキーワードとなり、これらの語を使い、数学的に説明する経験を多く積ませたい。

## 7 能力育成のプロセス（2時間扱い 本時は1時間目）

次	時	題材の評価規準（①から④は 3(2)、4 の評価規準の関連する番号）	Aの状況を実現していると判断する際のキーワードや具体的な姿の例、ならびにCの児童への手だて
1	1	<p>②具体的な事象の中から関係や法則を的確にとらえ、関数のとる値の変化の割合に目を向けるなど、変化や対応についての見方や考え方を一層深め、事象を数理的にとらえている。</p> <p>④テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成。</p> <p>①具体的な事象を調べることを通して、一次関数とは異なる数量の関係があることが分かり、こうした見方や考え方をもとに数学的に考察したり、意欲的に問題の解決に活用しようとする。</p>	<p>A : 具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、関数の関係を見いだすことができる。</p> <p>C : 関数としてわかりやすい比例の関係について具体的な例を用いて考えさせる。</p> <p>C : グラフ全体で考えさせるのではなく、部分に分けて考えるよう促す。説明の際には、ゆっくり復唱し、自分自身が話している内容をモニターできるようにする。</p> <p>A : 具体的な事象の中には、変化の割合が一定でない事象もあることに気付き、積極的に考察しようとする。</p> <p>C : 具体物を実際に手に持たせるなど、事象に対する興味・関心を高めるようにする。</p>
	2	③関数の意味、変化の割合とグラフの特徴、問題解決への利用の仕方を理解している。	<p>A : 関数の意味を比例や一次関数と関連づけて理解している。</p> <p>C : 前時の学習内容を振り返り、細部にこだわらずグラフの大まかなとらえ方ができるようにする。また、簡単な事象に立ち返り、そのグラフの書き方を示すようにする。</p>

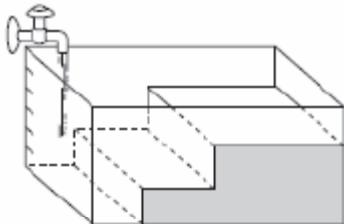
主たる学習活動	留意事項	時
<p>(1) 簡単な形の水そうについて、時間と水面の高さの関係をグラフとして表すことができるか確認をする。</p> <p>(2) ある事象に対して様々なグラフ（間違っているものを含む）を例としてあげ、「正しい（正しくない）」についての挙手後、なぜあっていい（違う）のかについて自分の考えを記入する。</p> <p>(3) 教室内で出された意見の確認を行う。</p> <p>(4) 作成したグラフの発表の後、どうしてそのようなグラフになるのか説明を加える。</p> <p>(5) 水そうを花瓶など複雑な形に変えて、時間と水面の高さの関係をグラフとして表す。</p> <p>(6) 花瓶を細かな部分に分けて、グラフに表す方法を分析的に考える。</p> <p>(7) 発表されたグラフの比較・検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年次に学習した比例のグラフを思い出させながら本時の課題の理解を深めていく。</li> <li>・正しくないことを言う場合には、正しくない部分を挙げて、具体的に何が正しくないのかをわかりやすく発言するように促す。</li> <li>・グラフの説明の際に、「広い（狭い）」「速い（遅い）」「傾き（急）（なだらか）」等の用語を適切に使用できているかどうかを確認する。</li> <li>・今回は、現実事象と結びつけること、グラフの変化を説明することの2点に主眼を置いているので、式の形で表すことができないがあえてこのような課題を扱った。</li> <li>・なぜそうなるのか（ならないのか）を根拠をもって、論理的に説明していく。</li> </ul>	1
<p>(8) 丸底フラスコなどの例を用いて学習の振り返り。</p> <p>(9) グラフの傾きなどに関してまとめる。</p> <p>(10) グラフをもとに水そうの形を想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を確実に理解しているかを確かめる。</li> <li>・事象からグラフを作成したのとは逆に、グラフから事象を想像する。順逆両方向確実にできて確かな理解を得るようにする。</li> </ul>	2

## 8 使用するテキストについて

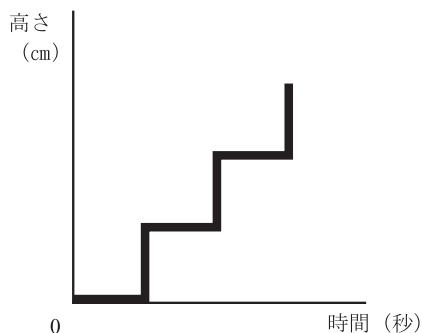
「読解力」の指導のねらいのイ（ア）では、テキスト（この場合はグラフ）を利用して自分の考えを表現することが求められている。数学においても様々な現実事象を式、グラフ、表、図など非連続型テキストを用いて表現し、分析の対象とすることは重要な活動である。事象をこれらテキストに表すこと、逆に図表などから事象を連想することなど、現実場面と数学の世界を行き来する経験を多く積み、身のまわりの事象を数学的に考察する能力を高めたい。また、図や表を用いて表現することで視覚的に捉えやすくなり、まわりの人々に考え方を説明する際にもより効果的になると説くことを実感させたい。そこで、今回の授業では、様々な形の水そうに水を入れるという事象から水を入れる時間と水面の高さについての関係をグラフであらわすこと、逆にグラフとして表されたものを読み解く活動を中心に据えて授業を計画した。

(授業で考える事象とテキスト)

(課題 1) 下のグラフは正しいのだろうか？



(H16 特定の課題に関する調査より)



(課題 2)

左のような花瓶に水を入れていきます。この花瓶に一定の割合で水を入れていきます。水を入れてから満水になるまでの時間と水面の高さを表すグラフを描きたいと思います。

まずは自分で大まかにグラフを描いてみよう！

## 9 この授業を行う際のポイント

- (1) グラフを用いて表現する能力を高めるためにも、なぜそうなるのか（ならないのか）についてゆっくりと考え、他人に説明する中からすじ道を立てて説明する方法を理解できるようにする。
- (2) 事象を観察する中から、まずは大まかに予想するという活動を取り入れる。その予想をもとに自分の考えが正しいかどうかを根拠を示しながら自身で発見できるようにする。
- (3) 「広い（狭い）」「速い（遅い）」「傾き（急）（なだらか）」などの日常用語が授業におけるキーワードとなる。これらの語を適切に使い、数学を通して周りの友人に説明していくという経験を多く積ませていくことに主眼を置く。言語的な表現が拙い場合も、指導者はそのまま受け入れ、徐々によりよい表現へと高めていくようにしたい。
- (4) 「傾き」など数学として定義されている語句の中で、日常よく用いられるものについては、その相違などもはつきりとさせたい。

## ア (ウ) 課題に即応した読む能力の育成

### 保健体育科 学習指導案

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

末岡洋一

1 日時 2007年2月23日（金） 13：20～14：10

2 学級 2年〇組（〇〇人）

3 教科の視点から育成を目指す能力

#### (1) 生徒の学習状況から

自分が身に付けていたり技能・知識を活用しながら、テキストに書かれている情報を短時間で分析的な読みを行うことができる力。

#### (2) 評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動について 知識・理解
①柔道の特性に関心をもち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとする。 ②伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度で練習や試合をしようとする。	③自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫している。	④柔道の特性に応じた技能を身に付けている。 ⑤相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。	⑥柔道の特性や学び方、技術の系統性・構造、合理的な練習の仕方を理解し、書き出している。 ⑦試合や審判の方法を理解し、知識を身に付け、説明している。

4 「読解力」の視点から育成を目指す能力

⑧課題に即応した読む能力 [指導のねらい ア (ウ)]

5 単元 「武道（柔道）」 4時間目

6 単元について

#### (1) 教科の視点から

「柔道」という単元は、一見堅苦しいイメージがある。それは「我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される」<sup>1</sup> からに他ならない。他のスポーツの扱い方とは違うところで、一本筋が通っているところがあるということでもある。その筋(道)に興味関心(本校保健体育科では、この姿勢をもつことができる力を『向き力』とネーミングしている)をもたせたい。少しでも武道独特の「理合い」にもふれることで面白さを感じ、より一層の興味関心の高まりを実践への意欲に繋げられることをねらう。

#### (2) 「読解力」の視点から

目前にいる相手からいかに「一本」をとるかに、「柔道」の目的がある。その単純明快な目的が、実際に相手と組み合うと、実は難解なものであることを実感する。そのジレンマを克服するためのヒントを、「テキスト」を吟味する(読み解く)ことから得る。その機会を有効にするためには、「テキスト」の内容が生徒の思考の対象となっているものであることが必要となる<sup>2</sup>。吟味は、短時間でその情報収集や分析をするようにする。また、自分の考えを仲間同士で共有し、学び合うことで実践に繋げていく。

\*1 文部科学省『学習指導要領 解説-保健体育 編-』3刷 2005 p.55

\*2 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 FY プロジェクト編『「読解力」とは何か』三省堂 2006 p.76

7 能力育成のプロセス（10時間 本時は4時間目）

時	単元の評価基準（①から⑧は3（2）・4の評価規準の関連する番号）	Aの状況を実現していると判断する際のキーワードや具体的な姿の例ならびにCの生徒への手だて
1		
2	②伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重する態度を身に付けています。	<b>A</b> ：教示に対して関心をもち、積極的に行動する。 <b>C</b> ：特性、礼法を徹底することは、練習や試合を楽しむことにつながることを理解させる。
3	③自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。 ④場面に応じた技能を身に付けています。 ※①については3時間目以降隨時観る。	<b>A</b> ：技のポイントを示すことができる。 <b>C</b> ：ポイントを発見できるヒントを示す。 <b>A</b> ：合理的な投げ方ができる。 <b>C</b> ：準備局面（10(5)）への意識をもたせる。 準備局面から主要局面への調和。
4	⑧課題に即応した読む能力を身に付けています。	<b>C</b> ：自分が身に付けている技能・知識を活用するようにアドバイスする。技の合理性を感じ取ることができるヒントを見つけさせる。
5	⑥技術の構造を理解した上で、書き出している。	<b>A</b> ：課題克服のために、自分自身がどのような練習に取り組んだらよいか書き出している。 <b>C</b> ：技の意味や方法を確認させる。
6	③自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。 ⑦試合や審判の方法を理解して実践している。	<b>A</b> ：技のポイントを示すことができる。 <b>C</b> ：ポイントを発見できるヒントを示す。 <b>A</b> ：自主的で正確な審判を行うことができる。 <b>C</b> ：試合や審判の仕方を復習、確認するようにアドバイスする。
7	③自分の能力に適した技を使って試合の仕方を工夫している。 ⑦試合や審判の方法を理解して実践している。	<b>A</b> ：技のポイントを示すことができる。 <b>C</b> ：ポイントを発見できるヒントを示す。 <b>A</b> ：自主的で正確な審判を行うことができる。 <b>C</b> ：試合や審判の仕方を復習、確認するようにアドバイスする。
8	⑤相手の動きに対応した攻防を展開して試合ができる。	<b>A</b> ：状況に応じて習った技を使うことができる。 <b>C</b> ：かかり練習や約束練習で技に磨きをかけさせる。
9	⑤相手の動きに対応した攻防を展開して試合ができる。	<b>A</b> ：状況に応じて習った技を使うことができる。 <b>C</b> ：かかり練習や約束練習で技に磨きをかけさせる。
10	④場面に応じた技能を身に付けています。 ※⑥は、「個人ノート」等の記述でも観る。	<b>A</b> ：合理的な投げ方ができる。 <b>C</b> ：準備局面（10(5)）への意識をもたせる。 準備局面から主要局面への調和。

主たる学習活動	留意事項	時
I 柔道の特性、安全への深い理解 II 礼法（立礼・座礼・正座の意味） III 1年生の復習 part1[受け身・抑え技]	§ 体ほぐし・体つくりと関連させる。 • challenge the バック転・宙 • 逆転立ち • 帯引き	1
I 1年生の復習 part2[抑え技・既習技] II 「受け身」テスト III 『投げながら基本動作を身に付けよう』カード	§ このテストは、あくまでも診断的評価。テストすることで自己評価、課題設定ができるることをねらう。 § 基本動作と投げ技の関連を感じ取る。	2
I 新技の理解・習得への取り組み II 押え技稽古 III 約束練習(投げ込み)	§ 新技〈手技〉体落とし 〈足技〉出足払い § 練習からかけやすい技を感じ取ることができるようにする。 § ④は、形成的評価。	3
I 新技の理解・習得への取り組み II テキストから「力(柔)の用法」について吟味する。 ○テキストから「重心」位置の大切さを読み取る。 ○自分の投げ技との比較をして課題をさぐる。 III 自由練習(乱取り)	§ 〈足技〉小内刈り 膝車 〈腰技〉払い腰 § 「力(柔)の用法」については別紙参照。 § 自由練習では、安全配慮の確認をする。	4
I 新技の理解・習得への取り組み II 『投げ技の学び』カード III 自由練習&試合	§ 得意技の発見への取り組みは、同時に課題発掘の取り組みと言える。解決への糸口を見つける。 § 試合のために必要な知識(ルール・安全)の確認をする。	5
I 新技の理解・習得への取り組み II 自由練習&試合 III 『学習課題：得意技の発見』カード	§ 試合の方法…3審制ゲーム(別紙参照) § 得意技の発見、課題の克服を考えながら練習できるようにする。	6
I 試合 II 『学習課題：得意技の発見』カード III 「受け身をとる」と、「受け身をとらせる」こと	§ 「技の連絡」を意識した試合を心がけさせる。 § 「受け身をとる」と、「受け身をとらせる」ことを重視する。	7
I 試合 II 『学習課題：得意技をかける機会』カード III 「受け身をとる」と、「受け身をとらせる」こと	§ 「技の連絡」を意識した試合を心がけさせる。 § 「受け身をとる」と、「受け身をとらせる」ことを重視する。	8
I 試合 II 『試合分析』カード III 「受け身をとる」と、「受け身をとらせる」こと	§ 「技の連絡」を意識した試合を心がけさせる。 § 自分の課題の再発掘。 § 的確な自己評価・相互評価ができるようにする。	9
I 「受け身」(評価書き換え)テスト II 「技の連絡」テスト	§ 出足払いに対して受け身をとる。 § リズムとタイミング調和させた技の出し方ができるようにする。	10

## 9 「読解力」育成に使用するテキスト<sup>\*3</sup>について

- (1) 柔の原理を利用することによって、力も体格も小さい人も、力や体格が大きな人を投げることができることを示した図（池部釣画）

※図については脚注参照

(1) 柔の原理を利用することによって  
力の小さい小人も巨人を投げること  
ができる。

- (2) 柔道における力学の応用の図

※図については脚注参照

(2) 【右図】どんな重い扉でも、これに取り付けたハンドルを持って動かすと、わずかな力で自由に開閉できる。相手を支点の周りに回転させる場合には、支点から遠い場所に力を加えるほど、小さい力で回転させることができる。しかも相手に直角の方向に力を加えなければならぬという運動の法則も柔道では応用されている。  
(2) 【左図】投げられようとする者の重心線が基底面の外に飛び出して崩れ去り、進むことも退くこともできない体勢である。このように相手が一個の剛体になった瞬間に技を掛けすると小さい力でみごとに投げができる。

## 10 この授業を行う際のポイント

- (1) 話し合いや的確な相互評価(他者に課題を見つけてもらう)のできる『風土』作りをする。  
(2) 授業では、単元を通して学習したこと、それを行ったときに感じたこと、考えたことを「個人ノート」を活用して、書き蓄えておくことが大切である。そこで身に付いてきた知識量が、読み解く力の基底となる。  
(3) 単に「テキスト」を見るだけでなく、学習した知識、自分自身の経験を踏まえて、「見る」から一步進んだ「観る」姿勢で感じ取る力を大切にしたい。また、「テキスト」を読み解く機会は一回限りで終わらせず、読み返す機会をもたせたい。そうすることで、新たな柔道の技能に対する自分のイメージや、考えが浮かんでくることが考えられる。  
(4) 運動は見ただけでわかったつもりになっていても、なかなか実践では思う通りに行かない場合が多い。特に柔道では対人的技能を有するので、相手に応じた有効な動きを瞬時に求められる。だから、自身の課題設定や課題解決とともに、理にかなった動きが大切であることが「解る」機会をつくる。  
(5) マイネルは、非循環運動（单一の経過で運動意図が達成できる場合）は、空間的経過を時間的経過にしたがって準備局面・主要局面・終末局面という3局面構造に分節できるとしている<sup>\*4</sup>。柔道において考えれば、準備局面は「崩し」・「体さばき」、主要局面は「作り」・「掛け」ということとなる。保健体育（体育分野）において「読解力」を育成しようとするとき、特にこの主要局面（運動課題が解決される局面）を読み解くことは、技能が向上したり、「できる」実感のもてる学習の一助となる。  
(6) 柔道では、その特性から準備運動とともに体ほぐしの運動を通して、仲間との交流が親密となる。そこでは、いろいろな生き方、考え方につれて触れる機会を設けることも可能である。仲間と豊かにかかわる運動を考えたり、活用したりする力も育成することができる。

\*3 講道館『決定版 講道館柔道』(株)講談社インターナショナル 1995 (1) p.18 (2) p.45

\*4 金子朋友『運動学講義』 大修館 2003 p.94

# V部 「読解力」向上のための 学校としての取組

## 横浜市立桜岡小学校

### 言葉が輝く 心が輝く ~ 一人ひとりの「読解力」を育む ~

#### 1 はじめに

明治45年創立の本校は、横浜市の副都心として急成長してきた港南区の中心である上大岡駅周辺を学区としている。学校教育目標「自ら輝く 共に輝く」を受け、国語科重点研究では「言葉が輝く 心が輝く」と研究主題を設定した。自ら言葉で的確に表現して心を伝えることで、互いに理解し合って共に輝きを増す。豊かな言葉に触ることで、心も豊かになって輝きを増す。子どもたちのこのような姿を具現化することを目指し、平成18年度より読解力育成を視点とした国語科重点研究に取り組み始めた。

#### 2 取組の実際

##### (1) 授業研究の視点

- 目的を明確にして読んだり聞いたりすることで、一人ひとりの読む力・聞く力を高める。  
実践例 第4学年：テーマの共通性を考え、物語を比較して読む事例 <視点ア(イ)>  
～ 読書会を開こう 「一つの花」「すいかの種」～
- 実生活や行動と関連付けて書いたり話したりすることで、一人ひとりの書く力・話す力を高める。  
実践例 第5学年：テーマを基に資料を活用して調べ、レポートを書く事例 <視点イ(ア)>  
～ 5年〇組 言葉の調査隊「言葉の研究レポート」～
- 読書生活を豊かにする国語科学習を創造することで、一人ひとりの読書への興味・関心を高める。  
実践例 第2学年：同じ主人公のシリーズの本を楽しんで読む事例 <視点ウ(ア)>  
～ がまくん・かえるくんげきじょうへようこそ (シリーズ4冊) ～

##### (2) 年間指導計画の作成

- 国語科年間指導計画に、読解力育成の視点を位置付ける。「読解力を高める指導」の欄では読解力育成の意図を簡潔に書き、読解力育成のねらいに示された記号を示す。

巻 月	単元名	教材名	学習指導要領の内容				「読解力」を高める指導 主な活動と「読解力」育成の意図
			A話・聞	B書く	C読む	言語事項	

##### (3) 言語環境づくり

- あいさつ・言葉遣いの意識
  - ・生活目標の中で、「あいさつ・言葉遣い」にかかる目標に重点をおく。
  - ・「あいさつ運動」の提案を児童代表委員会で検討し、登校時のあいさつを励行する。
- 図書館の利用・活用
  - ・地域図書館による「お話し」や、保護者の読み聞かせボランティアなどの協力を得る。
  - ・児童の図書委員会による読書週間の取組として、読書郵便や読書クイズなどを行う。
- 校内掲示・教室環境の工夫
  - ・季節や行事に合わせて掲示板活用計画を立て、校内の掲示板を計画的に整備する。
  - ・学習意欲を喚起するような教室掲示を工夫する。

#### 3 まとめ

今年度は、国語科での実践に読解力育成の視点について共通理解を図ることを主とし、指導の過程で読解力の視点を意識するようになった。実践において、読解力を育むための単元構成の工夫や、目的に応じた読む力・書く力の育成、児童主体の学習展開などが課題となっている。さらに、「読解力は国語だけでなく、各教科、総合的な学習の時間など学校教育活動全体で身に付けていくべきものであり、教科の枠を超えた共通理解と取組の推進が必要である。」ということを踏まえ、徐々に取組を他教科等に広げていきたいと考える。

(高木 篤子)

## PISA型「読解力」の育成をすすめる学校における教育研究

研究主題：PISA型「読解力」育成をもとにした全教科の学力向上をめざして－「ことばの力」を活用した授業改善を通して－

### 1 はじめに

本校は、全校生徒 95 名の小規模校である（平成 17・18 年度広島県「ことばの教育」パイロット校事業の研究指定）。教育課程外で年間 35 時間のことばの時間を設定し言語技術を習得させることでことばの力を向上させ、それを活用して全教科で PISA 型「読解力」育成につなげていく研究を行った。

### 2 取り組みの実際

#### （1）用語と考え方の整理

研究をすすめるにあたり、次のことについて文献等をもとに定義や考え方を整理した。

- ①ことばの力
- ②ことばの力に影響を及ぼす 3 つの力
- ③PISA 型「読解力」
- ④PISA 調査における読解力の問題の特徴
- ⑤PISA 調査（読解力）の結果を踏まえた指導の改善
- ⑥PISA 型「読解力」育成と広島県「ことばの教育」との関連

#### ⑦「言語技術」の指導

#### （2）各教科で PISA 型「読解力」を理解する

各教科で次の点について理論研修を行い、レポートに内容をまとめた。

- ①学習指導要領をもとにした各教科の教科目標の再確認
- ②本校の定める「ことばの力」と各教科における学習内容と評価の観点をリンクさせた表の作成
- ③PISA 型「読解力」育成のための指導の改善の方向 7 項目とそれに該当する各教科の学習内容及び評価の観点をリンクさせた表の作成
- ④校内研修（理論研修、授業研、演習）

#### （3）学校全体としての共通の取組み

- ①PISA 型「読解力」育成のための指導の改善の方向 7 項目と各教科の目標をリンクさせた授業の工夫（研究授業、公開授業）
- ②PISA 型「読解力」育成を視点を取り入れた定期テストの問題を導入し、問題集を学校としてまとめる。
- ③テキストをもとに自分の意見を持ち、意見交流をしながら授業を進める「意見交流型授業」への移行
- ④授業内で意見交流を活性化するための「発表プラカード」の導入
- ⑤「ことばの力」の基礎を身に付けるために言語技術指導を「ことばの時間（本校名称：ことば道場）」の教育課程外年間 35 時間の実施
- ⑥朝の HR を使った「朝の思考表現道場」（言語技術習得のための繰り返し学習）の実施

### 3 まとめ

今後の課題は次のとおりである。

- ①意見交流型の授業は導入しやすい教科とそうでない教科が明らかになった。授業内のバランスの良い設定を模索する。
- ②確かな技能の習得には「ことばの時間」のような技能習得の授業が必要である。

### 本校で提供できるもの

- PISA 型「読解力」育成のための問題集
- 本原稿で紹介した内容の詳細を記した研究紀要
- 言語技術習得のための「思考表現道場」問題集
- その他お問い合わせには可能な限り資料、視察の受け入れをしております。

Tel : 0846(26)0929

E-mail : tadanoumima-j@hiroshima-c.ed.jp

(渡部 光昭)

## プロジェクト研究から学校全体研究に

### 1 はじめに

横浜国立大学教育人間科学部附属の研究推進校。各学年3学級、計9学級。大都市に近接している生活環境で育った生徒文化・学習の環境は整っている。PISA型「読解力」の研究への取り組みは「国語力向上モデル事業」の研究指定を受けたことがきっかけとなり、平成17年度から始まる。ここでは平成17、18年度の実践についてまとめる。

### 2 取り組みの実際

本校の取り組みは、次の三つの段階を経て現在に至る。

#### ①「読解力」の理解

まず、PISA型「読解力」の理解を進めるための研究会を持った。指導の改善の方向で示されている「学習指導要領のねらいとするところの徹底」と「読解力は、国語だけではなく、各教科、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体で身に付けていくべきものであり、教科等の枠を超えた共通理解と取組の推進が重要である」という文部科学省の示す方向性を踏まえ、全職員で共通して「読解力」の理解に取り組んだ。

#### ②「読解力」育成のための実践

文部科学省の「読解力向上に関する指導資料」に示されている「(1)指導のねらい」で述べられている7つの改善の方向に沿った指導を各教科の学習活動の中で具体化していくことに取り組んだ。

この取り組みの最大の要点は、「読解力」向上のための7つのねらいと各教科双方の

「つけたい力」から授業を構想するという点である。それに適した指導案を提案した。

2月にプロジェクト研究として研究発表会を行い、この時点までの成果を書籍としてまとめた。

また、「読解力」の評価問題を作成して1、2年生を対象に3月に実施した。

授業評価を行うことで、生徒の実情と授業改善のポイントを明らかにしていった。

#### ③実践をもとにしたカリキュラム改善

前年度の実践をもとに、授業改善を行いつつ、「読解力」を核としたカリキュラム・マネジメントの実践に取り組んだ。

6月には、全教科（総合的な学習を含む）の授業において、「読解力」の育成を目指す授業実践を発表した。その際に、「読解力」と「教科」双方の「つけたい力」から授業を構想するための指導案を提案した。また、「読解力」の7つのねらいを観点として明確にした各教科の年間指導計画と7つのねらいを軸にした学年ごとの一覧表を提示した。

また、2月には2年間の取り組みをまとめた書籍としてまとめた。評価問題は全学年で実施をし、経年比較を試みた。

### 3 まとめ

これまでの授業を見直すための観点としてのPISA型「読解力」の有効性が実感できた。取り組みは始まったばかりであり、今後のカリキュラム改善の実践をさらなる課題としたい。

(高橋 励)

## PISA型「読解力」に関するQ&A ②(指導・実践編)

Q 1 : PISA型「読解力」を生徒に身につけさせるためには、まずどんなことからはじめたらよいでしょうか？

A 1 : 新しい教材や指導法を独自に開発したり考えたりする必要はありません。まずは自分のこれまでの指導や実践、身近にある教材をふり返ってみるとことからはじめましょう。

PISA型「読解力」の定義やPISA調査のねらいから考えると、PISA型「読解力」は、従来の国語科で扱ってきた「読解力」とは大きく異なるということをまず第一に全教科の職員がとらえる必要があります。その上で、これまでにそれぞれの教科や領域で積み上げてきた指導や実践をふり返ってみて、PISA型「読解力」の育成と関連のある内容を洗い出してみるとよいでしょう。また、全教科の教科書に掲載されている教材を、PISA型「読解力」の視点から見直してみることも大切でしょう。

例えば、社会科や総合的な学習の時間で調べ学習をした成果をA4のレポート1枚にまとめたとします。おそらくそこにはなんらかの「資料」が提示されるはずです。その「資料」そのものが適切であるかどうか、また、その「資料」の用い方が適切であるかどうかを考えさせることは、PISA調査の読解プロセスという「熟考・評価」であり、これまでも行ってきたはずです。「熟考・評価」のプロセスを意識した単元を新たに考えるというのではなく、これまで行ってきた実践の中でPISA型「読解力」の指導に使えるものを探すというスタンスをもつことが大切です。

Q 2 : PISA型「読解力」を育成するためには、これまでどのような実践が積み上げられてきているのでしょうか？

A 2 : 本冊子の「Q&A」でも紹介した、

- ①『読解力向上に関する指導資料』
  - ②『読解力向上のための指導事例集』
- の2冊に加えて、
- ③『『読解力』とは何か』 横浜国立大学  
教育人間科学部附属横浜中学校FYプロジェクト編、三省堂、2006
- に多くの実践が掲載されています。これら三冊に共通しているのは、PISA型「読解力」の育成にむけてすべての教科からアプローチを試みている実践例集であるということです。
- さらに、③の続編である、
- ④『『読解力』とは何か Part II』
- では、PISA型「読解力」を意識した年間指導計画や指導案のあり方について提案されています。

Q 3 : PISA型「読解力」を意識した教材を新たに探すときには、どんなことに留意すべきでしょうか？

A 3 : 各教科の指導事項や七つの「指導のねらい」に照らして、生徒に身につけさせたい力をまずは明確にしましょう。その上で教材を吟味するようにしましょう。教材を探すときのポイントとしては、①生徒の実生活や身のまわりにあるメディア、②主たる教材と類似のテーマで書かれたテキスト、③過去の生徒作品、等に着目するとよいでしょう。

(黒尾 敏)



## あとがき

平成18年度、19年度の二年間にわたって文部科学省より委嘱を受けていた、読解力向上プログラムに係わる「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成のための事業が終了しました。

この事業は「わかる授業実現ための教科指導力向上プログラム」として、とくに PISA 型「読解力」の育成をどのように行つたらいいのかを、全国の各学校の取り組みを先導するものとして実践研究を積み重ねてきました。その成果として次のことがあげられるように思います。

- (1) PISA 型「読解力」というのは、国際標準の学力であり、今後も授業の中で意識して育成を図ることが重要であること。
- (2) PISA 型「読解力」育成にあたっては、各教科のカリキュラムに「読解力」育成のための視点を位置づけることが効果的であること。
- (3) 文部科学省が「読解力に関する指導資料～PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向」（平成17年）で示した7つの「指導のねらい」をもとに、全教科で取り組んだ具体的な実践を示したこと。
- (4) PISA 型「読解力」をどのように評価したら良いのかという声に応え、授業中の評価規準の設定の仕方を示したこと。さらに、具体的な評価問題を作成したこと。
- (5) PISA 型「読解力」を育成をより効果的に図るために、授業のプロセスを重視した指導案を開発して示したこと。

こうした成果の一端を、平成19年2月23日（金）に、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校を会場として発表会を行い、全国に発信することができました。800名近い参観者があり、PISA 型「読解力」育成に対しての関心の高さに驚きました。

私たちがこの事業に取り組み始めた当初は、PISA 型「読解力」育成の重要性について認識があまり十分でなかったことを振り返ると、この2年間で急速に PISA 型「読解力」育成の取り組みが全国の小中高の教室に広がったことがわかります。

今回の冊子は、そうした各教室での取り組みを支援し、PISA 型「読解力」の育成をさらに充実したものにするものでありたいと願っています。

この事業の推進にあたり、文部科学省の田中孝一主任視学官、井上一郎調査官をはじめ文部科学省の多くの方々に大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

平成19年3月31日

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

岩間 正則

学力向上拠点形成事業・文部科学省委嘱「わかる授業実践のための教員の教科指導向上プログラム」研究会（国語）読解力向上プログラムに係わる「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成委員会

1 委員長

高木 展郎 横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

2 「わかる授業研究会」推進委員（6名）

高木 展郎	横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
林 正直	横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
佐藤 公孝	横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
鈴木 薫	横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
岩間 正則	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
高橋 励	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

3 「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に関する課題集」作成委員（42名）

弓場 順枝	北九州市立南丘小学校
安富 江理	横浜市立港北小学校
鈴木 彰	横浜市立大綱小学校
高木 篤子	横浜市立桜岡小学校
井手 次郎	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校
山本 純	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校
茅野 政徳	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校
中村 純子	川崎市立宮前平中学校
小嶋 丈典	藤沢市立片瀬中学校
水谷 尚人	筑波大学附属中学校
渡部 光昭	竹原市立忠海中学校
田沼 良宣	本庄市立本庄東中学校
今村 高治	京都市立衣笠中学校
竹下 恭子	横浜市立中川西中学校
柿崎 順子	横浜市立仲尾台中学校
関谷 育雄	平塚市立金目中学校
黒尾 敏	川崎市立川崎中学校
杉本 直美	川崎市立犬藏中学校
遠藤 広樹	横浜市立横浜商業高等学校
松岡 豊	神奈川県立市ヶ尾高等学校
西村 礼子	東京都立神代高等学校
高松 洋司	北海道立札幌西高等学校
栗本 郁夫	伊勢崎市教育委員会
中村 弘志	静岡総合教育センター
新垣 英一	川崎市教育センター
高橋 励	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
松田 裕行	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
松田 哲治	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
杉山 宙	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
大谷 一	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
三藤あさみ	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
本田 清	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
五十嵐俊也	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
田中 保樹	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
杉山 利行	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
三浦 匠	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
朝比奈 忍	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
西岡 正江	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
山本 優子	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
末岡 洋一	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
杉浦 千恵	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
平間 貴志	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

**学力向上拠点形成事業**  
**「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」**

平成19年3月31日

発行者 学力向上拠点形成事業・文部科学省委嘱「わかる授業実践のための  
教員の教科指導向上プログラム」研究会（国語）読解力向上プログラム  
に係わる「読解力向上のための指導事例集の活用の仕方と読解力に  
関する課題集」作成委員会

代表者 横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター  
高木 展郎

印刷所 横浜大気堂  
〒231-0016  
横浜市中区真砂町4-40  
Tel.045-641-4161

 R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています  
白色度70%再生紙を使用しています